

# 埼玉県立近代美術館年報

令和4年度



ANNUAL REPORT 2022—THE MUSEUM OF MODERN ART, SAITAMA



# 埼玉県立近代美術館年報

令和4年度



ANNUAL REPORT 2022—THE MUSEUM OF MODERN ART, SAITAMA



## ■ 目次

施設	2	広聴・広報・刊行物	77
美術館誌	3	図書資料の収集と公開	81
企画展	4	椅子の美術館	81
田中保とその時代	4	ハイビジョン・コーナー	81
桃源郷通行許可証	11		
戸谷成雄 彫刻	20	トピックス	
MOMAS コレクション	24	[1] ミュージアム・シアターの再開	82
MOMAS コレクション [I]	24	[2] SMF との連携	84
MOMAS コレクション [II]	29	埼玉県立近代美術館フレンド	85
MOMAS コレクション [III]	33	貸館事業	86
MOMAS コレクション [IV]	36	入館者数一覧	89
アーティスト・プロジェクト #2.06	41	名簿	90
サンデー・トーク	43		
収集事業	44		
新収蔵作品一覧	45		
美術資料貸出等一覧			
美術作品の館外貸出	58		
特別利用	59		
教育・普及事業	62		
ミュージアム・レクチャー	62		
ミュージアム・シアター	63		
一般団体対応	63		
ファミリー鑑賞会	64		
子どものためのプログラム			
MOMAS のとびら	65		
夏休みの特別プログラム	67		
ミュージアム・コラボレーション	68		
企画展ワークシートの作成	69		
学校との連携			
教員美術講座	70		
ミュージアム・キャラバン事業	71		
第4回「カラダで・みる、うごいて・みる！」	72		
その他の学校連携事業	73		
博物館実習	74		
美術館ボランティア			
美術館サポーター	75		
教育普及サポート・スタッフ	75		
MOMAS 彫刻ボランティア	76		

---

---

## ■ 施設

敷地面積	35,177㎡
建築面積	2,238㎡
延床面積	8,577㎡
展示壁長	1,440m
建築高さ	17.8m
構造	地上3階、地下1階、鉄筋コンクリート造、 一部鉄骨鉄筋コンクリート造
工期	昭和55年3月28日～昭和57年2月27日
設計	株式会社黒川紀章建築都市設計事務所
開館	昭和57年11月3日

黒川紀章設計の初の美術館である当館の建築上の特色を挙げると、建物全体がグリッド（格子）の立方体により構成されており、入口へのアプローチとして正面のエントランス・ポーチにグレーゾーン（内部と外部との中間領域）と呼ばれる鳥籠状の構造体が鳥のくちばしのようにつき出ている。その四角い形の固さを破るように、ファサード（建物正面）には波状の曲面ガラスがはめ込まれている。

各階に分かれた展示室の一体感を確保するため、建物中央には4層を貫く吹き抜けのセンター・ホールが設けられている。ここは天井から自然光を採り入れるとともに、中空にさまざまな展示物を吊り下げることが可能で、極めて特異な空間としてコンサートなどのイベントにも使われる。

2階の展示室は、前述の波状ガラスによるファサードの一部から、ギャラリーの中に直接外光が入ってくる。これは、密閉して一定不変の人工光線による状態にするという美術館構造の常識を打破する試みである。ここからは北浦和公園の美しい緑を目にすることができ、密閉されることで失われがちな美術館の中での人間性を回復するという意味でも注目される。

開館後の1985-86年には、田中米吉の作品《ドッキング》が外壁など建築と共生するように設置された。

## ■美術館誌

引き続き3密の回避、展示室入場者数の制限など、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底した上で開館し、次のとおり事業を展開した。

### 令和4(2022)年

- 2月5日 企画展「開館40周年記念展 扉は開いているかー美術館とコレクション1982-2022」を開催(～5月15日)。
- 4月9日 「見沼100年構想の会」による緑のボランティアが北浦和公園を整備(以降毎月第2日曜日に実施)。
- 4月30日 「MOMASコレクション[I]」を開催(～8月28日)。
- 5月5日 「埼玉県立近代美術館利用審査会」に書面審査を依頼。
- 6月4日 ポリスコンサートを北浦和公園で開催。
- 7月1日 「第1回埼玉県立近代美術館フレンド理事会」を開催。
- 7月16日 企画展「田中保とその時代」を開催(～10月2日)。
- 7月16日 アーティスト・プロジェクト #2.06「高橋銑」を開催(～10月2日)。
- 7月16日 夏休みMOMASステーションを設置(～8月25日)。
- 8月4日 「埼玉県立近代美術館利用審査会」を開催。
- 8月25日 「第1回埼玉県立近代美術館協議会」を開催(オンライン開催)。
- 9月3日 「MOMASコレクション[II]」を開催(～11月27日)。
- 9月28日 「埼玉県立近代美術館美術資料選考評価委員会」に持ち回りによる審査を依頼(～10月11日)。
- 10月7日 「URAWA美術館コラボレーション2022」に参加(～10月23日)。
- 10月22日 企画展「桃源郷通行許可証」を開催(～1月29日)。
- 11月3日 埼玉県立近代美術館が開館40周年を迎える。

- 11月3日 「埼玉県立近代美術館利用審査会」に書面審査を依頼。
- 11月19日 ミュージアム・カレッジ2022「トランジットー新たな敷居学の提案」を埼玉大学教養学部と共催。
- 12月3日 「MOMASコレクション[III]」を開催(～2月26日)。

### 令和5(2023)年

- 1月27日 「埼玉県立近代美術館美術資料選考評価委員会」に持ち回りによる審査を依頼(～2月6日)。
- 2月8日 「埼玉県立近代美術館利用審査会」を開催。
- 2月15日 「ミュージアム・キャラバン」を青山学院大学系属浦和ルーテル学院小学校で開催。
- 2月25日 企画展「戸谷成雄 彫刻」を開催(～5月14日)。
- 2月27日 「ミュージアム・キャラバン」を所沢市立三ヶ島小学校で開催。
- 3月1日 機器の仕様変更により交通系ICカードによる電子マネー決済の取扱を中止。
- 3月4日 「MOMASコレクション[IV]」を開催(～5月7日)。
- 3月9日 「第2回埼玉県立近代美術館協議会」を開催。
- 3月24日 「第2回埼玉県立近代美術館フレンド理事会」を開催。
- 3月30日 当館「収蔵品検索システム」がジャパンサーチと連携。

## ■ 企画展

令和4年度は、「開館40周年記念展 扉は開いているか—美術館とコレクション 1982-2022」(2022年2月5日～5月15日)、「シアトル→パリ 田中保とその時代」(7月16日～10月2日)、「桃源郷通行許可証」(10月22日～2023年1月29日)、「戸谷成雄 彫刻」(2月25日～5月14日)の4本の企画展を開催した。

当館では開館当初から年間5本の企画展を開催してきたが、令和2年度以降の新型コロナウイルス感染症拡大による企画展スケジュールの大幅な見直しや、令和4年度の予算削減に伴い、開催本数を減らすかたちとなった。

「シアトル→パリ 田中保とその時代」は、当館では25年ぶりの田中保の回顧展であり、アメリカの研究者に協力を仰ぎ、最新の研究成果をもとに田中の画業を読み解く企画展であった。田中の出身地・岩槻の方々が広報面で熱心にご支援くださり、予想を上回る反響をいただいた。

「桃源郷通行許可証」では、6名の現代作家と当館のコレクションとを組み合わせた展示により、コレクションへの多角的なアプローチを試みた。本来は令和2年度開催予定の企画展であったが、新型コロナウイルスの影響等により約2年の延期を経て実現に至った。当初からお声掛けしていた出品作家の方々のご協力により、企画意図や出品作家を変更することなく開催できたのは幸いである。

「戸谷成雄 彫刻」は、埼玉県を活動の拠点とし、国際的に活躍する戸谷の実践を最初期から振り返る企画展である。当館が長らく開催を望んでいた戸谷の回顧展が、出身地の長野県立美術館との協働により、実現するかたちとなった。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う遠方への移動制限は、美術館が自館のコレクションを見つめ直す契機となった。「シアトル→パリ 田中保とその時代」および「桃源郷通行許可証」は、当館のコレクションを核としつつ、収蔵作家研究やコレクション展示の在り方を新しい視点から提示した企画展といえる。

また、年度の後半から対面による関連イベントを、感染症対策を講じたうえで本格的に再開した。「桃源郷通行許可証」ではアーティスト・トークや上映会、ワークショップ、ミュージアム・カレッジを、「戸谷成雄 彫刻」では作品解説会や対談を実施することができた。

## ■ シアトル→パリ 田中保とその時代 Seattle → Paris : Yasushi Tanaka and His Times

- 会期：2022年7月16日(土)～10月2日(日)
- 主催：埼玉県立近代美術館
- 協力：JR東日本大宮支社、FM NACK 5
- 観覧料：一般900円(720円)、大高生720円(580円)
- 入場者数：9,924人
- 広報印刷物：ポスターB2、ちらしA4 / デザイン：北野亜弓 (calamar)
- 担当者：佐伯綾希、吉岡知子

Seattle → Paris:  
YASUSHI  
TANAKA  
and His Times  
The Museum of Modern Art, Saitama  
Jul.16-Oct.2,2022

シアトル→パリ  
田中保とその時代

2022.7.16 Sat.  
10.2 Sun.

埼玉県立近代美術館  
海を渡った画家の軌跡

【休館日】月曜日(7月18日、8月15日、9月19日は例年)  
【観覧時間】午前10時～午後5時30分(展示室への入場は午後5時まで)  
【観覧料】一般900円(720円) 大高生720円(580円) (1)月20歳以上の団体料金  
小学生以下(中学生未満)は観覧料が半額(小学生以下は観覧料が無料) (2)18歳未満の小学生以下は観覧料が半額(小学生以下は観覧料が無料) (3)18歳未満の中学生は観覧料が半額(中学生は観覧料が無料) (4)18歳未満の高校生は観覧料が半額(高校生は観覧料が無料) (5)18歳未満の大学生は観覧料が半額(大学生は観覧料が無料) (6)18歳未満の社会人は観覧料が半額(社会人は観覧料が無料) (7)18歳未満の外国人は観覧料が半額(外国人は観覧料が無料) (8)18歳未満の外国人は観覧料が半額(外国人は観覧料が無料) (9)18歳未満の外国人は観覧料が半額(外国人は観覧料が無料) (10)18歳未満の外国人は観覧料が半額(外国人は観覧料が無料)

〒330-0861 埼玉県さいたま市東区大宮3-30-1 Tel:048-824-0111 Fax:048-824-0119  
E-mail:jsm111@pml.saitama.lg.jp <https://pref.spac.ed.jp/momas/> 〻 〻 〻

B2 ポスター

### ■ 開催趣旨

本展は、画家・田中保(1886-1941)の画業と生涯を辿る回顧展である。田中は埼玉県の岩槻(現・さいたま市岩槻区)に生まれ、旧制浦和中学校(現・浦和高等学校)を卒業した。18歳で移民としてシアトルに渡ると、働きながら絵を学び、画家としての活動を始める。個展の開催や万博への出品を通して地位を確立し、シアトル

美術協会では指導者としても信頼を得た。シアトルで出会った美術批評家、ルイーズ・ゲブハード・カンとは、前衛的な芸術動向への関心を共有したことで仲を深めていく。2人は国籍の違いを乗り越えて1917年に結婚するが、この異人種間の結婚は、アジア系移民の排斥運動が盛んであった当時のアメリカでセンセーショナルに報道された。

1920年にパリに移住した後は、サロン・ドートンヌなどの展覧会に出品を重ねて評価を高め、肖像画や裸婦像といった分野で自らの芸術を開花させる。パリで人気画家となっても、田中の胸中には故国である日本でこそ認められたいという思いがあった。しかし、日本の美術教育を受けず、アメリカで身を立ててきた田中は、生前に日本の画壇から受け入れられることはなかった。1970年代に作品がまとめて紹介されたことで再評価の機を得たものの、その生涯にはなおも多くの謎が残されている。

本展では、当館のコレクションを中心に借用作品を交え、最新の研究成果によって田中の画業を振り返った。あわせて田中が生活した20世紀初頭のシアトルの状況や、パリで同時期に制作活動を行った美術家たちを紹介した。国際化が進み、人の移動がますます活発になった現在の視点から、海を渡って活動した田中の実像を再検証する試みとなった。

## ■図録

- ・規格：A4変型判（縦210mm×横270mm×厚6mm）、48頁
- ・編集：佐伯綾希、吉岡知子（埼玉県立近代美術館）
- ・デザイン：北野亜弓（calamar）
- ・印刷・製本：株式会社ニッショープリント
- ・発行：埼玉県立近代美術館
- ・価格：1,300円（消費税込）
- ・内容：“幻の画家”を解体する—田中保の虚像と実像（佐伯綾希）／田中保の伝記執筆をめぐる研究の旅（デニーズ・B・タナカ）／第1章 田中保、船出する／第2章 シアトルの前衛画家／第3章 肖像画が明かす人間関係／第4章 パリの異邦人、ヤスシ・タナカ／第5章 パリのサロン画家／田中保関連 主要参考文献一覧（佐伯綾希編）／年譜／出品リスト

## ■関連事業

- ・オンライントーク「岩槻出身の田中保画伯を語る」（岩

槻観光委員会×埼玉県立近代美術館）／日時：2022年9月10日（土）18:30～19:45／Zoom開催／出演：佐伯綾希（埼玉県立近代美術館）、高橋真理以（岩槻観光委員会）／無料／参加者35名（事前申込制）

・岩槻郷土資料館講座「田中保とその時代」／日時：2023年1月29日（日）14:00～15:30／場所：岩槻郷土資料館／講師：佐伯綾希／無料／参加者21名（事前申込制）

## ■広報記録

### 〈新聞〉

- ・「雨でも楽しめるミュージアム特集」『埼玉東よみうり』2022年6月17日
- ・小出奈津子「「幻の画家」実像に迫る」『埼玉新聞』2022年8月6日
- ・前田朋子「謎多き画家 田中保に迫る 保存・修復から「作品の生」問う」『東京新聞』2022年8月12日
- ・「日本での名声望んだ洋画家 岩槻から米へ田中保の足跡」『読売新聞』2022年8月21日
- ・「岩槻出身「幻の画家」田中保の軌跡追う」『朝日新聞』2022年9月11日
- ・藤田一人「公立美術館の神髄」『公明新聞』2022年9月14日
- ・山崎恵利花「岩槻出身の画家 田中保 異国での成功と苦悩」『毎日新聞』2022年9月23日
- ・高野清見「画家田中保の生涯探る」『読売新聞』2022年9月24日
- ・「青春スクロール 県立浦和高校」『朝日新聞』2022年11月26日
- ・告知：『埼玉東よみうり』2022年6月24日／『埼玉新聞』2022年7月5日、8月2日／『東京新聞』2022年7月6日／『朝日新聞』2022年7月26日、8月2日、8月16日、9月13日、9月20日／『産経新聞』2022年9月15日、9月16日／『毎日新聞』2022年9月16日

### 〈雑誌、ミニコミ誌等〉

- ・「岩槻生まれの巨匠「田中保」展（7/16～10/2）埼玉県立近代美術館で25年ぶりに開催される」『ら・みやび』No.639、2022年7月11日
- ・佐伯綾希「埼玉県立近代美術館の逸品」『月刊アートコレクターズ』8月号、2022年7月25日
- ・「埼玉県立近代美術館で「田中保」回顧展は「好評」スタート!」『ら・みやび』No.640、2022年8月9日

・「おもしろ人物紹介「美術館学芸員・佐伯綾希さん」」『ら・みやび』No.641、2022年9月9日

・勝田琴絵「REVIEW シアトル→パリ 田中保とその時代」『名古屋市美術館ニュース アートペーパー』第121号、2022年12月1日

・告知：『たまログ』7月号、2022年7月1日／『埼玉往来』6・7月号、2022年7月15日／『月刊美術』8月号、2022年7月20日／『美術の窓』8月号、2022年7月20日／『武州路』8月号、2022年7月20日／『芸術新潮』8月号、2022年7月25日／『ARIFT』8月号、2022年8月1日／『マネジメントスクエア』No.390、2022年8月1日／『彩の国だより』8月号、2022年8月1日／『定年時代』8月号、2022年8月1日／『リビングさいたま』2022年9月9日／『月刊アートコレクターズ』9月号、2022年9月25日

〈テレビ・ラジオ〉

・FM NACK 5『朝情報★埼玉』2022年8月24日  
・TBS ラジオ『金曜ボイスログ』2022年8月26日  
・NHK 教育『日曜美術館アートシーン』2022年9月18日

・テレビ埼玉『ニュース 1155』『ニュース 545』2022年9月29日

〈Web〉

・「シアトル→パリ 田中保とその時代 埼玉県立近代美術館」『レビューとレポート』2022年7月22日

・「IM レポート シアトル→パリ 田中保とその時代」『インターネットミュージアム』2022年7月21日

・前田朋子「謎多き画家 田中保に迫る」『東京新聞 TOKYO Web』2022年8月12日

・「岩槻出身の洋画家・田中保の企画展で垣間見た異国での挑戦と葛藤。埼玉県立近代美術館で10/2まで開催」『もぎたてさいたま情報 BLOG (さいたま観光国際協会)』2022年8月18日

・「岩槻出身の「幻の画家」、田中保を鑑賞しよう」『朝日新聞デジタル』2022年9月1日

・告知：『アートアジェンダ』2022年6月7日／『ファッションプレス』2022年6月8日／『Acore おおみや』2022年6月11日／『ShareArt』2022年6月11日／『Kita-colle ART』2022年6月24日／『BIGLOBE 旅行』2022年6月／『Dokka! おでかけ探検隊』2022年6月／『dメニューニュース』2022年6月／『goo ニュース』2022年6月／『goo 地図』2022年6月／『いこーよ』2022年6月／『ウォーカープラス』2022年6月／『ゆ

こゆこ』2022年6月／『日本旅行』2022年6月／『Tokyo Live & Exhibits』2022年7月5日／『Sfumart』2022年7月11日／『美術手帖』2022年7月12日／『インターネットミュージアム』2022年7月16日／『今見られる全国のおすすめ展覧会 100』2022年7月16日／『ぴあポイント』2022年7月19日／『埼玉高速鉄道』2022年9月1日



展示風景：第1章 田中保、船出する

## ■担当後記

当館における田中保の回顧展は、1997年の「画家タナカ・ヤスシ シアトルとパリにかけた夢」以来、25年ぶりの開催であった。当館では1980年代から田中保の調査研究が進められてきたものの、前回の企画展から期間が空いたこともあり、蓄積された資料の中には適切に検証されていないものもあった。こういった資料を整理するため、過去の企画展を担当した旧職員の久保静雄氏から引継ぎを行いながら準備を進めた。

◆内容面では、限られた準備期間の中でいかに新しい視点を打ち出せるかが課題となった。近年、新聞・雑誌等のデジタルアーカイブ化が進み、インターネット上で多くの資料が閲覧できるようになっている。この恩恵を受けて、田中保に関連する海外の新聞記事など、これまで知られていなかった資料を参照することができた。また、移民という観点から田中の活動を見直すことで、海外で活躍した華やかなイメージの裏側に、外国人としての活動に困難を覚え、日本人コミュニティからも疎外されて苦悩する画家の姿が浮かび上がってきた。こういった視点を取り入れ、従来の田中保像のアップデートをはかった。

◆田中保の生涯を追体験できるような展示を意図して、シアトル時代とパリ時代の作品をだまかに年代順に分

け、5章仕立てでストーリーを感じさせる展示構成とした。20世紀初頭のシアトルの様子などの参考画像もパネルにして掲出し、時代背景をわかりやすく伝えるよう努めた。初めて田中保を知ったという来館者も多く、移民としての苦労や長らく日本で知られなかったことへの驚きや共感の声が聞かれた。作品については、裸婦像の華やかな表現を称賛する感想が多く見られ、田中の作風が現代の観客にとっても魅力をもつものであることを実感した。

◆図録については、コンパクトで手に取りやすく、かつ情報量も十分なものを目指した。ページ数を抑えるため、1ページに複数の作品図版とコラムを入れ込む構成とした。印象的なデザインの力もあって好調に売れ、会期終了を待たずして完売となった。

◆本展の準備を進めるにあたり、2022年1月に田中保と妻ルイーズ・カンについての著書を出版したデニーズ・B・タナカ氏にコンタクトをとった。タナカ氏は日本人と結婚したアメリカ人女性であるが、同じく国際結婚をし、姓も同じ田中保夫妻に興味を惹かれ、本業の合間に研究を始めたという。図録には、タナカ氏が自らの研究の歩みを振り返ったエッセイを掲載している。タナカ氏の惜しみないご協力により、田中保がサンフランシスコの画商に宛てた書簡や、アメリカへの入国記録をはじめとする公的書類など、新しい資料を参照することができた。タナカ氏はルイーズ・カンの生い立ちや人物像についても詳細に調査しており、その成果は本展に活かされている。この場を借りて厚く御礼申し上げたい。

◆田中保の出身地である岩槻の観光振興に携わる方々が本展を熱心にサポートしてくださったのは嬉しい驚きであった。ちらしの配布などの広報活動、地元のフリーペーパーへの記事掲載から、2度の講演会開催に至るまで大変お世話になった。岩槻区役所から田中の油彩画《月光》をお借りできたことも意義深い。また、埼玉高速鉄道でも各駅にポスターを掲出していただいた。本展を通して、郷土の美術家の研究を進めその成果を発信していくことや、地域との連携の大切さを改めて感じた。ご協力くださった全ての方々に心より感謝申し上げます。(佐伯綾希)



展示風景：第4章 パリの異邦人、ヤスシ・タナカ



展示風景：第5章 パリのサロン画家

## ■ 出品リスト

出品番号	作家名	作品名	制作年	技法材質	所蔵
<b>第1章 田中保、船出する</b>					
1	田中保	自画像	1915年頃	木炭、紙	埼玉県立近代美術館
2	田中保	鏡台の前の裸婦	1912-14年	鉛筆、紙	埼玉県立近代美術館
3	田中保	黒シートの裸婦	1915年頃	木炭、紙	埼玉県立近代美術館
4	田中保	ガウンをはおる婦人	1915年頃	木炭、紙	埼玉県立近代美術館
5	清水登之	田中保像	1915年	木炭、紙	栃木県立美術館
6	清水登之	パイプをくわえる男	1913年	木炭、紙	栃木県立美術館
7	清水登之	裸婦A	1914年	木炭、紙	栃木県立美術館
8	清水登之	裸婦B	1914年	木炭、紙	栃木県立美術館
9	清水登之	裸婦C	1914年	木炭、紙	栃木県立美術館
10	清水登之	C嬢の肖像	1915年	油彩、カンヴァス	栃木県立美術館
11	田中保	木立の中の赤い屋根	1913年	油彩、カンヴァス	栃木県立美術館
12	田中保	肘掛椅子に座る婦人	1912年頃	油彩、カンヴァス	埼玉県立近代美術館 令和3年度浅子クーネル・すばる氏寄贈
13	田中保	シアトル市街	1915-20年	油彩、ボード	山本保博氏
14	田中保	シアトル風景(Ⅰ)	1912-15年	鉛筆、紙	埼玉県立近代美術館 平成23年度大久保静雄氏寄贈
15	田中保	シアトル風景(Ⅱ)	1912-15年	鉛筆、紙	埼玉県立近代美術館 平成23年度大久保静雄氏寄贈
16	田中保	シアトル風景(Ⅲ)	1912-15年	鉛筆、紙	埼玉県立近代美術館 平成23年度大久保静雄氏寄贈
17	田中保	膝をつく裸婦	1915-20年	鉛筆、紙	大久保静雄氏
<b>第2章 シアトルの前衛画家</b>					
18	田中保	キュビストA	1915年	油彩、カンヴァス	埼玉県立近代美術館 昭和57年度埼玉銀行寄贈
19	田中保	キュビストB	1915年	油彩、カンヴァス	埼玉県立近代美術館 昭和57年度埼玉銀行寄贈
		ルイズの肖像写真(102 田中保 関連写真資料より)			埼玉県立近代美術館
20	田中保	東洋の少女 (しとやかなナイチンゲール)	1918年頃	油彩、ボード	埼玉県立近代美術館 昭和57年度埼玉銀行寄贈
21	田中保	キュビズムの裸婦	1915年頃	油彩、ボード	埼玉県立近代美術館
22	田中保	きものの女	1919-20年	油彩、ボード	埼玉県立近代美術館 昭和57年度埼玉銀行寄贈
23	田中保	水浴	1915-19年	パステル、紙	埼玉県立近代美術館
24	田中保	裸婦	1917-20年	油彩、カンヴァス	うらわ美術館
25	田中保	マドロナの影	1914年	油彩、カンヴァス	うらわ美術館
26	田中保	海の中の裸婦	1915-20年	油彩、ボード	埼玉県立近代美術館
27	田中保	浜辺の景色	1915-25年	油彩、ボード	埼玉県立近代美術館 昭和57年度埼玉銀行寄贈
28	田中保	海の風景Ⅲ	1917-20年	油彩、ボード	埼玉県立近代美術館 昭和57年度埼玉銀行寄贈
29	田中保	海港	1917-20年	油彩、カンヴァス	学校法人 佐藤栄学園
30	田中保	港と海岸	1917-20年	油彩、カンヴァス	学校法人 佐藤栄学園
31	田中保	地平線	1917-20年	油彩、カンヴァス	学校法人 佐藤栄学園
32	田中保	湖岸の雪	1917-20年	油彩、ボード	埼玉県立近代美術館 昭和57年度埼玉銀行寄贈
33	田中保	雪景色	1920年頃	油彩、ボード	うらわ美術館
34	田中保	海の風景Ⅱ	1915-20年	油彩、ボード	埼玉県立近代美術館 昭和57年度埼玉銀行寄贈
35	田中保	海岸	1917-20年	油彩、ボード	埼玉県立近代美術館 昭和57年度埼玉銀行寄贈
36	田中保	スケッチブック (計21図)			埼玉県立近代美術館

### 第3章 肖像画が明かす人間関係

37	田中保	兵士像	1917年頃	油彩、カンヴァス	学校法人 佐藤栄学園
38	田中保	男性像	1919-20年	油彩、カンヴァス	学校法人 佐藤栄学園
39	田中保	腰掛ける男	1919年	油彩、カンヴァス	学校法人 佐藤栄学園
40	田中保	婦人像	1919-20年	油彩、カンヴァス	学校法人 佐藤栄学園
41	田中保	若い男の肖像	1919-20年	油彩、ボード	学校法人 佐藤栄学園
42	田中保	黒百合	1919年頃	油彩、ボード	埼玉りそな銀行
43	田中保	豆をむく婦人	1915-20年	油彩、ボード	埼玉県立近代美術館 平成2年度田中幸子氏寄贈
44	田中保	花	1917-20年	油彩、ボード	埼玉県立近代美術館 昭和57年度埼玉銀行寄贈
45	田中保	ゼラニウム	1918-20年	油彩、ボード	埼玉りそな銀行

### 第4章 パリの異邦人、ヤスシ・タナカ

46	田中保	リュクサンブール公園のそばにて	1920-40年	水彩、紙	埼玉県立近代美術館
47	田中保	たそがれのノートル・ダム	1920-40年	水彩、紙	埼玉県立近代美術館
48	清水登之	セーヌ河畔	1924年	油彩、カンヴァス	栃木県立美術館
49	清水登之	主婦と下男	1926年	油彩、カンヴァス	栃木県立美術館
50	藤田嗣治	横たわる裸婦と猫	1931年	油彩、カンヴァス	埼玉県立近代美術館
51	ジュール・パスキン	眠る裸女	1928年	油彩、カンヴァス	埼玉県立近代美術館
52	マルク・シャガール	二つの花束	1925年	油彩、カンヴァス	埼玉県立近代美術館
53	佐伯祐三	門と広告	1925年	油彩、カンヴァス	埼玉県立近代美術館
54	エルミーヌ・ダヴィッド	空中ブランコ	1926年	エッチング、紙	埼玉県立近代美術館
55	エルミーヌ・ダヴィッド	冬期競輪場	1932-33年	エッチング、紙	埼玉県立近代美術館
56	田中保	黒いドレスの腰かけている女	1920-30年	油彩、カンヴァス	埼玉県立近代美術館 昭和57年度埼玉銀行寄贈
57	キスリング	リタ・ヴァン・リアの肖像	1927年	油彩、カンヴァス	埼玉県立近代美術館
58	田中保	毛皮のコートをきて腰かけている女	1925-30年	油彩、カンヴァス	埼玉県立近代美術館 昭和57年度埼玉銀行寄贈
59	田中保	黄色のドレス	1925-30年	油彩、カンヴァス	埼玉県立近代美術館 昭和57年度埼玉銀行寄贈
60	田中保	青いコートを着て腰かけている女	1925-30年	油彩、カンヴァス	埼玉りそな銀行
61	田中保	窓辺の婦人	1925-30年	油彩、カンヴァス	埼玉県立近代美術館
62	田中保	裸婦	1924年	油彩、カンヴァス	埼玉県立近代美術館
63	田中保	ゆあみする二人の裸婦	1923年頃	水彩、紙	埼玉県立近代美術館
64	田中保	パリ、マルサン画廊 個展カタログ	1924年		埼玉県立近代美術館
65	田中保	「サロン・ドートンヌに おける日本人美術家」 カタログのための下絵	1924年		埼玉県立近代美術館
66	田中保	背を向ける裸婦（表面） ／赤いドレスの少女（裏面）	1919-20年（表面） 1920-30年（裏面）	油彩、ボード	埼玉県立近代美術館
67	田中保	室内の裸婦	1920-40年	油彩、カンヴァス	埼玉県立近代美術館 昭和57年度埼玉銀行寄贈
68	田中保	花びんのある裸婦	1920-30年	油彩、カンヴァス	埼玉県立近代美術館
69	田中保	ばら色の部屋着	1920-30年	油彩、カンヴァス	埼玉県立近代美術館 昭和57年度埼玉銀行寄贈
70	田中保	水辺の裸婦	1920-25年	油彩、カンヴァス	埼玉県立近代美術館
71	田中保	泉のほとりの裸婦	1920-30年	油彩、カンヴァス	埼玉県立近代美術館 昭和57年度埼玉銀行寄贈
72	田中保	背中の裸婦	1920-30年	油彩、ボード	埼玉県立近代美術館
73	田中保	裸婦と画集	1920-40年	油彩、カンヴァス	埼玉県立近代美術館
74	田中保	ひざを見おろす裸婦	1920-30年	木炭、紙	埼玉県立近代美術館 ○前期
75	田中保	黄色いショールと緑の プレスレットの裸婦	1920-40年	パステル、紙	埼玉県立近代美術館 ○前期
76	田中保	屏風の前の裸婦	1920-30年	木炭、紙	埼玉県立近代美術館 ○前期
77	田中保	暖炉の前の裸婦	1920-40年	鉛筆、水彩、紙	埼玉県立近代美術館 ●後期
78	田中保	いこえる若き女	1920-30年	コンテ、紙	埼玉県立近代美術館 ●後期
79	田中保	海辺を背景に眠る裸婦	1925-30年	木炭、紙	埼玉県立近代美術館 ●後期

80	田中保	個展ポスター	1920-30年	水彩、紙	埼玉県立近代美術館
<b>第5章 パリのサロン画家</b>					
81	田中保	ワラの山	1928年	油彩、ボード	学校法人 佐藤栄学園
82	田中保	ヴェルノンの古い教会	1928年	油彩、ボード	学校法人 佐藤栄学園
83	田中保	プティタンドリ風景	1920-30年	油彩、ボード	埼玉県立近代美術館 昭和57年度埼玉銀行寄贈
84	田中保	海の風景Ⅰ	1920-30年	油彩、ボード	埼玉県立近代美術館 昭和57年度埼玉銀行寄贈
85	田中保	海の近く	1928年頃	油彩、カンヴァス	埼玉りそな銀行
86	田中保	三人の娘たちのいる風景	1925-30年	油彩、カンヴァス	埼玉りそな銀行
87	田中保	月光	1931年頃	油彩、カンヴァス	さいたま市岩槻区役所
88	田中保	サン・ベネゼ橋	1928年頃	油彩、カンヴァス	埼玉県立近代美術館 昭和57年度埼玉銀行寄贈
89	田中保	オーヴェルニュにて	1928年頃	油彩、ボード	埼玉県立近代美術館 平成20年度浅子宏氏寄贈
90	田中保	風景Ⅰ	1928年頃	油彩、ボード	埼玉県立近代美術館 昭和57年度埼玉銀行寄贈
91	田中保	レザンドリ風景	1920-40年	油彩、ボード	埼玉県立近代美術館 昭和57年度埼玉銀行寄贈
92	田中保	空と雲	1920-40年	油彩、ボード	埼玉県立近代美術館 昭和57年度埼玉銀行寄贈
93	田中保	風景Ⅱ	1928年頃	油彩、カンヴァス	埼玉県立近代美術館 昭和57年度埼玉銀行寄贈
94	田中保	花	1926年頃	油彩、カンヴァス	埼玉県立近代美術館 令和元年度小川智美氏寄贈
95	田中保	花瓶のある横顔	1926年頃	油彩、ボード	埼玉県立近代美術館 令和元年度小川智美氏寄贈
96	田中保	猫	1920-30年	油彩、ボード	埼玉県立近代美術館 令和元年度小川智美氏寄贈
97	田中保	チューリップと 黄色の花のある静物	1920-40年	油彩、ボード	学校法人 佐藤栄学園
98	田中保	猫と花	1920-40年	パステル、紙	埼玉県立近代美術館
99	田中保	能面のある静物	1925-30年	木炭、紙	埼玉県立近代美術館
100	田中保	バラと花瓶	1920-40年	水彩、紙	埼玉県立近代美術館
101	田中保	医師の肖像	1930年	鉛筆、紙	山本保博氏
102	田中保	関係写真資料			埼玉県立近代美術館
参考出品	田中保展 (埼玉会館郷土資料室) ポスター	1977年			埼玉県立近代美術館

## ■ 桃源郷通行許可証 Passport to Shangri-La

■ 会期：2022年10月22日(土)～2023年1月29日(日)

■ 主催：埼玉県立近代美術館

■ 協力：JR東日本大宮支社、FM NACK 5、浦和PARCO

■ 助成：芸術文化振興基金

■ 観覧料：一般 1200円(960円)、大高生 960円(770円)  
( )は団体20名以上の料金

■ 入場者数：6,825人

■ 広報印刷物：ポスター B2、ちらし B5 変形 (22.7 × 18.0cm) / デザイン：三木俊一 (文京図案室)

■ 担当学芸員：鳴原悠、吉岡知子、篠原優



B2 ポスター

## ■ 開催趣旨

桃源郷は、中国の詩人・陶淵明が記した物語「桃花源記」に由来する、理想と平和の土地です。「桃花源記」では、武陵に暮らすある漁師が舟を漕ぐうちに、林の奥の桃源郷へとたどり着きます。そこは、世俗とは隔絶された穏やかな時間が流れる美しい世界でした。

古今東西の芸術作品を鑑賞するということは、私たちが今立つ地点から遠く離れた時間や空間を経験するということでもあります。現実の奥深くに、現在の時空間から解放された「桃源郷」があるとすれば、芸術作品は「桃源郷」への扉を開くための「通行許可証」のようなものであるといえるでしょう。日常と非日常の裂け目から目に見えないものを想像したり、別の世界を経験したりすること。私たちが様々な時空間を自在に行き来することを願うとき、芸術作品は多くの示唆を与えてくれます。

「桃源郷通行許可証」は、多様な時代、ジャンルの作品と埼玉県立近代美術館のコレクションとの遭遇を通じて、時空を超えた芸術作品の魅力を探る展覧会です。展示の中心となるのは、絵画、写真、ドローイング、インスタレーションなど、それぞれの手法を用いて、日常や現実のはざまに潜在する事象を繊細に掬い取る6名の作家の作品と、当館のコレクションとが出会うことで生まれる空間です。作家や作品同士の対比、テーマによる対照、意外な組み合わせなど、様々な角度から構成される本展覧会は、コレクションに新たな光を当てるとともに、幅広い世代の作家たちの現在地に立ち会う機会となるでしょう。

## ■ 図録

- ・規格：B5 変形版 (25.7 × 18.0cm) / 2分冊、スリーブケース入
- ・編集：鳴原悠、篠原優、吉岡知子
- ・デザイン：三木俊一 (文京図案室)
- ・印刷・製本：株式会社ユー・ホウ
- ・発行：埼玉県立近代美術館
- ・価格：2,600円 (消費税込)
- ・内容：[Book1] 桃源郷通行許可証 (鳴原悠)、出品作家インタビュー・略歴、作家略歴 [Book2] 1.Prologue、2. 佐野陽一×斎藤豊作、3. 文谷有佳里×菅木志雄、4. 松井智恵×橋本閑雪、5. 東恩納裕一×マン・レイ/キスリング/山田正亮/デザイナーズ・チェア (チャールズ・レニー・マッキントッシュ、ロン・アラッド、柳宗理、graf)、6.Interlude、7. 松本陽子×瑛九/ジャン＝

パティスト・カミーユ・コロ／菱田春草／丸木位里、  
8.Interlude、9. 稲垣美侑×駒井哲郎、出品リスト

## ■関連事業

### ・アーティスト・トーク

- ① 松本陽子（出品作家）×建畠哲（当館館長）／日時：  
11月6日（日）15：00～16：30／参加者：31名
- ② 文谷有佳里（出品作家）×筒井宏樹（現代美術研究者）  
／日時：12月4日（日）15：30～17：00／参加者：  
21名
- ③ 東恩納裕一（出品作家）×藤原えりみ（美術ジャー  
ナリスト）／日時：12月11日（日）15：00～16：  
30／参加者：23名
- ④ 佐野陽一（出品作家）×管啓次郎（詩人／明治大学  
教授）／日時：1月7日（土）15：00～16：30／参  
加者：26名
- ⑤「松井智恵のタイムライン」松井智恵（出品作家）×  
橋本梓（国立国際美術館主任研究員）／日時：1月14  
日（土）14：00～15：00／参加者：35名
- ⑥「SNS とものがたり」松井智恵×高橋信也（京都市京  
セラ美術館事業企画推進室ゼネラルマネージャー）／日  
時：1月14日（土）16：00～17：00／参加者：29  
名
- ⑦「行きて帰りし桃源郷」松井智恵×建畠哲／日時：1  
月15日（日）14：40～15：40／参加者：21名
- ⑧「環境と所在地、感覚することの先へ」稲垣美侑（出  
品作家）×井上尚子（美術作家）×青田麻未（美学研究者）  
／日時：1月22日（日）15：00～16：30／参加者：  
29名
- ①～⑧いずれも、場所：2階講堂／定員：60名（当日  
先着順）／費用：無料

### ・ワークショップ「みえないドローイング」

はがきサイズの小さな紙の上から、カーボン紙を擦って  
いろいろな線を描くミニワークショップを実施した。  
講師：文谷有佳里（出品作家）／日時：12月4日（日）  
13：00～15：00 ※時間内随時受付／場所：2階講堂  
／対象：どなたでも／所要時間：約3分／費用：無料／  
参加者：24名

### ・映像作品上映会

松井智恵（出品作家）が2000年代から制作・発表して  
いる全映像作品を一挙上映した。

日時：①1月14日（土）10：10～17：00／参加者：  
延べ66名、②1月15日（日）10：30～16：58／  
参加者：延べ37名

①②いずれも、場所：2階講堂／定員：各日60名（途  
中入退場自由）／費用：無料／制作協力：鈴木啓介、小  
川しゅん一

### プログラム

①1月14日（土）

A：10：10-11：54（約104分）

Koso-Doro(2003年、13分30秒)／Himalaya(2003年、  
36分50秒)／HEIDI I 44（2004年、37分50秒）／  
HEIDI 44 - II(2005年、6分56秒)／HEIDI 44 - III(2005  
年、7分40秒)

B：13：00-13：45（約45分）

HEIDI 45（2005年、15分10秒）／HEIDI 46-brick  
house（2006年、15分2秒）／HEIDI 46-hair（2006年、  
6分16秒）／HEIDI 47-piano（2007年、5分30秒）

C：15：10-15：50（約40分）

HEIDI 47-horse-shoe（2007年、7分10秒）／HEIDI  
47-fish（2007年、13分）／HEIDI 54-purusha（2014  
年、18分30秒）

②1月15日（日）

D：10：30-12：18（約108分）

HEIDI 47- being（2007年、28分2秒）／HEIDI 49  
vision-mist（2009年、32分47秒）／HEIDI 49 vision-  
river（2009年、24分）／HEIDI 50-on the day（2010  
年、20分55秒）

E：13：10-14：18（約68分）

HEIDI 51-on the day（2011年、34分12秒）／HEIDI  
52-black & white（2012年、11分28秒）／HEIDI  
52-on the day-flower（2012年、20分24秒）

F：16：00-16：58（約58分）

HEIDI 53-none（2013年、22分40秒）／HEIDI 53-  
echo(2013年、14分50秒)／HEIDI 54-purusha(2014  
年、18分30秒)

展示室出口付近にてリピート上映（両日）：She dissolves  
（2000年）／She reaches(2000年)／Kojima(2002年)  
／HEIDI 47-stars（2007年）／HEIDI 51-blackboard  
（2011年）

### ・ミュージアム・カレッジ2022「トランジット—新た な敷居学の提案」

埼玉大学教養学部と当館が共催で開催する公開講座を実

施した。

① 現代作家×コレクション—企画展「桃源郷通行許可証」について／日時：11月19日（土）15：00～16：30／講師：嶋原悠（当館学芸員）／参加者：22名

② 歌舞伎と女—初代中村仲蔵の母おしゅんの業績／日時：12月3日（土）15：00～16：30／講師：トーヴェ・ビュールク（埼玉大学大学院人文社会科学研究所教授）／参加者：13名

③ 老荘思想の基本問題—政治思想を中心に／日時：12月10日（土）15：00～16：30／講師：西山尚志（埼玉大学大学院人文社会科学研究所准教授）／参加者：20名

④ 境界を生きる現代アメリカのアーミッシュ／日時：12月18日（日）15：00～16：30／講師：野村奈央（埼玉大学大学院人文社会科学研究所准教授）／参加者：11名

①～④いずれも、場所：2階講堂／定員：60名（当日先着順）／費用：無料

#### ・URAWA 美術館コラボレーション 2022

浦和 PARCO、うらわ美術館とのコラボレーション企画。浦和 PARCO において、過去の展覧会ポスターの展示や出張ミュージアムショップの出店、オリジナルグッズのプレゼントなど、芸術の秋に相応しい特別イベントを開催した。

①出張ミュージアムショップなど

期間：10月7日（金）～10月23日（日）

場所：浦和 PARCO 4階 赤のエスカレーター横特設会場

②美術館のチケットでお得

浦和パルコの対象店舗にて、本展覧会のチケット（半券を含む）をご提示いただいた方に、OFF&サービスを実施。

期間：2023年1月31日（火）まで

#### ■広報記録

〈新聞〉

・平林由梨「すぐ隣に潜む入り口」『毎日新聞』2022年11月16日夕刊

・小出菜津子「現代作家×コレクション 作品を交差 新たな魅力」『埼玉新聞』2022年11月26日

・出田阿生「桃源郷アートで誘う」『東京新聞』（埼玉版）2022年12月11日

・「現代作家の絵や写真 所蔵品とコラボ展示」『読売新聞』（埼玉版）2023年1月21日

・告知：『毎日新聞』2022年10月7日、10月21日、10月28日、11月18日、11月25日、12月9日、12月16日、2023年1月27日／『東京新聞』2022年10月19日／『埼玉新聞』2022年11月1日／『朝日新聞』2022年10月18日／『産経新聞』2022年12月9日

〈雑誌、ミニコミ誌等〉

・告知：『武州路』11月号、2022年10月20日／『たまログ』11月号、2022年11月1日／『ARIFT』2022年11月4日／『定年時代』11月号、2022年11月7日／『武州路』1月号、2022年12月20日／『いけ花龍生』1月号、2023年1月1日

〈テレビ、ラジオ〉

・FM NACK 5「朝情報★埼玉」2022年10月26日

・「アイ大宮東ビジョン」2023年1月

・テレビ埼玉「ニュース545」2023年1月18日

〈Web〉

・「桃源郷通行許可証 埼玉県立近代美術館」『レビューとレポート』2022年10月23日

・「観シランガイド2022」『アートテラー・とに～の【ここにしかない美術室】』2022年12月10日

・「桃源郷通行許可証」『はろるど』2022年12月13日

・「15人が選ぶ「2022年ベスト展覧会」！キュレーターや批評家、アートライターらのセレクトをコメントとともに振り返る」『TOKYO ART BEAT』2022年12月13日

・告知：『アートアジェンダ』2022年9月26日／『ART iT』2022年10月8日／『ファッションプレス』2022年10月11日／『美術展ナビ』2022年10月12日／『KAMADO』2022年10月18日／「時空を超えた 芸術の魅力を探る『桃源郷通行許可証』10月22日より開催」

『ぴあニュース』2022年10月18日／『ぴあポイント』2022年10月20日／『美術手帖』2022年10月21日／『Sfumart』2022年10月22日／『今見られる全国のおすすめ展覧会100』2022年10月22日／『JDN』2022年10月24日／『ShareArt』2022年10月28日／『BIGLOBE 旅行』2022年10月／『Dokka! おでかけ探検隊』2022年10月／『goo ニュース』2022年10月／『goo 地図』2022年10月／『いこーよ』2022年10月／『ゆこゆこ』2022年10月／『日本旅行』2022年10月／『Acore おおみや』2022年12月1日／『Padograph』2023年1月18日

## ■担当後記

◆この展覧会は当初 2020 年度に開催する予定で企画、準備を進めていたが、新型コロナウイルスの影響等によって開催が延期となっていた。調整の上、本会期での開催が実現した。当初から参加予定だった出品作家の 6 名には、ご自身も制作環境や状況の変化に見舞われる中、展覧会への参加を改めて承諾いただき、新作や近作を中心に出品していただくことができた。

◆自館のコレクションと現代作家を組み合わせた展示は、近年各地の美術館で開催されている。本展も、当館のコレクションをより多角的な視点から紹介するとともに、現代の作家を紹介することを趣旨に企画された。本展に向けて担当者と作家とで綿密な協議を重ねながら出品作品や展示を組み立て、それぞれがインスタレーションとして構成されるような空間となった。

◆先入観なく作品や空間を鑑賞していただきたいという意図から、作品の脇には出品番号のみを掲出し、セクション解説や作品情報（キャプション）は配布する出品リストに掲載した。情報にとらわれずゆっくりと鑑賞することができてよかったという意見もある一方、わかりにくいという意見も複数あった。

◆展覧会のタイトルは、出品作家のひとりである松井智恵の出品作品《青蓮丸、西へ》からお借りした。松井の作品においては、「桃源郷通行許可証」は旅の途中で別れた登場人物たちが再会し、ふたたび「桃源郷」へ行き着くためのアイテムとして登場する。本展では、現在の時空間から解放された「桃源郷」があるならば、芸術作品は「桃源郷」への扉を開くための「通行許可証」のようなものであると捉え、様々な芸術表現の出会いの場としての期待を込めた。

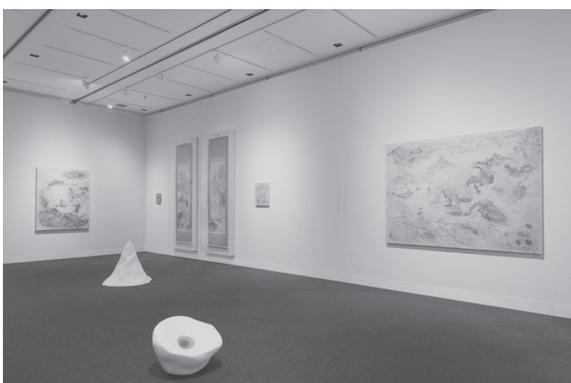
◆本展では県の新型コロナウイルス感染拡大防止の方針に従い、感染拡大防止策を講じた上で対面でのイベントを実施した。関係者の協力のもと、会期中、埼玉大学との共催であるミュージアム・カレッジ、浦和 PARCO とのコラボレーション企画、出品作家とゲストを招いた対談形式のアーティスト・トーク、映像作品上映会、ワークショップ等、充実したイベントを実施することができた。  
(嶋原悠)



「2. 佐野陽一×斎藤豊作」展示風景（撮影：佐藤克秋）



「3. 文谷有佳里×菅木志雄」展示風景（撮影：佐藤克秋）



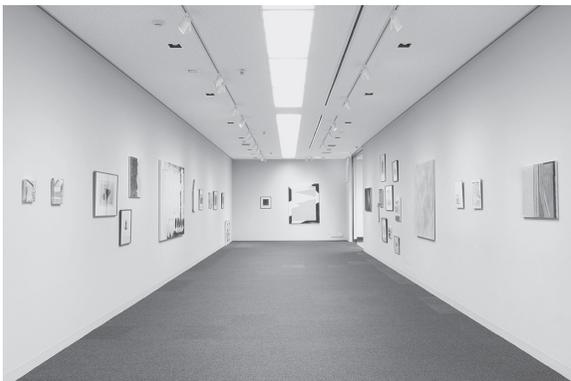
「4. 松井智恵×橋本閑雪」展示風景（撮影：佐藤克秋）



「5. 東恩納裕一×マン・レイ／キスリング／山田正亮／デザイナーズ・チェア（チャールズ・レニー・マッキントッシュ、ロン・アラッド、柳宗理、graf）」展示風景（撮影：佐藤克秋）



「7. 松本陽子×瑛九／ジャン＝パティスト・カミーユ・コロー／菱田春草／丸木位里」展示風景（撮影：佐藤克秋）



「9. 稲垣美侑×駒井哲郎」展示風景（撮影：佐藤克秋）

## ■ 出品リスト

会期中に一部作品の展示替を行った。 ○前期：10月14日（土）～12月4日（日） ●後期：12月6日（火）～1月29日（日）

### 1. Prologue

出品番号	作家名	作品名	制作年	技法材質	所蔵
1-01 ○前期	山本梅逸	青緑桃源図	1846年	絹本着色	遠山記念館
1-02 ●後期	童基	桃源図	清時代	絹本着色	泉屋博物館
1-03 ○前期	小川芋銭	陶淵明桃花源詩意	1926年頃	絹本着色	愛知県美術館
1-04 ●後期	小川芋銭	桃花流水送漁夫	1934年	絹本墨画淡彩	愛知県美術館（木村定三コレクション）
1-05 ○前期	堂本印象	春酒沽	1921-23年頃	絹本着色	埼玉県立近代美術館 （平成19年度大熊雄二氏、大熊清二氏、大熊聡一郎氏、煙石澄子氏寄贈）
1-06 ●後期	吉川霊華	羅浮偃女	1928年	紙本着色	埼玉県立近代美術館
1-07	ウジェーヌ・ドラクロワ	聖ステパノの遺骸を抱え起こす弟子たち	1860年	油彩、板にカルトン貼付	埼玉県立近代美術館寄託 （丸沼芸術の森）[登録美術品]
1-08 ○前期	アントニオ・ダ・トレント ／原画：バルミジャーノ	聖ペテロとパウロの殉教	16世紀	木版（キアロスクーロ、黒と緑の濃淡三版）	町田市立国際版画美術館
1-09 ●後期	原画：コレッジョ	聖カタリーナの神秘の婚姻	17世紀	木版（キアロスクーロ、黒・黄土色濃淡四版）	町田市立国際版画美術館

### 2. 佐野陽一×斎藤豊作

出品番号	作家名	作品名	制作年	技法・素材等	所蔵先
2-01	佐野陽一	flow	2015-17年	発色現像方式印画	作家蔵
2-02	佐野陽一	flow	2015-17年	発色現像方式印画	作家蔵
2-03	佐野陽一	reservoir（夏）	2018-19年	発色現像方式印画	作家蔵
2-04	佐野陽一	ひかりのみず（0053-9）	2008-09年	発色現像方式印画	作家蔵
2-05	佐野陽一	ひかりのみず（0754-4）	2007-14年	発色現像方式印画	作家蔵
2-06	佐野陽一	flow（カヤックを漕ぐ人）	2009-11年	発光現像方式印画	東京都写真美術館
2-07	佐野陽一	flow	2009-14年	発色現像方式印画	作家蔵
2-08	佐野陽一	ひかりのみず（0056-7）	2008-09年	発色現像方式印画	作家蔵
2-09	佐野陽一	flow	2004-05年	銀色素漂白方式印画	作家蔵
2-10	佐野陽一	tropiquesのためのエスキース	2008-11年／2012-13年／2013年	発色現像方式印画 [25点組]	作家蔵
2-11	佐野陽一	reservoir（秋日）	2015-22年	発色現像方式印画	作家蔵
2-12	佐野陽一	flow（秋日）	2015-22年	発色現像方式印画	作家蔵
2-13	佐野陽一	flow（秋日）	2015-22年	発色現像方式印画	作家蔵
2-14	佐野陽一	flow（夏）	2015-22年	発色現像方式印画	作家蔵
2-15	佐野陽一	flow（夏）	2015-22年	発色現像方式印画	作家蔵
2-16	佐野陽一	flow	2010-15年	発色現像方式印画	作家蔵
2-17	佐野陽一	flow	2010-15年	発色現像方式印画	作家蔵
2-18	佐野陽一	reservoir	2002-03年	銀色素漂白方式印画	作家蔵
2-19	佐野陽一	reservoir（夏）	2018-19年	発色現像方式印画	作家蔵
2-20	佐野陽一	8月の自転車	2019-22年	発色現像方式印画	作家蔵
2-21	斎藤豊作	フランス風景Ⅲ	1910年頃	油彩、キャンバス	埼玉県立近代美術館
2-22	斎藤豊作	フランス風景Ⅱ	1910年頃	油彩、キャンバス	埼玉県立近代美術館
2-23	斎藤豊作	ヴェヌヴェルの桃	1930年頃	パステル、紙	埼玉県立近代美術館

### 3. 文谷有佳里×菅木志雄

出品番号	作家名	作品名	制作年	技法・素材等	所蔵先
3-01	文谷有佳里	drawing 2022.6.25	2022年	ペン、カーボン紙、紙	作家蔵
3-02	文谷有佳里	drawing 2022.6.26	2022年	ペン、カーボン紙、紙	作家蔵
3-03	文谷有佳里	drawing 2022.6.27	2022年	ペン、紙	作家蔵
3-04	文谷有佳里	なにもない風景を眺める 2016.12.10	2016年	インク、ケント紙、 パネル [4点組]	東京都現代美術館
3-05	文谷有佳里	なにもない風景を眺める 2012.6	2012年	ペン、紙	作家蔵
3-06	文谷有佳里	なにもない風景を眺める 2010.10.21	2010年	ペン、紙	作家蔵

3-07	文谷有佳里	なにもない風景を眺める	2016.8.14	2016年	カーボン紙、紙、パネル	作家蔵
3-08	文谷有佳里	なにもない風景を眺める	2016.5.2	2016年	ペン、カーボン紙、紙、パネル	作家蔵
3-09	文谷有佳里	なにもない風景を眺める	2016.5.1	2016年	ペン、カーボン紙、紙、パネル	作家蔵
3-10	文谷有佳里	なにもない風景を眺める	2016.8.13	2016年	カーボン紙、紙、パネル	作家蔵
3-11	文谷有佳里	なにもない風景を眺める	2016.8.15	2016年	カーボン紙、紙、パネル	作家蔵
3-12	文谷有佳里	なにもない風景を眺める	2019.5.7	2019年	鉛筆、カーボン紙、紙	作家蔵
3-13	文谷有佳里	初期ドローイング等		2006-11年	鉛筆、紙他 [45点]	作家蔵
3-14	菅木志雄	四圍分集		1994年	木、石、ペイント	埼玉県立近代美術館 (平成25年度双ギャラリー寄贈)
3-15	菅木志雄	界測		1990年	鉄、木	埼玉県立近代美術館 (平成25年度双ギャラリー寄贈)

#### 4. 松井智恵×橋本関雪

出品番号	作家名	作品名	制作年	技法・素材等	所蔵先
4-01	松井智恵	青蓮丸、西へ	2018年	ミクストメディア	作家蔵
4-02	松井智恵	picture 2019-06	2019年	油彩、キャンバス	個人蔵
4-03	松井智恵	Picture「ひばり山」1	2022年	油彩、キャンバス	作家蔵
4-04	松井智恵	Picture「ひばり山」3	2022年	油彩、キャンバス	作家蔵
4-05	松井智恵	Picture「ひばり山」5	2022年	油彩、キャンバス	作家蔵
4-06	松井智恵	一枚さん 2020年2月29日-5月31日	2020年	水彩他、紙 [87点]	作家蔵
4-07	松井智恵	一枚さん 2018年4月14日	2018年	水彩、ペン、紙	作家蔵
4-08 ○前期	橋本関雪	春秋山水	制作年不詳	絹本着色	埼玉県立近代美術館 (平成19年度大熊雄二氏、大熊清二氏、大熊聡一郎氏、煙石澄子氏寄贈)
4-09 ●後期	橋本関雪	峽雲夜雨	制作年不詳	絹本着色	埼玉県立近代美術館 (平成19年度大熊雄二氏、大熊清二氏、大熊聡一郎氏、煙石澄子氏寄贈)
4-10 ●後期	橋本関雪	曠原の朝	1941年	絹本着色	埼玉県立近代美術館 (平成11年度鈴木いづみ氏寄贈)

#### 5. 東恩納裕一×マン・レイ/キスリング/山田正亮/デザイナーズ・チェア (チャールズ・レニー・マッキントッシュ、ロン・アラッド、柳宗理、graf)

出品番号	作家名	作品名	制作年	技法・素材等	所蔵先
5-01	東恩納裕一	ダイニングセット	2022年	テーブル、デザイナーズ・チェア*、LED、プラスティック、布、配線	作家蔵 (デザイナーズ・チェアを除く)
*	チャールズ・レニー・マッキントッシュ	ヒルハウス1/ヒルハウスのベッドルームのためのハイバック・チェア	デザイン:1903年 製品化:1973年	トネリコ材にエポニー塗装、ベルベット張りの座面	埼玉県立近代美術館
*	ロン・アラッド	トム・ヴァック	デザイン:1997年 製品化:1998年	ポリプロピレン、スチール・パイプにクロムメッキ仕上げ	埼玉県立近代美術館
*	柳宗理	シェル・チェア	デザイン・製品化:1999年	サベリ板目、ステンレス丸パイプ・ミガキ仕上げ、ウレタン樹脂仕上げ	埼玉県立近代美術館
*	graf	XL (プランクトン1.8)	2004年	木、鉄	埼玉県立近代美術館(平成16年度寄贈)
5-02	東恩納裕一	curtain	2020年	スプレーペイント、ウレタンニス、コットン、木枠	作家蔵
5-03	東恩納裕一	untitled	2022年	LED、アルミニウム、配線	作家蔵
5-04	東恩納裕一	The Little Match Girl	2022年	フェルト、まち針、コットン、木枠	作家蔵
5-05	東恩納裕一	The Little Match Girl	2020-22年	アニメーション、モニタ5台	作家蔵
5-06	東恩納裕一	fallen chandelier	2020-22年	LED、アルミニウム、配線	作家蔵
5-07	東恩納裕一	FL / el-01	2007年	アクリル、雁皮刷り	版画工房 エディション・ワークス
5-08	東恩納裕一	FL / el-02	2007年	アクリル、雁皮刷り	版画工房 エディション・ワークス
5-09	東恩納裕一	FL / el-03	2007年	アクリル、雁皮刷り	版画工房 エディション・ワークス
5-10	東恩納裕一	FL / el-04	2007年	アクリル、雁皮刷り	版画工房 エディション・ワークス
5-11	東恩納裕一	FL / el-05	2007年	アクリル、雁皮刷り	版画工房 エディション・ワークス
5-12	東恩納裕一	FL / el-06	2007年	アクリル、雁皮刷り	版画工房 エディション・ワークス
5-13	キスリング	赤いテーブルの上の果実	1944年	油彩、キャンバス	埼玉県立近代美術館
5-14	山田正亮	Work C.105	1962年	油彩、キャンバス	府中市美術館

5-15	マン・レイ	レイヨグラフ	1926年 (1963年プリント)	ゼラチン・シルバー・ プリント	埼玉県立近代美術館
5-16	マン・レイ	レイヨグラフ	1927年 (1963年プリント)	ゼラチン・シルバー・ プリント	埼玉県立近代美術館
5-17	マン・レイ	レイヨグラフ	1925年頃 (1963年プリント)	ゼラチン・シルバー・ プリント	埼玉県立近代美術館
5-18	マン・レイ	レイヨグラフ	1922年 (1963年プリント)	ゼラチン・シルバー・ プリント	埼玉県立近代美術館
5-19	マン・レイ	レイヨグラフ	1921-22年頃 (1963年プリント)	ゼラチン・シルバー・ プリント	埼玉県立近代美術館
5-20	マン・レイ	レイヨグラフ	1927年頃 (1963年プリント)	ゼラチン・シルバー・ プリント	埼玉県立近代美術館

## 6. Interlude

出品番号	作家名	作品名	制作年	技法・素材等	所蔵先
6-01	丸山直文	puddle in the woods 6	2010年	アクリル、綿布	埼玉県立近代美術館寄託（個人蔵）
6-02	ポール・シニャック	アニエールの河岸	1885年	油彩、キャンバス	埼玉県立近代美術館
6-03 ○前期	ウィリアム・ヘンリー・ フォックス・タルボット	レース	1844-46年頃 (後年のプリント)	単塩紙	東京都写真美術館
6-04 ○前期	ウィリアム・ヘンリー・ フォックス・タルボット	開いた扉	1844-46年頃 (後年のプリント)	単塩紙	東京都写真美術館
6-05 ●後期	ウィリアム・ヘンリー・ フォックス・タルボット	干し草（積み藁）	1844-46年頃 (後年のプリント)	単塩紙	東京都写真美術館
6-06 ●後期	ウィリアム・ヘンリー・ フォックス・タルボット	クイーンズ・カレッジの 部分、オックスフォード	1844-46年頃 (後年のプリント)	単塩紙	東京都写真美術館
6-07	秋岡美帆	ゆれるかげ	1991年	ネコプリント、麻紙	埼玉県立近代美術館
6-08	モーリス・ドニ	トレストリニエルの岩場	1920年	油彩、キャンバス	埼玉県立近代美術館
6-09	武内鶴之助	アラシの夕	1912年	油彩、キャンバス	埼玉県立近代美術館
6-10	堂本尚郎	月蝕	1978年	アクリル、キャンバス	埼玉県立近代美術館 (平成15年度ウィルデンスタイン東京寄贈)
6-11	中林忠良	転位 '92-地-I	1992年	エッチング、アクアチント、 紙	埼玉県立近代美術館
6-12	中林忠良	転位 '83-地-VIII	1983年	エッチング、紙	埼玉県立近代美術館
6-13	山崎博	海をまねる太陽 1-5	1978年	ゼラチン・シルバー・ プリント	埼玉県立近代美術館 (4.5:昭和62年度寄贈)
6-14	中西夏之	arc・green-I	1980年	油彩、木炭、亜鉛粉末、 キャンバス、竹	埼玉県立近代美術館

## 7. 松本陽子×瑛九／ジャン＝パティスト・カミーユ・コロー／菱田春草／丸木位里

出品番号	作家名	作品名	制作年	技法・素材等	所蔵先
7-01	松本陽子	生成と解体	1995年	アクリル、キャンバス	UESHIMA COLLECTION
7-02	松本陽子	黒い岩	1990年	アクリル、キャンバス	東京都現代美術館
7-03	松本陽子	宇宙エーテル体I	2003年	アクリル、キャンバス	東京都現代美術館
7-04	松本陽子	振動する風景的畫面	2017年	油彩、オイルパステル、 木炭、キャンバス	UESHIMA COLLECTION
7-05	松本陽子	生命体について	2010年	オイルパステル、木炭、紙	作家蔵
7-06	松本陽子	生命体について	2010年	オイルパステル、木炭、紙	ヒノギャラリー
7-07	松本陽子	生命体について	2021年	油彩、オイルパステル、木炭、キャンバス	作家蔵
7-08	ジャン＝パティスト・ カミーユ・コロー	砂丘にて—ハーグの森の想い出	1869年	エッチング、紙	埼玉県立近代美術館（平成23年度 埼玉県立近代美術館フレンド寄贈）
7-09	ジャン＝パティスト・ カミーユ・コロー	イタリアの想い出	1866年	エッチング、紙	埼玉県立近代美術館（平成23年度 埼玉県立近代美術館フレンド寄贈）
7-10 ○前期	丸木位里	紅梅	1967年	紙本着色	埼玉県立近代美術館
7-11 ●後期	菱田春草	湖上釣舟	1900年	紙本着色	埼玉県立近代美術館
7-12	瑛九	雲	1959年	油彩、キャンバス	埼玉県立近代美術館

## 8. Interlude

出品番号	作家名	作品名	制作年	技法・素材等	所蔵先
8-01	駒井哲郎	記号の静物	1951年	エッチング、ソフトグラウンド・エッチング、 ドライポイント、紙	埼玉県立近代美術館（平成4年度ホダカ株 式会社、株式会社マルキンジャパン寄贈）
8-02	駒井哲郎	時間の迷路	1952年	アクアチント（サンドペーパー使用）、紙	埼玉県立近代美術館（平成4年度ホダカ株 式会社、株式会社マルキンジャパン寄贈）

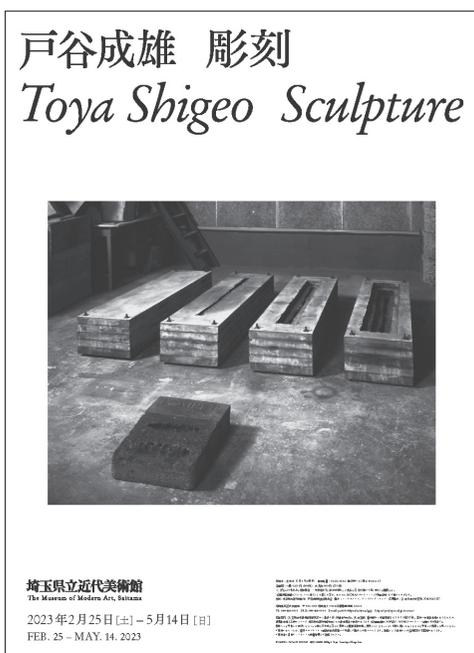
8-03	駒井哲郎	小さな幻影	1950年	エッチング、アクアチント (サンドペーパー使用)、紙	埼玉県立近代美術館(平成4年度ホダカ株式会社、株式会社マルキンジャパン寄贈)
8-04	駒井哲郎	夢の始まり	1949年	アクアチント、ドライポイント、紙	埼玉県立近代美術館(平成13年度有限会社マルキンコーポレーション寄贈)
8-05	駒井哲郎	夢の推移	1950年	メゾチント、紙	埼玉県立近代美術館(平成4年度ホダカ株式会社、株式会社マルキンジャパン寄贈)
8-06	駒井哲郎	夢の終わり	1951年	メゾチント、エングレーヴィング、 ルーレット、紙	埼玉県立近代美術館(平成13年度有限会社マルキンコーポレーション寄贈)
8-07	難波田龍起	白夢	1969年	油彩、エナメル、キャンバス	埼玉県立近代美術館(平成26年度柴田博氏寄贈)
8-08	福岡道雄	飛び石	1994年	強化プラスチック、木、合板	埼玉県立近代美術館

## 9. 稲垣美侑×駒井哲郎

出品番号	作家名	作品名	制作年	技法・素材等	所蔵先
9-01	稲垣美侑	View from the vacant lot (Fragment of a house series)	2022年	油彩、釘、カットキャンバス、パネル [7点組]	作家蔵
9-02	稲垣美侑	The Noisy Garden	2020年	水彩、色鉛筆、オイルパステル、水彩紙、パネル	作家蔵
9-03	稲垣美侑	ゆるる草花	2022年	油彩、水彩、カットキャンバス、水彩紙、キャンバス	個人蔵
9-04	稲垣美侑	小枝と果実	2022年	油彩、水彩、水彩紙、キャンバス	作家蔵
9-05	稲垣美侑	ふたたび戻る	2022年	油彩、カットキャンバス、キャンバス	作家蔵
9-06	稲垣美侑	風と呼び声	2022年	油彩、キャンバス	作家蔵
9-07	稲垣美侑	Call (地鳴き)	2022年	油彩、カットキャンバス、キャンバス	作家蔵
9-08	稲垣美侑	Rhythm of the Field	2022年	油彩、キャンバス	作家蔵
9-09	稲垣美侑	隣り合う場所	2022年	油彩、キャンバス	作家蔵
9-10	稲垣美侑	Largo (幅広くゆるやかに)	2020年	水彩、色鉛筆、オイルパステル、水彩紙、パネル	作家蔵
9-11	稲垣美侑	ritardando (だんだん遅く)	2020年	水彩、色鉛筆、オイルパステル、水彩紙、パネル	作家蔵
9-12	稲垣美侑	Cantabile (Grassy place -03)	2022年	油彩、キャンバス	作家蔵
9-13	稲垣美侑	Neighbour's flower beds	2022年	油彩、水彩、カットキャンバス、水彩紙、 透け紙、草木染め糸、キャンバス	作家蔵
9-14	稲垣美侑	Rain and Dandelions	2022年	油彩、オイルパステル、キャンバス	作家蔵
9-15	稲垣美侑	苗床	2022年	油彩、カットキャンバス、キャンバス	作家蔵
9-16	稲垣美侑	夜の話	2022年	油彩、カットキャンバス、キャンバス	作家蔵
9-17	稲垣美侑	On the way home	2022年	油彩、キャンバス	作家蔵
9-18	稲垣美侑	目覚め	2022年	油彩、キャンバス	作家蔵
9-19	駒井哲郎	入口	制作年不詳	モノタイプ (カラー)、紙	埼玉県立近代美術館(平成4年度ホダカ株式会社、株式会社マルキンジャパン寄贈)
9-20	駒井哲郎	庭の一隅	1965年	リフトグラウンド・エッチング (カラー)、 紙	埼玉県立近代美術館(平成4年度ホダカ株式会社、株式会社マルキンジャパン寄贈)
9-21	駒井哲郎	飛んでいる鳥と木の葉	1961年	エッチング、アクアチント、紙	埼玉県立近代美術館(平成4年度ホダカ株式会社、株式会社マルキンジャパン寄贈)
9-22	駒井哲郎	大樹を見上げる魚	1967年	エッチング、紙	埼玉県立近代美術館(平成4年度ホダカ株式会社、株式会社マルキンジャパン寄贈)
9-23	駒井哲郎	作品名不詳	1970年頃	アクアチント (カラー)、紙	埼玉県立近代美術館(平成4年度ホダカ株式会社、株式会社マルキンジャパン寄贈)
9-24	駒井哲郎	鳥と果実	1959年	エッチング、アクアチント、 リフトグラウンド・エッチング、 エングレーヴィング、紙	埼玉県立近代美術館(平成4年度ホダカ株式会社、株式会社マルキンジャパン寄贈)
9-25	駒井哲郎	星座	1969年	アクアチント (カラー)、紙	埼玉県立近代美術館(平成4年度ホダカ株式会社、株式会社マルキンジャパン寄贈)
9-26	駒井哲郎	粗らかな剛毛と長い爪と太い指を 備えた大きな掌が不意と左辺の上方に…	1970年	エッチング、紙	埼玉県立近代美術館(平成4年度ホダカ株式会社、株式会社マルキンジャパン寄贈)
9-27	駒井哲郎	作品名不詳	1962年頃	エッチング、紙	埼玉県立近代美術館(平成4年度ホダカ株式会社、株式会社マルキンジャパン寄贈)
9-28	駒井哲郎	からみあい	1963年	リフトグラウンド・エッチング、空押、紙	埼玉県立近代美術館(平成4年度ホダカ株式会社、株式会社マルキンジャパン寄贈)
9-29	駒井哲郎	阿呆	1960年	エングレーヴィング、 リフトグラウンド・エッチング、紙	埼玉県立近代美術館(平成4年度ホダカ株式会社、株式会社マルキンジャパン寄贈)
9-30	駒井哲郎	葉	1960年	エッチング、 リフトグラウンド・エッチング、紙	埼玉県立近代美術館(平成4年度ホダカ株式会社、株式会社マルキンジャパン寄贈)
9-31	駒井哲郎	街	1973年	エッチング (サンドペーパー使用)、紙	埼玉県立近代美術館(平成29年度有限会社ワタヌキ/ときの忘れもの 取締役 綿貫令子氏寄贈)
9-32	駒井哲郎	鏡	1962年	リフトグラウンド・エッチング、 エングレーヴィング、 ルーレット (カラー)、紙	埼玉県立近代美術館(平成4年度ホダカ株式会社、株式会社マルキンジャパン寄贈)

## ■ 戸谷成雄 彫刻 Toya Shigeo : Sculpture

- 会期：2023年2月25日(土)～5月14日(日)
- 主催：埼玉県立近代美術館、戸谷成雄展実行委員会
- 協力：シュウゴアーツ、ケンジタキギャラリー
- 広報協力：JR 東日本大宮支社、FM NACK 5
- 観覧料：一般1200円(960円)、大高生960円(770円)
- 入場者数：7,996人
- 広報印刷物：ポスターB2、ちらしA4 / デザイン：鈴木聖
- 担当学芸員：佐原しおり、大越久子、佐藤あゆか



B2 ポスター

### ■開催趣旨

戸谷成雄は愛知県立芸術大学で彫刻を専攻したのち、1970年代より彫刻家として本格的な活動を開始した。彫刻というジャンルが批判や解体にさらされていく同時代の美術潮流のなかで、戸谷は彫刻の起源や古今東西の彫刻表現を探究し、彫刻とは何かを問い続けた。初個展「POMPEII・79」(1974年)以降は、人間の行為や記憶、視線のありかたを考察し、概念的かつ構造的な作品を発表するようになる。80年代中頃からは木材の表面をチェーンソーで彫り刻む「森」シリーズの制作を始め、高い評価を得た。1988年にはヴェネチア・ビエンナーレに参加し、その後も国内外での発表を重ね、現代日本

を代表する彫刻家としてその名を知られていく。90年代より「《境界》から」、「ミニマルバロック」シリーズ、2000年代より「洞穴体」シリーズ、近年には「視線体」シリーズを手がけるなど、半世紀にわたって精力的な活動を続けている。また制作と並行して紡がれる戸谷の言葉は、自己と他者、内部と外部、日本と西欧など、異なる概念の相克を捉え、それらを自らの問題として真摯に問い続ける姿勢を私たちに伝えている。

本展は作家の出身地である長野県と、制作拠点の埼玉県で開催された。70年代の初期作品や「森」シリーズ以降の代表作のほか、ドローイングや資料類を展示した。さらに、会場ごとに出品作品を一部入れ替え、長野県立美術館では作品に現われる言語への思索を、埼玉県立近代美術館では「森」に至るまでの初期の模索を再検証し、戸谷成雄の創作の原点を振り返った。この「二つの」展覧会は、彫刻史、美術理論、現代思想など幅広い分野の知見をもとに組み立てられた、戸谷の深奥なコンセプトを探求する機会となった。



展示風景「森」シリーズ (撮影：守屋友樹)

### ■図録

- ・規格：A4、320頁
- ・編集：鈴木幸野・池田淳史(長野県立美術館)、佐原しおり・大越久子・平野到・佐藤あゆか(埼玉県立近代美術館)、T&M Projects
- ・翻訳：小川紀久子、クリストファー・スティヴンズ、パメラ・ミキ・アソシエイツ
- ・特別協力：シュウゴアーツ、ケンジタキギャラリー
- ・デザイン：鈴木聖
- ・発行：T&M Projects
- ・価格：3,850円(消費税込)
- ・内容：戸谷成雄インタビュー(聞き手：佐原しおり、鈴木幸野、平野到) / [再録] 森を出て〈森〉に到る(峯村敏明) / 空洞と眼差し(建昌哲) / 戸谷成雄「森」前

史(佐原しおり)／森と、表面と、反転—戸谷成雄の彫刻「森」以後(松本透)／或る「在る全体」としての彫刻(鈴木幸野)／アトノセカイの森、その痛みのアナクロニー—戸谷成雄のけもの道の記憶、あるいは「ポストもの派」概念の批判へ(新藤淳)／廻る—戸谷さんの制作(富井大裕)／[再録]対談 戸谷成雄×遠藤利克／戸谷成雄、もつれ合う彫刻—「接触」をめぐる身体と言語の問題系(勝俣涼)／年譜、主要文献目録、作品リスト、パブリック・コレクション

## ■関連事業

- ・担当学芸員の作品解説会／2月26日(日)14:00～15:00／佐原しおり／参加者:51人
- ・対談 戸谷成雄(彫刻家)×建畠哲(当館館長)／3月12日(日)14:00～15:30／参加者:125人

## ■広報記録

### 〈新聞〉

- ・三田晴夫「寄稿:「戸谷成雄 彫刻」展 アイデアが導く創造劇」『毎日新聞』2023年3月23日
- ・「語る 戸谷成雄さん 視線の軌跡 木に彫り込む」『日本経済新聞』2023年3月27日
- ・「彫刻の根源を問う」『大分合同新聞』2023年4月1日／『琉球新報』2023年4月5日
- ・小出奈津子「彫刻の根源を追求 県立近代美術館で戸谷成雄展」『埼玉新聞』4月3日
- ・竹内和佳子「「森Ⅸ」 解体された「彫刻」再構築」『読売新聞』2023年4月5日
- ・アライ=ヒロユキ「「戸谷成雄 彫刻」展 表面から切り拓く世界」『しんぶん赤旗』2023年4月7日
- ・藤田一人「「戸谷成雄 彫刻」展 前衛からの脱却」『公明新聞』2023年4月12日
- ・西田理人「視線が彫る 彫刻家・戸谷成雄さん 埼玉で回顧展」『朝日新聞』2023年4月18日
- ・出田阿生「日本を代表する彫刻家 戸谷成雄さん 個展 生命の音が響く森」『東京新聞』2023年5月4日
- ・「戸谷成雄さん 県内初彫刻展」『読売新聞』2023年5月10日
- ・告知:『東京新聞』2023年2月15日／『毎日新聞』2023年2月17日、3月10日、3月24日／『朝日新聞』2023年2月21日、2月28日、3月7日、3月14日、3月28日、4月25日／『埼玉新聞』2023年3月7日／『公明新聞』2023年3月8日／『日本海新聞』2023年3月17日／『大阪日日新聞』2023年3

月17日／『京都新聞』2023年3月25日／『徳島新聞』2023年3月27日／『山形新聞』2023年3月31日／『茨城新聞』3月

〈雑誌、ミニコミ誌等〉

- ・「もっと見たい! 2023年展覧会60」『芸術新潮』12月号、2022年11月25日
- ・「展覧会ダイジェスト日本全国200」『美術の窓』12月号、2022年12月20日
- ・渋谷和彦「彫刻とは何かという問いを私たちに投げかけている」『MOSTRY CLASSIC』vol.313、2023年4月20日
- ・告知:『武州路』2023年1月20日／『たまログ』2023年2月1日／『武州路』2023年2月20日／『Pen』2023年2月28日／『コロンブス』2023年3月1日／『彩の国だより』2023年3月1日／『ARIFT』2023年3月3日／『埼玉往来』2023年3月15日／『美術の窓』2023年3月20日／『埼玉よみうり』2023年4月14日／『定年時代』2023年5月号

〈テレビ、ラジオ〉

- ・「日曜美術館 アートシーン」NHK教育、2023年4月9日

〈Web〉

- ・「埼玉県立近代美術館で「戸谷成雄 彫刻」—半世紀の創作をたどる」『インターネットミュージアム』2023年2月25日
- ・浅見悠吾「戸谷成雄は解体された彫刻を、どのように再構築したのか。埼玉県立近代美術館「戸谷成雄 彫刻」展レポート」『TOKYO ART BEAT』2023年3月4日
- ・「観シランガイド2023」『アートテラー・とに〜の【ここにしかない美術室】』2023年3月5日
- ・原ちけい「クリティカルヒット・パレード」『POPEYE Web』2023年3月20日
- ・「レポート」『インターネットミュージアム』2023年3月22日
- ・「アーティストが語る 私のターニング・ポイント No.002 戸谷成雄 インタビュー」『Tokyo Art Navigation』2023年4月
- ・告知:『アートアジェンダ』2023年1月9日／『ファッションプレス』2023年1月24日／『Acore おおみや』2023年2月3日／『美術展ナビ』2023年2月7日／『KAMADO』2023年2月9日／『BIGLOBE 旅行』2023年2月10日／『dメニューニュース』2023年2月10日／『goo ニュース』2023年2月10日／『いこー

よ』2023年2月10日／『ウォーカープラス』2023年2月10日／『ゆこゆこ』2023年2月10日／『日本旅行』2023年2月10日／『Sfumart』2023年2月13日／『ぴあ』2023年2月14日／『ADF』2023年2月21日／『Padograph』2023年2月21日／『ART iT』2023年2月22日／『TOKYO ART BEAT』2023年2月／『インターネットミュージアム』2023年2月／『まいぶれ浦和』2023年2月／『Tokyo Live & Exhibits』2023年3月1日／『ぴあポイント』2023年3月2日／『今見られる全国のおすすめ展覧会 100』2023年3月12日

### ■担当後記

◆戸谷成雄の大規模な個展は、これまでに広島市現代美術館、愛知県美術館などで開催されてきたが、作家の長年の制作拠点である埼玉県では初の個展となった。長野県立美術館との共同開催となる本展は、「森」や「ミニマルバロック」などの代表的なシリーズを網羅しつつ、これまでの展覧会で焦点が当てられてこなかった、戸谷が作家としてのキャリアを確立させる以前の実践も紹介した。戸谷成雄の代表作は全国各地の美術館に収蔵されているが、今回の個展では予算や物理的な制約から美術館借用作品を関東・中部地方の4点に絞り、作家アトリエにある作品を中心に構成した。

◆巡回展として開催したものの、長野会場と埼玉会場で半数以上の出品作が入れ替わり、異なるテーマの展覧会となった。埼玉会場では在学中の木彫作品やドローイングのほか、現存しない初期作品のスライドショー、パフォーマンスの映像資料などを合わせて展示することで、「森」シリーズに至るまでの具体的な模索を重点的に紹介した。戸谷成雄の個展としては初の試みであったが、戸谷の制作の根幹をなすコンセプトが初期の段階で確立されていたことや、木彫の作家として知られる戸谷が初期にはさまざまな素材を用いながら作品を展開させていたことを示すことができたのではないだろうか。

◆本展では、長年展示されてこなかった作品や初公開のドローイングなどを出品するために、作家のアトリエで作品調査を行った。角材を用いた「《構成》から」シリーズなど失われた作品もあるが、アトリエには学生時代の木彫習作から最新シリーズまで、作品やドローイングが多く保管されている。本展の準備段階では、新型コロナウイルスの影響で外部での調査や移動に制限があったため、アトリエに重要な資料が揃っていることは大変あり

がたかった。度重なる調査の依頼に応じてくださった戸谷成雄氏に心より感謝申し上げる。

◆都道府県立の公立美術館としては約20年ぶりの個展となる本展の図録は、戸谷成雄の代表作を網羅した作品集としての機能を併せ持つ書籍として構成されている。戸谷成雄の作品については、2016年に武蔵野美術大学美術館・図書館で開催された退官記念展の図録で詳細なレゾネが既にまとめられているため、本展では可能な限り多くの作品をカラー図版で紹介することを目指した。展覧会出品作を含む160作品を超える図版のほか、本展のために収録したインタビューや多数の論考を掲載し、重要な文献の再録も行った。（佐原しおり）



展示風景 初期木彫作品（撮影：守屋友樹）



展示風景《洞穴体V》（撮影：守屋友樹）



展示風景（撮影：守屋友樹）

## ■出品リスト

### 【凡例】

- ・作品リストは以下の順番で記載した。ただし所蔵表記のない作品は、すべて作家蔵である。  
作品番号／作品名／制作年／技法、素材／所蔵先
- ・原則として作品名には〈 〉、シリーズ名には「 」を用いた。作品名に記された《 》は、すべて戸谷成雄によるものである。
- ・埼玉県立近代美術館のみで展示される作品には、作品名の末尾に\*を付した。

出品番号	作品名	制作年	技法・素材	所蔵
01	男Ⅰ 斜面の男*	1973	木	個人蔵
02	器Ⅲ	1973	木	愛知県立芸術大学
03	〈男Ⅰ 斜面の男〉のためのドローイング*	1972	鉛筆、紙	
04	横たわる男*	1971	木	
05	POMPEII・79 Part 1	1974/1987	コンクリート、板	
06	〈POMPEII・79〉のためのドローイング*	c.1974	水彩、インク、紙	
07	初期作品スライドショー*		映像(4分36秒)	
08	レリーフ	1982	角材、石膏、角鉄筋	
09	閑さや岩にしみ入蟬の声(記録映像)* [撮影:山崎俊雄]	1983	映像(11分48秒)	富山県美術館
10	〈閑さや岩にしみ入蟬の声〉のためのドローイング*	1983	鉛筆、紙	
11	〈閑さや岩にしみ入蟬の声〉のためのドローイング*	1983	鉛筆、紙	
12	無題1*	1984	漆喰、墨、鉛筆、布、パネル	
13	無題2*	1984	漆喰、墨、鉛筆、布、パネル	
14	無題3*	1984	漆喰、墨、鉛筆、布、パネル	
15	無題4*	1984	漆喰、墨、鉛筆、布、パネル	
16	無題5*	1984	漆喰、墨、鉛筆、布、パネル	
17	地下へⅡ*	1984	石膏、アクリル、ドローイング	
18	地下の部屋*	1984	石膏、プラスチック、麻、アクリル	
19	床から*	1979/1987	石膏、角鉄筋	
20	象の鼻Ⅲ*	1982	石膏、角鉄筋	
21	棒状のもの*	1982/1991	石膏、角鉄筋	
22	天気輪Ⅰ	1985	木、アクリル、紙	
23	象の鼻*	1984	木、鉄筋、アクリル	シュウゴアーツ
24	森の象の窯の死	1989	木、灰、アクリル	東京都現代美術館
25	森-I*	1984	木、アクリル、鉄筋	
26	森Ⅸ	2008	木、灰、アクリル	ベルナルド・ビュフェ美術館
27	〈森Ⅸ〉のためのドローイング	2008	鉛筆、紙	ベルナルド・ビュフェ美術館
28	地霊Ⅲ-a	1991	木、灰、アクリル、鉄、ガラス	
29	森化Ⅱ	2003	木、灰、アクリル	
30	《境界》からⅢ	1995-1996	木、灰、アクリル、ガラス	
31	双影体Ⅱ	2001	木、灰、アクリル	愛知県美術館
32	洞穴体Ⅲ*	2010	木、灰、アクリル	
33	〈洞穴体Ⅲ〉のためのドローイング1*	2010	鉛筆、紙	
34	〈洞穴体Ⅲ〉のためのドローイング2*	2010	鉛筆、紙	
35	〈洞穴体Ⅲ〉のためのドローイング3*	2010	鉛筆、紙	
36	〈洞穴体Ⅲ〉のためのドローイング4*	2010	鉛筆、紙	
37	視線体一連*	2020	木、灰、アクリル	
<b>2階 エレベーター前</b>				
38	《境界》からⅥ*	1998	木、灰、アクリル	
<b>地下1階 センター・ホール</b>				
39	洞穴体Ⅴ	2011	木、灰、アクリル	
<b>1階 MOMAS コレクション(展示室A) ※展示期間:2023年3月4日~5月7日</b>				
40	湿地帯*	1985	木、石膏、アクリル	埼玉県立近代美術館

## ■ MOMAS コレクション

MOMAS コレクション（埼玉県立近代美術館常設展）では、当館のコレクションの中核をなす埼玉ゆかりの美術家と彼らに影響を与えた国内外の美術家の所蔵作品を、学芸員の調査・研究をもとにさまざまな観点から紹介している。年間を4つの会期に分け、会期ごとに名品を核にした「セレクション」のコーナーのほか、さまざまなテーマを掲げたコーナーを設けて、多様な傾向の作品で展示を構成している。さらに所蔵作品に加えてテーマに相応しい寄託・借用作品も随時展示し、展示内容の充実を図っている。このような姿勢を明確に提示するため、平成20年度よりこれまでの「常設展」に替わり「MOMAS コレクション」という名称を用いている。

また令和4年度は、既存の収蔵品検索システムと連動し、2つのデータベースへ当館収蔵品の情報の提供を行った。これにより、国立国会図書館主導による「ジャパンサーチ」と、国立アートリサーチセンター（仮称）主導による全国美術館収蔵品サーチ「SHŪZŌ」での収蔵品情報の公開に向けた準備が進んでいる。

## ■ MOMAS コレクション [ I ]

■会期：2022年4月30日（土）～8月28日（日）

■主催：埼玉県立近代美術館

■協力：JR 東日本大宮支社

■入場者数：11,126人

■広報印刷物：ポスター B1・B2（2種）／デザイン：杉山さゆり

■担当学芸員：五味良子、佐伯綾希、平野到



ポスター（各B1・B2）

## ■展示室 A (1階)

### 《セレクション 3 / 三 / III》

「3」という数字を手がかりに、ルノワールほか MOMAS コレクションの名品を紹介した。

### 《デザインで語るユートピア—1960-70年代イタリアから》

デザインを通して物質文化や生活環境が問い直された 1960-70 年代イタリア。その動きをデザイン椅子や関連資料から紹介した。

### 《特集：孫雅由の小宇宙》

生成と消滅、痕跡と不在など、哲学的思索と共に制作を続けた孫雅由(1949-2002)。県内の所蔵家・河正雄氏から寄贈された孫の小品群から、その思考と実践を探った。

## ■広報記録

### 〈新聞〉

・「在日の美術家 孫雅由の世界を知る」『東洋経済日報』  
2022年4月29日

### 〈Web〉

・「在日の美術家 孫雅由の世界を知る」『東洋経済日報』  
2022年4月29日



「セレクション 3 / 三 / III」展示風景



「デザインで語るユートピア—1960-70年代イタリアから」  
展示風景

## ■担当後記：《デザインで語るユートピア—1960-70年代イタリアから》

◆本展示は、1960-70年代のイタリアという特定の時代・地域に焦点をあて、「ユートピア」の志向という観点から、斬新なデザインが生み出された社会的背景やデザイナーの思想を提示するものであった。ポストモダンの先駆となる時代の雰囲気や少しでも展示空間に反映すべく、作品キャプションをカラフルにする、円形の展示台に人工芝を貼るといった方法を取り、近代的なホワイトキューブからのさやかな逸脱を試みた。一部の椅子については、デザイン発表時の広告画像などを掲載した解説パネルを作成した。

◆エトトレ・ソットサスやスーパースタジオといったデザイナーたちは、カウンターカルチャーの波に乗って、変動する社会におけるデザインの役割を問い直すマニフェストを次々に発表した。現代においても鮮烈なこれらのテキストの魅力を伝えるべく、一部をイタリア語から翻訳し、作品とともに掲出した。

◆アイコン的な唇型のソファ《ボッカ》は、当館のコレクションの中でも人気の椅子のひとつであるが、そのデザインの背景については十分に触れられてこなかった。本展示では解説パネルにおいて、ミラノのフィットネスジムのロビーのためにデザインされた一点物をもとに商品化されたこと、ステレオタイプな美の概念への皮肉が込められていることなどを紹介した。また、デザインを手がけたスタジオ 65 に当時の画像をご提供いただき、パネルに掲載した。

◆色鮮やかな椅子やプラスチックの質感が特徴的な椅子に加え、タイガー立石のサイケデリックな版画といった主張の強い展示物が並びつつも、時代・地域を揃えたことにより統一感のある展示となった。人工芝を貼った展示台も空間によく馴染み、自然回帰の思想と人工物への夢が共存した時代の空気をさりげなく伝えていた。

(佐伯綾希)

## ■担当後記：《特集：孫雅由の小宇宙》

◆令和3年度、埼玉県在住のコレクターである河正雄氏から、170点を越える孫雅由の版画とドローイングをご寄贈いただいた。いずれの作品も小品でありながら、作者の芸術観の源泉を理解する上で貴重な作例であり、1970年代以降の現代美術における稀有な実践として捉えることのできる作品群である。今回は、これらの寄贈作品のお披露目を兼ねて特集展示を行った。

◆在日韓国人二世として大阪に生まれた孫は美術家を志し、1966年、17歳で上京し、すいどーばた美術学院で油絵を学んだ。1968年に多摩美術大学に入学した後、自主退学しているが、上京して出会った美術家の高山登から教えを受け、1960年代末には高山登が制作場所としていた屋外の空地「戸塚スペース」で活動を始めた。当初は、「戸塚スペース」の風景や高山が制作に用いた枕木を題材にした身体表現を試みると同時に、実験映像の制作にも挑戦している。

◆こういった模索期を経て、孫が本格的に絵画に取り組むようになったのは、関西に戻った1976年以降である。1970年代後半にはドライポイントや腐食を用いた銅版画に着手し、初めは、アンフォルメル先駆者ヴォルスを彷彿とさせる奇妙なイメージを描いている。ほどなく具象的なイメージは消え去り、銅版画の線の表情や腐食による濃淡を巧みに用いて、線や形が現れては消えていくような、動的な空間性を持つ作品を生み出していく。

◆銅版画に並行して制作されたドローイングでは、実験的プロセスも導入している。例えば、鉛筆で描いた線を断片的に消しゴムで消し、線とその痕跡を画面に集積していくシリーズを制作している。また、厚紙や板にボンドを塗り、乾かしてからカッターなどで切り込みを入れ、その凹凸に薄い紙を充ててフロッタージュする作品も手

がけた。

◆1980年代後半になると、色彩が主要なテーマになっていく。色彩を対比させモザイク状に構成したり、色の点や線を緻密に集積したりする作品を制作する一方、物理的現象で生じる色彩のにじみに着眼した作品も試みた。

◆紹介した作品は小品であるがゆえに、作者の思考や制作のプロセスが鋭敏に反映されている。孫は造形表現を通して、生成と消滅、実在と不在、見えるものと見えないもの、意識と無意識の間にある始原的な世界を探索しようとした。手のひらに載るような画面には、孫が触れようとした小宇宙が、まさに凝縮されているといえる。

(平野到)



「特集：孫雅由の小宇宙」展示風景

## ■出品リスト

### 展示室 A

#### 1 セレクション 3/III/三

作家名	作品名	制作年	技法・素材	備考
〈通期展示〉				
オーギュスト・ルノワール	[1841-1919] 三人の浴女	1917-1919	油彩、カンヴァス	
モーリス・ユトリロ	[1883-1955] 旗で飾られたモンマルトルのサクレ・クール寺院	1919	油彩、カンヴァス	
泉茂	[1922-1995] 折る三角	c.1981 (昭和56頃)	油彩、カンヴァス	平成24年度泉照子氏寄贈
元永定正	[1922-2011] さんくろりさんかくすい	1983 (昭和58)	染織、タペストリー	
堀越陽子	[1931-2006] 衍	1985 (昭和60)	ステンレス、鏡	平成15年度寄贈
深井隆	[1951-] 逃れゆく思念 - 時の曳航 -	1998 (平成10)	木、金箔	
〈前期展示〉				
ヤン・トーロップ	[1858-1928] 生命の守護神	1895	クレヨン、紙、パネル	平成15年度埼玉県近代美術館フレンド寄贈
ジョナス・メカス	[1922-2019] ひなぎくを持った ケイト・マンハイム 1972	1983	セリグラフ、紙	平成29年度有限会社ワタスキ/ときの忘れもの取締役 綿貫令子氏寄贈
関根伸夫	[1942-2019] Touch Blue	1976 (昭和51)	リトグラフ、紙	平成29年度有限会社ワタスキ/ときの忘れもの取締役 綿貫令子氏寄贈
ユルゲン・クラウケ	[1943-] ビッグ・スリープⅢ	1990-1991	タイプCプリント	
〈後期展示〉				
斎藤与里	[1885-1959] 朝	1915 (大正4)	油彩、カンヴァス	
ジョージ・シーガル	[1924-2000] 赤いシャツを着た三つの人体	1975	エッチング、アクアチント、紙	
吉田穂高	[1926-1995] 三幕の神話 (タスマニア物語)	1974 (昭和49)	木版、垂鉛凸版、紙	昭和57年度寄贈
関根伸夫	[1942-2019] 絵空事—鳥居	1975 (昭和50)	セリグラフ、紙	平成29年度有限会社ワタスキ/ときの忘れもの取締役 綿貫令子氏寄贈

関根伸夫	[1942-2019]	Touch Red	1976 (昭和 51)	リトグラフ、紙	平成 29 年度有限会社フタヌキ/ときの忘れもの取締役 綿貫令子氏寄贈
辰野登恵子	[1950-2014]	Aug-Oct. '92 VI	1992 (平成 4)	エッチング、アクアチント、ソフトグラウンド・エッチング、紙	

## 2 デザインで語るユートピア—1960-70 年代イタリアから

作家名	作品名	制作年	技法・素材	備考	
<b>&lt;通期展示&gt;</b>					
アキッレ・カスティオーニ ピエル・ジャコモ・カスティオーニ	[1918-2002] [1913-1968]	アルナッジオ	デザイン：1966 製品化：1980	ザノッタ社/イタリア アルミニウムの座面、スチール・ パイプにエナメル塗装のフレーム	
アキッレ・カスティオーニ	[1918-2002]	プリマテ	デザイン・製品化：1970	ザノッタ社/イタリア 高硬度発泡プラスチックのフレーム、 ポリスチレンの基底部、ポリウレタン フォームにビニールカーバー、スチール・ パイプにクロムメッキ仕上げ	
ヨナタン・デ・バス ドナート・ドゥルビーノ パオロ・ロマッツィ カルラ・スコラーリ	[1932-1991] [1935-] [1936-] [1930年代-]	プロウ	デザイン：1967 製品化：1968	ザノッタ社/イタリア 高周波溶着した PVC (ポリ塩化ビニル)	
ピエロ・ガッツィ チェーザレ・パオリーニ フランコ・テオドーロ	[1940-] [1937-1983] [1939-2005]	サッコ	デザイン・製品化：1968	ザノッタ社/イタリア 皮革、ポリスチレンの細粒	
ガエターノ・ベシェ	[1939-]	ドンナ	デザイン：1969 製品化：1970	B&B 社/イタリア ポリウレタンフォーム、布張り	
ジャンカルロ・ビレティ	[1940-]	プリア	デザイン・製品化：1967	セルローズ・トリアセテート、 アノニマ・カステッリ社/イタリア スチール・パイプにクロムメッキ 仕上げ、鋳造アルミニウム	
スタジオ 65		ボッカ	デザイン：1970 製品化：1972	グフラム社/イタリア ポリウレタンフォーム、布張り	
エトトレ・ソットサス	[1917-2007]	オリヴェッティ社 「ヴァレンタイン」ポスター	2003 年リプリント版	オフセット印刷、紙 (デザイン：1969)	個人蔵
スーパースタジオ		理性の王国への旅	1968-1969	セリグラフ、紙	個人蔵
スーパースタジオ		建築のヒストグラム	1969	セリグラフ、紙	個人蔵
スーパースタジオ		ナイアガラ、あるいは リフレクティド・アーキテクチャー	1970	オフセット印刷、紙	個人蔵
		『ピアーネータ・フレスコ』第 2-3 号	1968	雑誌	
		『カザベラ』第 358 号	1971 年 1 月	雑誌	個人蔵
		『カザベラ』第 365 号	1972 年 5 月	雑誌	
		『カザベラ』第 406 号	1975 年 10 月	雑誌	
		『スペースデザイン』第 121 号	1974 年 9 月	雑誌	個人蔵
		『スーパースタジオ&ラディカルズ』	1982	書籍 (『インテリア』別冊)	個人蔵
		『イタリー：ザ・ニュー・ ドメスティック・ランドスケープ』	1972	展覧会図録 (ニューヨーク近代美術館)	
<b>&lt;前期展示&gt;</b>					
タイガー立石	[1941-1998]	Coral Moon	1978	セリグラフ、紙	昭和 59 年度寄贈
タイガー立石	[1941-1998]	Cabbage Moon	1979	セリグラフ、紙	昭和 59 年度寄贈
エトトレ・ソットサス 原画：タイガー立石	[1917-2007] [1941-1998]	祝祭としての惑星： 室内楽を聴くための筏	1972	リトグラフ、紙	平成 25 年度寄贈
エトトレ・ソットサス 原画：タイガー立石	[1917-2007] [1941-1998]	インドの想い出：ぶどうの入った フルーツ・ボウル	1972-1973	リトグラフ、紙	平成 25 年度寄贈
<b>&lt;後期展示&gt;</b>					
タイガー立石	[1941-1998]	Moon's Satisfaction	1979	セリグラフ、紙	昭和 59 年度寄贈
タイガー立石	[1941-1998]	The First Suggestion	1979	セリグラフ、紙	昭和 59 年度寄贈
エトトレ・ソットサス 原画：タイガー立石	[1917-2007] [1941-1998]	祝祭としての惑星：香、LSD、マリファナ、 阿片、笑気ガスのディスベンサー	1972	リトグラフ、紙	平成 25 年度寄贈
エトトレ・ソットサス 原画：タイガー立石	[1917-2007] [1941-1998]	インドの想い出：ティール・ポット	1972-1973	リトグラフ、紙	平成 25 年度寄贈
<b>3 特集 孫雅由の小宇宙</b>					
孫雅由	[1949-2002]	無題	1976 (昭和 51)	ドライポイント、アクアチント、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	無題	1976 (昭和 51)	ドライポイント、アクアチント、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	現れるもの 沈みゆくもの	1976 (昭和 51)	ドライポイント、アクアチント、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	無題	1976 (昭和 51)	ドライポイント、ルーレット、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	単細胞生活	1977 (昭和 52)	ドライポイント、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	無題	1978 (昭和 53)	ドライポイント、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	甲虫	1978 (昭和 53)	ドライポイント、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	水辺でのひととき	1978 (昭和 53)	ドライポイント、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	飛び散る花粉	1978 (昭和 53)	ドライポイント、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	昆虫記	1978 (昭和 53)	ドライポイント、ルーレット、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈

孫雅由	[1949-2002]	古生代の記憶	1978 (昭和 53)	ドライポイント、ルーレット、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	無題	1979 (昭和 54)	ドライポイント、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	無題	1979 (昭和 54)	ドライポイント、アクアチント、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	無題	1982 (昭和 57)	ドライポイント、アクアチント、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	形態の消去	1982 (昭和 57)	アクアチント、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	無題	1983 (昭和 58)	ドライポイント、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	無題	1983 (昭和 58)	ドライポイント、アクアチント、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	無題	1984 (昭和 59)	ドライポイント、アクアチント、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	無題	1985 (昭和 60)	ドライポイント、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	無題	1986 (昭和 61)	ドライポイント、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	無題	1986 (昭和 61)	ドライポイント、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	無題	1986 (昭和 61)	ドライポイント、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	無題	1986 (昭和 61)	アクアチント、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	無題	c.1988 (昭和 63 頃)	ドライポイント、ルーレット、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	無題	1991 (平成 3)	ドライポイント、アクアチント、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	無題	1993 (平成 5)	ドライポイント、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	無題	1993 (平成 5)	ドライポイント、ルーレット、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	無題	1994 (平成 6)	ドライポイント、ルーレット、紙、 コラーージュ	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	無題	1980 年代初め	鉛筆、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	無題	1980 年代初め	鉛筆、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	無題	1980 年代初め	鉛筆、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	F81-35	1981 (昭和 56)	フロッターージュ、鉛筆、紙、台紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	無題	1981 (昭和 56)	フロッターージュ、鉛筆、紙、台紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	記憶の痕跡	1984 (昭和 59)	フロッターージュ、鉛筆、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	E85-372	1985 (昭和 60)	水彩、鉛筆、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	WS 86-40	1986 (昭和 61)	水彩、鉛筆、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	無題	1986 (昭和 61)	水彩、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	WS 86-45	1986 (昭和 61)	水彩、鉛筆、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	WS 86-48	1986 (昭和 61)	水彩、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	無題	c.1986 (昭和 61 頃)	水彩、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	無題	1986 (昭和 61)	水彩、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	色の位置	1987 (昭和 62)	水彩、鉛筆、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	WS 87-166	1987 (昭和 62)	水彩、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	自立する色	1987-1997 (昭和 62-平成 9)	水彩、鉛筆、紙、台紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	無題	1980 年代末	水彩、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	無題	1980 年代末	水彩、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	無題	1993 (平成 5)	水彩、クレヨン、鉛筆、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	自立する色	1993 (平成 5)	水彩、鉛筆、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	自立する色	1993 (平成 5)	水彩、鉛筆、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	空間の間合い	1994 (平成 6)	水彩、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	空間の間合い	1996 (平成 8)	水彩、木炭、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	空間の間合い	1996 (平成 8)	水彩、木炭、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	予響色	1991 (平成 3)	色墨、木炭、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	無題	1998 (平成 10)	色墨、木炭、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	無題	1998 (平成 10)	色墨、木炭、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	無題	1990 年代後半	色墨、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	無題	1990 年代後半	色墨、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	無題	2000 (平成 12)	色墨、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	無題	2000 (平成 12)	色墨、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈
孫雅由	[1949-2002]	無題	2000 (平成 12)	色墨、紙	令和 3 年度河正雄氏寄贈

〈参考資料〉

孫雅由 身体の風景 (神奈川県戸塚にて) / 撮影：高山登 1969 (昭和 44) 展覧会図録『孫雅由 魂の響き』(光州市立美術館、2006 年) より

展示室 A 小部屋 19 世紀後半のフランス絵画—丸沼芸術の森寄託作品より

ウジェーヌ・ドラクロワ	[1798-1863]	聖ステパノの遺骸を抱え起こす弟子たち	1860	油彩、板にカルトン貼付	平成 17 年度丸沼芸術の森寄託 (登録美術品)
ウジェーヌ・ブーダン	[1824-1898]	ノルマンディーの風景	1854-1857	油彩、板	平成 24 年度丸沼芸術の森寄託 (登録美術品)
アルフレッド・シスレー	[1839-1899]	セーヴルの坂道	1879	油彩、カンヴァス	令和 2 年度丸沼芸術の森寄託

展示室 A 入口

アリスティド・マイヨール	[1861-1944]	イル・ド・フランス	1925	ブロンズ	
--------------	-------------	-----------	------	------	--

## ■ MOMAS コレクション [II]

- 会期：2022年9月3日（土）～11月27日（日）
- 主催：埼玉県立近代美術館
- 協力：JR 東日本大宮支社
- 入場者数：9,503人
- 広報印刷物：ポスター B1・B2（2種）／デザイン：杉山さゆり
- 担当学芸員：菊地真央、佐藤あゆか、平野到



ポスター（各B1・B2）

## ■展示室 A（1階）

### 《セレクション》

ピカソほか、MOMAS コレクションの名品を紹介した。

### 《さいきんのたまもの》

野見山暁治や秋岡美帆、正木隆の作品など、前年度新たに寄贈された収蔵品を紹介した。

### 《月を待つ—日本画の夜景》

夜景表現に注目し、横山大観や森田恒友など様々な画家の日本画作品を中心に紹介した。

## ■広報記録

### 〈Web〉

・告知：『産経ニュース』2022年9月27日

## ■担当後記：《さいきんのたまもの》

◆このコーナーでは、令和3年度に当館に寄贈され、新たに収蔵品に仲間入りした作品を紹介した。ありがたいことに294点もの寄贈があり、スペースの関係上すべての作品を展示することは叶わなかったが、すでに第1期で特集展示されていた孫雅由の作品を省略し、特に点数が多かった林芳史の作品は重要作のみに絞るなどして、作家やジャンル、作風がバランスよく並ぶよう心がけた。

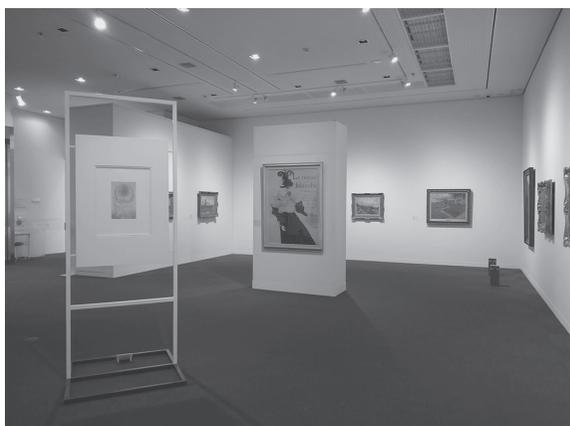
◆当館は、もの派をはじめとする1970年代の作品を多く収蔵しているが、令和3年度の寄贈でも堀浩哉、吉田克朗、飯田昭二、秋山祐徳太子など70年代前後に活躍した作家の作品が多く集まったため、同時代の芸術動向を概観できるよう作品の配置を工夫した。なかでも堀浩哉の初期作品は、美共闘（美術家共闘会議）の挑戦的な試みを示す重要なものであり、今回の目玉のひとつとなった。展示にあたっては作家本人と協議しながら、長期間の展示に耐えうるよう作品に処置を施したほか、作品の配置の微調整を行った。

◆当初、堀浩哉《15個の石膏》の展示には、館内の既存の展示台を使用していたが、作家のご意向により、作品発表時に展示台として使用していたスチール机に差し替えた。この差し替えによって、当時の雰囲気をより直接的に鑑賞者に伝えることが可能となった。この机は作品の付属物として、今後も当館の展示で使用していく見込みである。

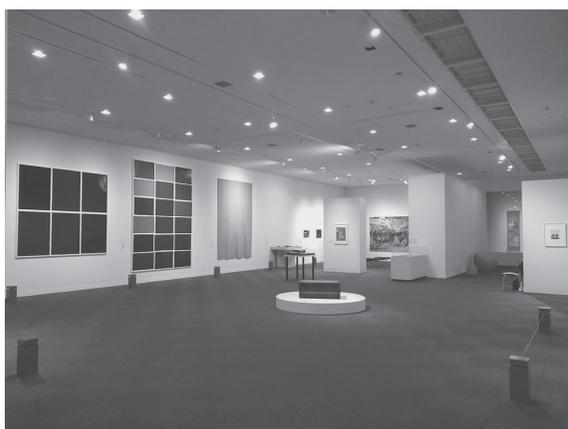
◆作品の収集は美術館にとって重要な任務である。しかしながら、収蔵品は展示活用されなければ意味がない。今回紹介することができなかった作品についても、なる

べく早く展示の機会を設けたいと考えている。大変貴重な作品、資料を寄贈いただいた関係者の皆様には、あらためて御礼申し上げたい。

(佐藤あゆか)



「セレクション」展示風景



「さいぎんのだまもの」展示風景



「月を待つ」展示風景

## ■出品リスト

### 展示室 A

#### 1 セレクション

作家名	作品名	制作年	技法・素材	備考
〈通期展示〉				
アルフレッド・シスレー	[1839-1899] セーヴルの坂道	1879	油彩、カンヴァス	令和2年度丸沼芸術の森寄託
アンドレ・ドラン	[1880-1954] 浴女	1925	油彩、カンヴァス	
アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック	[1864-1901] 『ラ・ルビュ・ブランシュ』誌ポスター	1895	リトグラフ、紙	平成14年度埼玉県立近代美術館フレンド寄贈
ウジェーヌ・ブーダン	[1824-1898] ノルマンディーの風景	1854-1857	油彩、板	平成24年度丸沼芸術の森寄託（登録美術品）
オーギュスト・ルノワール	[1841-1919] 三人の浴女	1917-1919	油彩、カンヴァス	
クロード・モネ	[1840-1926] ルエルの眺め	1858	油彩、カンヴァス	平成24年度丸沼芸術の森寄託（登録美術品）
クロード・モネ	[1840-1926] ジヴェルニーの積みわら、夕日	1888-1889	油彩、カンヴァス	
ジョルジュ・ルオー	[1871-1958] 横向きのピエロ	c.1925	油彩、紙 (麻布で裏打ち)	
ダビド・アルファロ・シケイロス	[1896-1974] 横たわる裸婦	1930	リトグラフ、紙	
パウル・クレー	[1879-1940] 古代風の二重肖像	1933	パレットナイフによる着彩、紙	
パブロ・ピカソ	[1881-1973] 静物	1944	油彩、カンヴァス	

ボール・デルヴォー	[1897-1994]	森	1948	油彩、板	
マルク・シャガール	[1887-1985]	白い裸婦	1962	油彩、砂、カンヴァス	令和2年度丸沼芸術の森寄託
モーリス・ドニ	[1870-1943]	シャグマユリの聖母子	1925	油彩、カンヴァス	
ルフィーノ・タマヨ	[1899-1991]	ずわっている人	1976	版画の混合技法 (エッチングほか)、紙	
ルフィーノ・タマヨ	[1899-1991]	月蝕	1980	版画の混合技法 (エッチングほか)、紙	
斎藤豊作	[1880-1951]	残れる光	c.1910 (明治43頃)	油彩、カンヴァス	平成29年度さいかつ農業協同組合寄託
北川民次	[1894-1989]	タスコの裸婦	1941 (昭和16)	木版、紙	
北川民次	[1894-1989]	メキシコの浴み	1941 (昭和16)	木版、紙	
<b>(参考資料)</b>					
		『ディエゴ・リベラの作品』/ 図版：公教育省のフレスコ壁画「労働の中庭」	1928年/発行：ノ イアー・ドイチャー 社出版、ベルリン	印刷物	個人蔵
著：ホアキン・メンデス・ リバス		『クアウトモック、悲劇』 /挿画：ディエゴ・リベラ	1925年/発行：私家版、 メキシコシティ	印刷物	個人蔵
著：ヘルマン・リスト・アルスピダ		『エストリデンティスタ運動』 /挿画：ラモン・アルバ・デ・ラ・ カナル《エストリデンティスタ運動》	1926年/発行：蔵 オリソンテ編集社、 ペラクルス州ハラバ	印刷物	個人蔵
		『コンテンポラネオス』1号	1928年6月/ 発行地：メキシコシティ	印刷物	個人蔵
図版：ルフィーノ・タマヨ		『コンテンポラネオス』4号	1928年9月/ 発行地：メキシコシティ	印刷物	個人蔵
図版：マリア・イスキエルド		『コンテンポラネオス』16号	1929年9月/ 発行地：メキシコシティ	印刷物	個人蔵
図版：北川民次		『コンテンポラネオス』21号	1930年2月/ 発行地：メキシコシティ	印刷物	個人蔵
図版：セルゲイ・ エイゼンシュテイン		『コンテンポラネオス』36号	1931年5月/ 発行地：メキシコシティ	印刷物	個人蔵
<b>&lt;前期展示&gt;</b>					
ボール・ゴージェン	[1848-1903]	マナオ・トゥババウ (死霊は見ている)	1893-1894	木版、紙	
ボール・ゴージェン	[1848-1903]	ナヴェナヴェ・フェヌア (かぐわしき大地)	1893-1894	木版、紙	
<b>&lt;後期展示&gt;</b>					
ボール・ゴージェン	[1848-1903]	アウティ・テ・バベ (川岸の女たち)	1893-1894	木版、紙	
ボール・ゴージェン	[1848-1903]	ノアノア (かぐわしい)	1893-1894	木版、紙	

## 2 さいきんのたまもの

<b>&lt;通期展示&gt;</b>					
森田恒友	[1881-1933]	森田恒友旧蔵トランク			令和3年度寄贈
早瀬龍江	[1905-1991]	妖火	1954 (昭和29)	油彩、ボタン、糸、 カンヴァス	令和3年度久富久美香氏寄贈
白木正一	[1912-1995]	Work	1960 (昭和35)	リトグラフ、紙	令和3年度久富久美香氏寄贈
白木正一	[1912-1995]	Work	1979 (昭和54)	モノタイプ、ペン、紙	令和3年度久富久美香氏寄贈
野見山暁治	[1920-]	今日になった	2003 (平成15)	油彩、カンヴァス	令和3年度寄贈
飯田昭二	[1927-2019]	紙・墨	c.1989 (平成元頃)	墨、紙	令和3年度林卓志氏寄贈
秋山祐徳太子 (作画：島本慶)	[1935-2020]	東京都知事選挙立候補ポスター 「TOKYO ラブソディー」	1975 (昭和50)	オフセット印刷、紙	令和3年度ギャラリーー 58 寄贈
秋山祐徳太子	[1935-2020]	選挙運動用通常葉書	1975 (昭和50)	オフセット印刷、紙	令和3年度ギャラリーー 58 寄贈
秋山祐徳太子 (作画：栗山豊)	[1935-2020]	東京都知事選挙立候補ポスター 「Fever! Akiyama」	1979 (昭和54)	オフセット印刷、紙	令和3年度ギャラリーー 58 寄贈
秋山祐徳太子 (ポートレート撮影：渡辺克巳)	[1935-2020]	東京都知事選挙立候補ポスター 「都市を芸術する!」	1979 (昭和54)	オフセット印刷、紙	令和3年度ギャラリーー 58 寄贈
郭徳俊	[1937-]	Out Time 811	1982 (昭和57)	エッチング、エンボス、 箔押し、紙	令和3年度河正雄氏寄贈
野田哲也	[1940-]	Diary: April 3rd '76 (c)	1976 (昭和51)	木版、シルクスクリーン、 和紙	令和3年度久富久美香氏寄贈
吉田克朗	[1943-1999]	LONDON II (Fitzmaurice Place)	1975 (昭和50)	エッチング、紙	令和3年度大村和子氏寄贈
林芳史	[1943-2001]	Line (Tosop)	1974 (昭和49)	エッチング、紙	令和3年度林卓志氏寄贈
林芳史	[1943-2001]	Pencil	1975 (昭和50)	コンテ、紙	令和3年度林卓志氏寄贈
文承根	[1947-1982]	無題	1977 (昭和52)	オフセット、紙	令和3年度河正雄氏寄贈
堀浩哉	[1947-]	鑑賞を拒否する	1969 (昭和44) / 再制作：1992 (平成4)	麻布、木	令和3年度寄贈
堀浩哉	[1947-]	白いクレヨン	1972 (昭和47)	クレヨン、紙 (グラビア雑誌)	令和3年度寄贈
堀浩哉	[1947-]	4本のクレヨン	1973 (昭和48)	クレヨン、紙 (グラビア雑誌)	令和3年度寄贈
堀浩哉	[1947-]	15個の石膏	1973 (昭和48) / 1989年鋳造 (平成元)	1973年制作：石膏(6個)、 1989年鋳造：ブロンズ (6個)	令和3年度寄贈

堀浩哉	[1947-]	THREE PRIMARY COLORS PRACTICE	1975 (昭和 50)	セリグラフ、紙	令和 3 年度寄贈
堀浩哉	[1947-]	THREE PRIMARY COLORS PRACTICE	1975 (昭和 50)	セリグラフ、紙	令和 3 年度寄贈
堀浩哉	[1947-]	LINE PRACTICE	1977 (昭和 52)	粉絵具、カンヴァス	令和 3 年度寄贈
秋岡美帆	[1952-2018]	ゆるるかげ	1993 (平成 5)	NECO プリント、麻紙	令和 3 年度秋岡ソノ氏寄贈
川俣正	[1953-]	「Project Work in Saitama'83」 ブランドローイング	1983 (昭和 58)	ペン、鉛筆、紙	令和 3 年度寄贈
川俣正	[1953-]	「Project Work in Saitama'83」 ブランドローイング	1983 (昭和 58)	ペン、鉛筆、紙	令和 3 年度寄贈
川俣正	[1953-]	「Project Work in Saitama'83」 ブランドローイング	1983 (昭和 58)	ペン、鉛筆、紙	令和 3 年度寄贈
川俣正	[1953-]	「Project Work in Saitama'83」 ブランドローイング	1983 (昭和 58)	ペン、鉛筆、紙	令和 3 年度寄贈
正木隆	[1971-2004]	Shot 02-2	2002 (平成 14)	油彩、綿布	令和 3 年度一杉徹氏寄贈
正木隆	[1971-2004]	from DRIVING to DIVING 03-8	2003 (平成 15)	油彩、綿布	令和 3 年度正木建治氏寄贈

(参考資料)

		『美術史評』第 1 号	1971 (昭和 46) 年 2 月	雑誌	
		『美術史評』第 2 号	1971 (昭和 46) 年 6 月	雑誌	
		『記録帯』第 5 号	1977 (昭和 52) 年 6 月	雑誌	
		「プリンティング・マシーン」展 《15 個の石膏》記録写真			

(前期展示)

林芳史	[1943-2001]	X	1976 (昭和 51)	リトグラフ、紙	令和 3 年度林卓志氏寄贈
-----	-------------	---	--------------	---------	---------------

(後期展示)

林芳史	[1943-2001]	Work	1980 (昭和 55)	彩色、和紙	令和 3 年度林卓志氏寄贈
-----	-------------	------	--------------	-------	---------------

### 3 月を待つ—日本画の夜景

(前期展示)

北沢楽天	[1876-1955]	ぼんおどり		彩色、絹	
籾本清方	[1878-1972]	梅月相思	c.1940 (昭和 15 頃)	彩色、絹	平成 11 年度鈴木い弥氏寄贈
森田恒友	[1881-1933]	月見	c.1930 (昭和 5 頃)	墨、紙	昭和 58 年度森田仁介氏寄贈
森田恒友	[1881-1933]	たそかれ	c.1922-1924 (大正 11-13 頃)	彩色、紙	昭和 58 年度森田仁介氏寄贈
森田恒友	[1881-1933]	月下人物		彩色、紙	令和 2 年度綾部良司氏寄贈
江森天寿	[1887-1925]	梅月	1922 (大正 11)	彩色、絹	平成 26 年度小西豊子氏、小西範子氏寄贈
児玉希望	[1898-1971]	作品名不詳		彩色、絹	令和元年度岩下仁氏寄託

(後期展示)

橋本雅邦	[1835-1908]	月下群雁図	c.1899 (明治 32 頃)	墨、絹	
橋本雅邦	[1835-1908]	月夜山水		墨、絹	
野村文挙	[1854-1911]	近江八景 唐崎夜雨	c.1907 (明治 40 頃)	彩色、絹	平成 19 年度大熊雄二氏、大熊清二氏、大熊聡一郎氏、煙石澄子氏寄贈
横山大観	[1868-1958]	朧夜	c.1924 (大正 13 頃)	彩色、絹	平成 19 年度大熊雄二氏、大熊清二氏、大熊聡一郎氏、煙石澄子氏寄贈
川村曼舟	[1880-1942]	春宵		彩色、絹	平成 19 年度大熊雄二氏、大熊清二氏、大熊聡一郎氏、煙石澄子氏寄贈

### 展示室 A 入口

アリストイド・マイヨール	[1861-1944]	イル・ド・フランス	1925	ブロンズ	
--------------	-------------	-----------	------	------	--

## ■ MOMAS コレクション [Ⅲ]

■会期：2022年12月3日(土)～2023年2月26日(日)

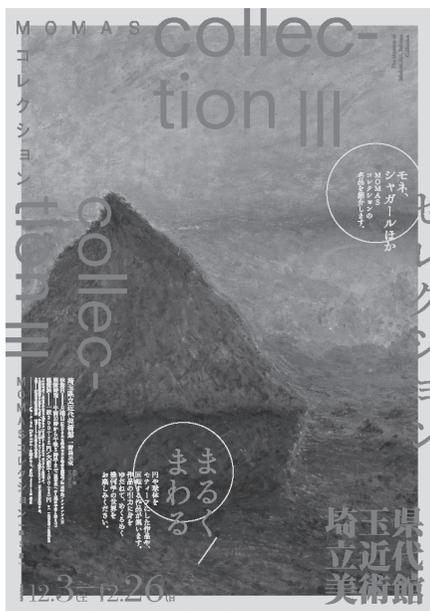
■主催：埼玉県立近代美術館

■協力：JR 東日本大宮支社

■入場者数：6,762人

■広報印刷物：ポスター B1・B2 (2種) / デザイン：杉山さゆり

■担当学芸員：五味良子、佐藤あゆか



ポスター (各 B1・B2)

## ■展示室 A (1階)

### 《セレクション》

シャガール《二つの花束》ほか、MOMAS コレクションの名品を紹介した。

### 《まるく／まわる》

円や球体をモチーフにした作品や回転する作品を集めた。

## ■広報記録

〈Web〉

・告知：『Padograph』2023年1月18日

## ■担当後記：《まるく／まわる》

◆コレクションの中から、円や回転をテーマとする作品を集めて展示した。鑑賞者が先入観なく作品と対話できるよう、今回は「目に映るものが全て」であるとして説明的な要素は極力省いた。背景知識がなくても楽しんでいただきたかったため、直感的にテーマを感じやすい作品を選択した。また日常と切り離された鑑賞に集中できるよう、暗めの展示空間を意識した。展示全体として有機的なイメージがあったため、コーナー内の照明の色温度は低めの暖色系で統一した。

◆展示構成は遠藤利克の彫刻作品を中心に、円のような動線となるように設定した。カットティングシートを使って、円や回転から連想される単語を作品と組み合わせ、壁面に掲出したり、半透明のビニールのカーテンを設置したり、コーナー解説は円環をテーマとする R.W. エマーソンの引用をデザインしたスクリーンにしたりするなど、ディスプレイの面でもテーマの持つ潜在力を引き出すような創意工夫を試みた。鑑賞者が作品の間を自由に渡り歩く中で、耳をすませると作品同士の静かな対話が聞こえてくるような体験につながったのであれば成功である。

◆また、広島を拠点に全国的に活躍している作家・諫山元貴の映像作品を収蔵品と組み合わせで紹介した。諫山は「崩壊と複製」をキーワードに、制御できない出来事によって物質が変化していく様子や瞬間を、映像や立体で表現している。諫山の映像シリーズは既製品を複製し、それが水中で崩れていく様子を定点撮影したものであり、速度編集なく無音の状態で再生されている。今回は円筒形の物体が崩れ去るイメージがループする映像作品を展示した。塩ビパイプを型どった土の円柱は、一見それぞれ異なる 11 本の個体のようにだが、実際は同一の

円柱で、映像編集により時間をずらして再生されたものである。映像は円環構造となっており、次々に崩れては再び現れる円柱のイメージが終わることなくくり返し展開する。円環をテーマとするさまざまな収藏品と響き合い、異なるモノの間で流れる時間への意識が呼び覚まされるよう意図した。  
(五味良子)



「セレクション」展示風景



「まるく／まわる」展示風景

## ■出品リスト

### 展示室 A

#### 1 セレクション

作家名		作品名	制作年	技法・素材	備考
ウジェヌ・ブーダン	[1824-1898]	ノルマンディーの風景	1854-1857	油彩、板	平成 24 年度丸沼芸術の森寄託 (登録美術品)
クロード・モネ	[1840-1926]	ルエルの眺め	1858	油彩、カンヴァス	平成 24 年度丸沼芸術の森寄託 (登録美術品)
クロード・モネ	[1840-1926]	ジヴェルニーの積みわら、夕日	1888-1889	油彩、カンヴァス	
古賀春江	[1895-1933]	コンポジション	c.1930 (昭和 5 頃)	油彩、カンヴァス	
瑛九	[1911-1960]	手	1957 (昭和 32)	油彩 (吹き付け)、板	
瑛九	[1911-1960]	子供のプロフィール	1957 (昭和 32)	油彩、カンヴァス	
パブロ・ピカソ	[1881-1973]	静物	1944	油彩、カンヴァス	
マルク・シャガール	[1887-1985]	二つの花束	1925	油彩、カンヴァス	
早瀬龍江	[1905-1991]	願望	1953 (昭和 28)	油彩、カンヴァス	平成 30 年度木崎信尚氏寄贈
堀田操	[1921-1999]	花言葉	1958 (昭和 33)	油彩、カンヴァス	平成 20 年度堀田浅子氏寄贈
三尾公三	[1923-2000]	蒼天の刻	1982 (昭和 57)	アクリル、板	
ロベルト・マッタ	[1911-2002]	入口は出口にあり	1983	エッチング、 アクアチント、紙	
小島喜八郎	[1935-2008]	9月の庭にて	2005 (平成 17)	油彩、カンヴァス	平成 21 年度小島とし系氏寄贈
上田薫	[1928-]	ジェリーにスプーン C	1990 (平成 2)	油彩、カンヴァス	
出店久夫	[1945-]	私風景 '92 - 春風	1992 (平成 4)	ゼラチン・シルバー・ プリント、アクリル、 合板他	
塩崎由美子	[1954-]	シリーズ〈恢復〉より	2011 (平成 23)	半光沢の銀塩印画紙に レーザープリント	平成 23 年度寄贈
市川美幸	[1963-]	「テレ・シップ・スコープ」シリーズより	1999 (平成 11)	タイプ C プリント	平成 25 年度国際交流基金寄贈
市川美幸	[1963-]	「テレ・シップ・スコープ」シリーズより	1999 (平成 11)	タイプ C プリント	平成 25 年度国際交流基金寄贈
市川美幸	[1963-]	「テレ・シップ・スコープ」シリーズより	1999 (平成 11)	タイプ C プリント	平成 25 年度国際交流基金寄贈

#### 展示室 A 小部屋 対話する部屋

丸山直文	[1964-]	garden 3	2003 (平成 15)	アクリル、綿布	平成 20 年度寄託
------	---------	----------	--------------	---------	------------

## 2 まるく／まわる

マルセル・デュシャン	[1887-1968]	ロト・レリーフ	1935	紙製ディスク6枚と プレイヤー
ラスロ・モホリ＝ナジ	[1895-1946]	フォトグラム	1922-1926 (1973プリント)	ゼラチン・シルバー・ プリント
ヘルベルト・バイヤー	[1900-1985]	色層の円盤	1970 (昭和54)	セリグラフ、紙 平成20年度本間フミ氏寄贈
田中田鶴子	[1913-2015]	円	1983 (昭和58)	アクリル、カンヴァス 平成11年度寄贈
池田喜重	[1919-]	円I	1970 (昭和45)	油彩、アクリル、 インク、カンヴァス 昭和57年度寄贈
泉茂	[1922-1995]	折る円	c.1981 (昭和56頃)	油彩、カンヴァス 平成24年度寄贈
草間彌生	[1929-]	魂たちが安息する穴	1975 (昭和50)	コラージュ、パステル、 インク、紙
堀越陽子	[1931-2006]	罅	1985 (昭和60)	ステンレス、鏡 平成15年度寄贈
堀越陽子	[1931-2006]	罅	1985 (昭和60)	ステンレス、鏡 令和4年度寄贈
タイガー立石	[1941-1998]	無題	1974 (昭和49)	鉛筆、紙 平成25年度寄贈
安達武生	[1945-2009]	光、石、円	1985 (昭和60)	鉛筆、紙
遠藤利克	[1950-]	「泉－9個からなる」写真II	1989 (平成元)	タイプCプリント
遠藤利克	[1950-]	泉－9個からなる	1989 (平成元)	木、タール
柄澤齊	[1950-]	肖像III ウォルフガング・アマデウス・ モーツァルト	1982 (昭和57)	木口木版、紙
辰野登恵子	[1950-2014]	Aug-Oct.'92 II	1992 (平成4)	エッチング、アクアチント、ソ フトグラウンド・エッチング、紙
辰野登恵子	[1950-2014]	Aug-Oct.'92 III	1992 (平成4)	エッチング、アクアチント、ソ フトグラウンド・エッチング、紙
杉山晶子	[1958-]	In-spiral II	1998 (平成10)	タイプCプリント 平成25年度国際交流基金寄贈
アンドレアス・M. カウフマン	[1961-]	小さな美術史マシーン	1991-92	スライド、スライド・プ ロジェクター、回転装置 平成6年度寄贈
志水児王	[1966-]	緯度35度48分14.648秒/経度139度 29分32.32秒 TYPE-I 23:34-23:38	2007 (平成19)	ラムダプリント 平成20年度寄贈
志水児王	[1966-]	緯度35度48分14.648秒/経度139度 29分32.32秒 TYPE-HC5T 02:34-02:40	2007 (平成19)	ラムダプリント 平成20年度寄贈
<b>&lt;特別出品&gt; 2023.1.6-2.26</b>				
謙山元貴	[1987-]	Order#10	2022 (令和4)	シングルチャンネル・ビデオ インスタレーション/プロジェ クター/ループ映像 (音声なし) 作家蔵

### (参考映像)

監督: フェルナン・レジエ/ ダドリー・マーフィー	[1881-1955] [1890-1976]	パレエ・メカニク	1924	映像 (13分7秒)
撮影: マン・レイ	[1897-1968]			

## 1F ロビー吹き抜け周り

オーギュスト・ロダン	[1840-1917]	ウスタッシュ・ド・サン＝ピエールの頭像	c.1884-86	ブロンズ
エミール＝アントワヌ・ ブールデル	[1861-1929]	チリーの女	1921	ブロンズ
シャルル・デスピオ	[1861-1946]	ピアンキーニ嬢	1929	ブロンズ

## 展示室 A 入口

アリスティド・マイヨール	[1861-1944]	イル・ド・フランス	1925	ブロンズ
--------------	-------------	-----------	------	------

## ■ MOMAS コレクション [IV]

■会期：2023年3月4日（土）～5月7日（日）

■主催：埼玉県立近代美術館

■協力：JR 東日本大宮支社

■入場者数：7,052人

■広報印刷物：ポスター B1・B2（2種）／デザイン：杉山さゆり

■担当学芸員：菊地真央、佐原しおり、吉岡知子



ポスター（各B1・B2）

## ■展示室A（1階）

### 〈セレクション〉

モネほか、MOMASコレクションの名品を紹介した。

### 〈倉田白羊と森田恒友〉

同じ年に生まれ、親交のあった埼玉ゆかりの画家・倉田白羊（1881-1938）と森田恒友（1881-1933）。二人の画業と交友の足跡を、作品や資料を通して紹介した。

### 〈奥原晴湖／菊沢武江〉

南画家、奥原晴湖（前期展示）と日本画家、菊沢武江（後期展示）。埼玉ゆかりの画家をそれぞれ紹介した。

## ■広報記録

〈Web〉

・告知：『Padograph』2023年2月28日

## ■担当後記：〈倉田白羊と森田恒友〉

◆さいたま市出身の倉田白羊と熊谷市出身の森田恒友は、ともに埼玉県にゆかりの深い同い年の画家である。当館ではご遺族からのご寄贈等により、これまでに二人の作品資料を数多く収集してきた。白羊と恒友は、美術文芸雑誌『方寸』の編集、「院展洋画部」への参加、美術団体「春陽会」の結成など、明治末から昭和初期にかけて長く活動をともにしている。本展示では、二人の画業を交友関係に焦点を当てて紹介した。

◆展示室では白羊と恒友の作品を時代順に交互に展示し、それぞれの作風の変遷と活動の軌跡を比較しながら辿れる構成とした。加えて、恒友がかつて所蔵した白羊作品や、恒友がフランスから白羊に宛てた葉書、白羊が雑誌に寄稿した恒友の追悼文など、二人の交流を物語る作品資料を紹介した。また、雑誌『方寸』および白羊の初期と1920年代の作品を近隣の所蔵先から拝借した。ご出品くださった所蔵者の方々はこの場をお借りして心より感謝申し上げたい。

◆白羊と恒友はともに「旧派」の流れをくむ洋画家として出発するが、白羊は次第に写実を重んじる油彩画へ、恒友は力みのないおおらかな水墨画へと画風を変遷させていった。晩年に築いた画風は大きく異なるが、後半生を長野県上田市で過ごし農民美術運動に携わった白羊と、日本各地を旅行しながら田園風景を描いた恒友の作品には、いずれも自然風景やその地に暮らす名もなき人々への共感を見出すことができる。近代化が急速に進んだ時代に農村風景を見つめた二人の眼差しを、同時代の思潮や美術の流れのなかで考察することは、今後の課題としたい。

（吉岡知子）

## ■担当後記：〈奥原晴湖／菊沢武江〉

◆前期「南画家 奥原晴湖」では、後半生を埼玉県熊谷市で過ごした女性の南画家、奥原晴湖について紹介した。当館で収蔵する作品のうち、状態不良の書1点を除いた10点すべてを紹介する久々の機会となった。また、南画は明治期に衰退するが、その後森田恒友ら大正期の若手画家が南画の表現様式に注目し作品に取り入れている。今回、「セレクション」で女性作家を特集し、次のコーナーで恒友の日本画が紹介されたことで、展示室全体で共有される雰囲気があったように思う。

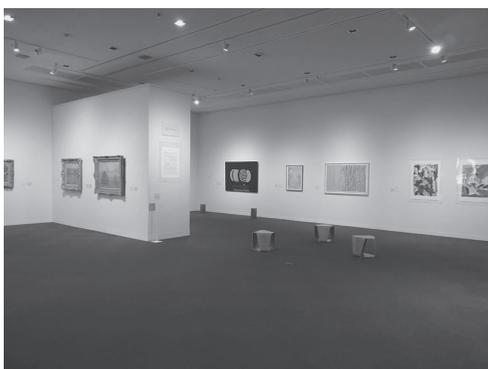
◆晴湖が熊谷に建てた画室「繡水草堂」は、現在もその一部が茨城県立歴史博物館の敷地内で保管されており、見学することができる。今回の展示にあたり、茨城県立歴史博物館の方の解説を受けながら自由に撮影させていただくことができた。画室の撮影画像を、作品と併せて展示することができ、大変感謝している。この場を借りて改めて心より御礼を申し上げたい。

◆展示に関しては、南画にとって、絵画だけでなく画賛も重要であることが伝わるよう解説やキャプション作成の際に心掛けた。次回展示する際には、作品や資料を借用し、南画の魅力や、奥原晴湖という画家の魅力をより分かりやすく紹介できる展示を行いたい。

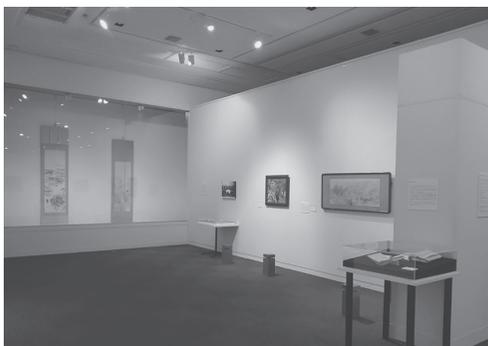
◆後期「菊沢武江の画業」では、加須市出身の日本画家、菊沢武江について紹介した。令和3年度に作家のご家族より所蔵作品・資料の整理および寄贈についてご提案があったため、今年度に調査の上、新たに作品や資料を収蔵することができた。当館の収蔵する帝展出品作3点および寄託作品1点のみでは画業紹介の展示は困難であったが、今年度の新収蔵作品・資料、そして個人や企業の所蔵作品を加えることで、あらましを少しは伝えることができたのではないかと思う。1年間調査のためご協力いただいた武江のご家族の皆様のほか、所蔵者、地域で武江作品を保管している関係者の方々には、快く調査に応じていただいた。改めて深く御礼を申し上げる。

◆武江は、けして抜きんできた画技や画風を誇ったわけではないが、百貨店図案部勤務、中国への研究旅行、同世代の画家との団体設立、特定の地域での支援を基盤にした活動など、大正・昭和期の日本画家の多くに通ずる活動をしてきた画家である。全国的に評価される画家ではないからこそ、地域ゆかりの作家としてコレクションを適宜活用していきたい。今後は展覧会出品作の所在についてなど、少しずつ明らかにしていければと思う。

(菊地真央)



「セレクション」展示風景



「倉田白羊と森田恒友」展示風景



「南画家 奥原晴湖」展示風景



「菊沢武江の画業」展示風景

## ■出品リスト

### 展示室 A

#### 1 セレクション

作家名	作品名	制作年	技法・素材	備考
クロード・モネ	[1840-1926] ジュヴェルニーの積みわら、夕日	1888-1889	油彩、カンヴァス	
カミーユ・ピサロ	[1830-1903] エラニーの牛を追う娘	1884	油彩、カンヴァス	
オーギュスト・ルノワール	[1841-1919] 三人の浴女	1917-1919	油彩、カンヴァス	昭和59年度に以下8金融機関の寄付金で購入：埼玉銀行、武蔵野銀行、埼玉県信用金庫、川口信用金庫、青木信用金庫、小川信用金庫、飯能信用金庫、埼玉県信用農業協同組合連合会
草間彌生	[1929-] A.Q. INFINITY NETS		アクリル絵具、カンヴァス	
草間彌生	[1929-] 青蛇の目をもつ花瓶	1975 (昭和50)	コラーージュ、パステル、インク	
早瀬龍江	[1905-1991] 太古	1975 (昭和50)	油彩、カンヴァス	平成30年度高瀬尚氏寄贈
田中田鶴子	[1913-2015] 円と空間	1988 (昭和63)	アクリル、カンヴァス	平成4年度寄贈
辰野登恵子	[1950-2014] Work 76-D-5	1976 (昭和51)	シルクスクリーン、紙	平成27年度平出利恵子氏寄託
辰野登恵子	[1950-2014] Untitled N-79	1979 (昭和54)	シルクスクリーン、紙 (和紙)	平成27年度平出利恵子氏寄託
藤江民	[1950-] さざなみ I	1984 (昭和59)	リトグラフ、紙	現代版画センターエディション 平成29年度有限会社ワタヌキ／ときの忘れもの 取締役 綿貫令子氏寄贈
藤江民	[1950-] ざ行・い	1982 (昭和57)	リトグラフ、紙	現代版画センターエディション 平成29年度有限会社ワタヌキ／ときの忘れもの 取締役 綿貫令子氏寄贈
奥山民枝	[1946-] 坂	1991 (平成3)	油彩、カンヴァス	

#### 2 倉田白羊と森田恒友

(通期展示)				
倉田白羊	[1881-1938] 牡牛	1908 (明治41)	油彩、カンヴァス	慶應義塾幼稚舎蔵
倉田白羊	[1881-1938] 小笠原島	1914 (大正3)	油彩、カンヴァス	昭和57年度倉田平吉氏寄贈
倉田白羊	[1881-1938] 「小笠原島」の下図	1914 (大正3)	水彩、鉛筆、紙	令和元年度森田恒之氏寄贈
倉田白羊	[1881-1938] 作品名不詳		コンテ、水彩、紙	令和元年度森田恒之氏寄贈
倉田白羊	[1881-1938] 作品名不詳	1924 (大正13)	コンテ、鉛筆、紙	令和元年度森田恒之氏寄贈
倉田白羊	[1881-1938] 石塀	c.1927 (昭和2) - 1932 (昭和7頃)	油彩、カンヴァス	平成17年度森田恒之氏、森田俊之氏、森田武彦氏寄贈
倉田白羊	[1881-1938] 六月	1919 (大正8)	油彩、カンヴァス	
倉田白羊	[1881-1938] 房州風景	1918 (大正7)	油彩、カンヴァス	
倉田白羊	[1881-1938] 夏の崖	c.1928 (昭和3頃)	油彩、カンヴァス	個人蔵
倉田白羊	[1881-1938] 山ふところ	1933 (昭和8)	油彩、カンヴァス	昭和45年度倉田平吉氏寄贈
倉田白羊	[1881-1938] 伊那踊り	c.1924 (大正13頃)	コンテ、紙	平成17年度高瀬巖氏寄贈
倉田白羊	[1881-1938] 柳の若芽	1933 (昭和8)	油彩、カンヴァス	昭和57年度倉田平吉氏寄贈
森田恒友	[1881-1933] 湖畔	1907 (明治40)	油彩、カンヴァス	平成7年度森田仁介氏寄贈
森田恒友	[1881-1933] 初夏のバリ郊外	1914 (大正3)	油彩、カンヴァス	平成17年度森田恒之氏、森田俊之氏、森田武彦氏寄贈
森田恒友	[1881-1933] ブルターニュ 4	1915 (大正4)	油彩、カンヴァス	平成7年度森田仁介氏寄贈
森田恒友	[1881-1933] 見下ろしたる港町	1916 (大正5)	油彩、カンヴァス	昭和58年度森田仁介氏寄贈
森田恒友	[1881-1933] 会津風景	1916 (大正5)	油彩、カンヴァス	昭和58年度森田仁介氏寄贈
森田恒友	[1881-1933] 尾瀬沼風景	1932 (昭和7)	油彩、カンヴァス	平成17年度森田恒之氏、森田俊之氏、森田武彦氏寄贈
	『方寸』第2巻第5号	1908 (明治41) 年6月	方寸社発行	熊谷市立熊谷図書館蔵
	『方寸』第2巻第8号	1908 (明治41) 年11月	方寸社発行	熊谷市立熊谷図書館蔵
	『方寸』第4巻第1号	1910 (明治43) 年1月	方寸社発行	
倉田白羊	[1881-1938] 『方寸』第4巻第1号「新年」原画	1909 (明治42)	インク、紙	平成17年度高瀬巖氏寄贈
	『方寸画曆 四十式季』	1908 (明治41) 年12月	方寸社発行	
森田恒友	[1881-1933] 倉田白羊宛葉書 (バリ)	1914 (大正3) 年7月13日消印		平成17年度高瀬巖氏寄贈
森田恒友	[1881-1933] 倉田白羊宛葉書 (ブルターニュ)	1915 (大正4) 年7月24日		平成17年度高瀬巖氏寄贈
倉田白羊	[1881-1938] 「志士木野佐平次翁の半生」『武俠世界』第3巻第11号	1914 (大正3) 年10月	武俠世界社発行	
倉田白羊	[1881-1938] 「商賈強し」『日本農民美術研究所所報』第1号	1932 (昭和7) 年8月	財団法人日本農民美術研究所発行	平成17年度高瀬巖氏寄贈

		倉田白羊《雑木の丘》 春陽会第五回展覧会絵葉書	1927 (昭和2)		
		『第二回春陽会美術展覧会目録』	1924 (大正13)		
		『春陽会第五回展覧会出品目録』	1927 (昭和2)		
倉田白羊	[1881-1938]	『兄貴恒友』『アトリエ』第10巻第5号	1933 (昭和8)年5月	アトリエ社発行	
森田恒友	[1881-1933]	『平野雑筆』	1934 (昭和9)	古今書院発行	あとがき：倉田白羊
〈前期展示〉					
森田恒友	[1881-1933]	沼辺薄暮	c.1917 (大正6) - 1918 (大正7頃)	墨、紙	昭和58年度森田仁介氏寄贈
森田恒友	[1881-1933]	山村の麦刈	c.1920 (大正9頃)	彩色、絹	平成27年度寄贈
森田恒友	[1881-1933]	水郷図 (冬)	c.1932 (昭和7頃)	彩色、紙	令和元年度綾部良司氏寄贈
〈後期展示〉					
森田恒友	[1881-1933]	山麓	1920 (大正9)	墨、紙	
森田恒友	[1881-1933]	山野万緑	c.1926 (大正15) -1927 (昭和2頃)	彩色、絹	昭和58年度森田仁介氏寄贈
森田恒友	[1881-1933]	水郷図 (春)	c.1932 (昭和7頃)	彩色、紙	令和元年度綾部良司氏寄贈

### 3 奥原晴湖／菊沢武江

〈前期展示 南画家 奥原晴湖〉					
奥原晴湖	[1837-1913]	江山景色	1871 (明治4)	彩色、紙	
奥原晴湖	[1837-1913]	湖上春柳図	1873 (明治6)	墨、絹	
奥原晴湖	[1837-1913]	秋景山水図	1878 (明治11)	彩色、紙	
奥原晴湖	[1837-1913]	夏景山水	c.1891 (明治24頃)	彩色、絹	
奥原晴湖	[1837-1913]	仙境群鶴	1905 (明治38)	彩色、絹	
奥原晴湖	[1837-1913]	渓頭風雨図	1908 (明治41)	墨、紙	昭和62年度高柳栄二氏寄贈
奥原晴湖	[1837-1913]	山風溪雨図	c.1908 (明治41頃)	墨、紙	昭和62年度高柳栄二氏寄贈
奥原晴湖	[1837-1913]	山水図	制作年不詳	墨、紙	平成元年度飯村春氏寄贈
松岡環翠	[1818-1887]				
奥原晴湖	[1837-1913]	水墨山水	制作年不詳	墨、紙	
奥原晴湖	[1837-1913]	秋山探勝図	制作年不詳	彩色、紙	
〈後期展示 菊沢武江の画業〉					
菊沢武江	[1882-1975]	雪舟筆鉄拐仙人図写し	1903 (明治36)	墨、紙	令和4年度東駒子氏寄贈
菊沢武江	[1882-1975]	明治期スケッチブック	1904 (明治37) - 1905 (明治38)	彩色、鉛筆、紙	令和4年度東駒子氏寄贈
菊沢武江	[1882-1975]	明治期スケッチブック	1904 (明治37) - 1905 (明治38)	彩色、鉛筆、紙	令和4年度東駒子氏寄贈
菊沢武江	[1882-1975]	明治期スケッチブック	明治期	彩色、鉛筆、紙	令和4年度東駒子氏寄贈
菊沢武江	[1882-1975]	樹下少女	明治末～大正期	彩色、紙	令和4年度東駒子氏寄贈
菊沢武江	[1882-1975]	野菜園	明治末～大正期	彩色、紙	令和4年度東駒子氏寄贈
菊沢武江	[1882-1975]	植物スケッチ	1914 (大正3)	色鉛筆、紙	令和4年度東駒子氏寄贈
菊沢武江	[1882-1975]	源氏物語絵色紙帖写し	1918 (大正7)	彩色、紙	令和4年度東駒子氏寄贈
菊沢武江	[1882-1975]	《迷藏》関連スケッチ	c.1918 (大正7頃)	色鉛筆、紙	令和4年度東駒子氏寄贈
菊沢武江	[1882-1975]	中国旅行スケッチ	c.1919 (大正8頃)	鉛筆、色鉛筆、水彩、紙	令和4年度東駒子氏寄贈
菊沢武江	[1882-1975]	中国旅行スケッチ	c.1919 (大正8頃)	鉛筆、色鉛筆、水彩、紙	令和4年度東駒子氏寄贈
菊沢武江	[1882-1975]	中国旅行スケッチ	c.1919 (大正8頃)	鉛筆、色鉛筆、紙	令和4年度東駒子氏寄贈
菊沢武江	[1882-1975]	大正期展覧会絵葉書一式	大正期	彩色、紙	東駒子氏蔵
菊沢武江	[1882-1975]	群鶴	c.1929 (昭和4頃)	彩色、紙	
菊沢武江	[1882-1975]	みやまの春	1930 (昭和5)	彩色、紙	
菊沢武江	[1882-1975]	《みやまの春》関連スケッチ一式	1930 (昭和5)	鉛筆、紙	令和4年度東駒子氏寄贈
菊沢武江	[1882-1975]	幽猿図	1931 (昭和6)	彩色、紙	
菊沢武江	[1882-1975]	《幽猿図》関連スケッチ一式	1931 (昭和6)	鉛筆、紙	令和4年度東駒子氏寄贈
菊沢武江	[1882-1975]	牡丹扇面	1945 (昭和20)	彩色、紙	令和4年度東駒子氏寄贈
菊沢武江	[1882-1975]	菖蒲町祭りのスケッチ	1948 (昭和23)	鉛筆、色鉛筆、紙	令和4年度東駒子氏寄贈
菊沢武江	[1882-1975]	武甲山	c.1954 (昭和29頃)	墨、絹	太平洋セメント株式会社蔵
菊沢武江	[1882-1975]	秩父御巡幸絵巻	1956 (昭和31)	彩色、絹	太平洋セメント株式会社蔵
菊沢武江	[1882-1975]	東宮同妃熊谷行啓絵巻	c.1964 (昭和39頃)	彩色、絹	太平洋セメント株式会社蔵
菊沢武江	[1882-1975]	秩父セメント株式会社依頼作品関係写真一式	c.1954 (昭和29) - 1964 (昭和39頃)		東駒子氏蔵
菊沢武江	[1882-1975]	寒牡丹に雀	昭和期	彩色、絹	令和4年度東駒子氏寄贈
菊沢武江	[1882-1975]	春の図	昭和期	彩色、絹	個人蔵
菊沢武江	[1882-1975]	泰山木	昭和期	彩色、絹	個人蔵
菊沢武江	[1882-1975]	加須風景	制作年不詳	彩色、紙	令和4年度東駒子氏寄贈
菊沢武江	[1882-1975]	双鶴	制作年不詳	彩色、絹	平成30年度伊藤千尋氏寄託

菊沢武江	[1882-1975]	ひいな	制作年不詳	彩色、紙	令和4年度東駒子氏寄贈
------	-------------	-----	-------	------	-------------

### 展示室 A 小部屋

戸谷成雄	[1947-]	湿地帯	1985 (昭和 60)	木、石膏、アクリル絵具	
------	---------	-----	--------------	-------------	--

### 展示室 A 入口

アリスティド・マイヨール	[1861-1944]	イル・ド・フランス	1925	ブロンズ	
--------------	-------------	-----------	------	------	--

### 1F ロビー吹き抜け

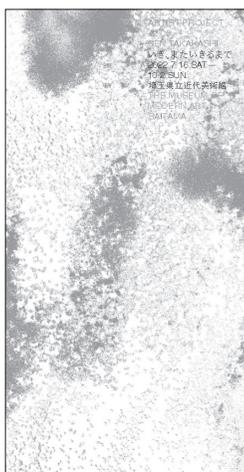
オーギュスト・ロダン	[1840-1917]	ウスタッシュ・ド・サン＝ピエールの頭像	c.1884-86	ブロンズ	
------------	-------------	---------------------	-----------	------	--

エミール＝アントワーヌ・ブールデル	[1861-1929]	チリーの女	1921	ブロンズ	
-------------------	-------------	-------	------	------	--

シャルル・デスピオ	[1861-1946]	ビアンキーニ嬢	1929	ブロンズ	
-----------	-------------	---------	------	------	--

## ■アーティスト・プロジェクト #2.06 高橋 銑 いき、またいきるまで

- 会期：2022年7月16日（土）～10月2日（日）
- 主催：埼玉県立近代美術館
- 協力：LEESAYA
- 助成：公益財団法人 朝日新聞文化財団
- 観覧料：無料
- 広報印刷物：DM 235 × 120mm / デザイン：八木 啓二郎
- 企画：松江 李穂
- 担当学芸員：佐原 しおり



DM デザイン

### ■開催趣旨

「アーティスト・プロジェクト #2.0」は、現在活躍中のアーティストを紹介するプログラムである。2022年度は、東京藝術大学大学院で彫刻を専攻し、現代美術の分野で活躍するかたわら彫刻作品の保存修復にも携わってきた高橋銑を迎えた。高橋は保存修復の仕事のなかで培われた美術作品への洞察を起点に、作品の永続性や作品の保存に関わる制度そのものを批評的に問うアーティストである。

高橋の作品には、飴や香油、膠など可変性のある素材がしばしば用いられ、それらは物質の一過性を体現すると同時に、物質が失われてもなお「存在」が残りを続けることを示唆している。インスタレーション、映像、立体など表現形式は多岐にわたるが、いずれの実践においても美術作品の物理的な「終焉」の先にある「生」を射程に含んでいる。

本展は「Cast and Rot」シリーズ（2階展示室）と

《Twins》（地階センター・ホール）のふたつの展示によって構成された。「Cast and Rot」は、土のなかで成長し（「Cast（鑄造・成型）」）、その後「Rot（腐敗）」していくニンジンにブロンズ彫刻の保存技法を適用したシリーズで、11点が展示された。作家の代表作である本シリーズは、不可逆的に進行する物質の劣化をあらわにすると同時に、作品の劣化に介入する「保存修復」の営為そのものを前景化させるものである。

展覧会にあわせて制作された新作《Twins》は、人体彫刻がモーターによって交互に上下運動を繰り返す作品である。機械仕掛けによってぶつかり合う2体の彫刻が、摩耗しながらゆるやかに消滅へと向かう様子を示唆する本作は、美術作品の物理的な消失が美術作品の「死」たり得るのかを問うていた。美術作品の「生」を捉えようとする実践は、目の前の作品が「物質」でしかないことを逆説的に示している。それでもなお、高橋は「またいきる」存在として作品を見届けようとし、美術作品をめぐる人間の営為そのものを問い続ける。

### ■広報記録

〈新聞〉

・前田朋子「保存・修復から「作品の生」問う」『東京新聞』2022年8月22日

・告知：『朝日新聞』2022年9月6日

〈雑誌、ミニコミ誌等〉

・今井歴矢「消尽に向かうものとその先」『生け花龍生』2022年10月号

・告知：『彩の国だより』2022年8月号

〈Web〉

・告知：『BIGLOBE 旅行』2022年7月 / 『Dokka! おでかけ探検隊』2022年7月 / 『dメニューニュース』2022年7月 / 『goo ニュース』2022年7月 / 『goo 地図』2022年7月 / 『いこーよ』2022年7月 / 『ウォーカープラス』2022年7月 / 『ゆこゆこ』2022年7月

〈テレビ・ラジオ〉

・告知：『朝情報★埼玉 (FM NACK5)』2022年8月23日

### ■企画者後記

◆本展覧会は、現代美術作家として活躍する傍ら彫刻作品の保存・修復に携わってきた高橋銑の作品を通じて、美術館という場で美術作品の死や生について思いを巡らせる機会を作ることを目指した。本展に出品した「Cast and Rot」シリーズの作品は、生ものであるニンジン

素材の一部としており、管理担当者や作家と相談しながら展示室環境に影響のないことを確かめたうえで展示を行った。通常展示室に置くことが認められない生もののニンジンだが、高橋の手によって防腐・防虫処理が施されることで物質的な「死」が先延ばしにされ、新たに作品としての「生」を刻みながら展示室内に存在可能になっていた。私にとっても普段展示室で見ることのない素材から美術作品の保存について考えるきっかけをもらい、大変興味深い経験だった。

◆センター・ホールに展示した《Twins》は設置直後、モーターの不具合で稼働が停止するというトラブルに見舞われた。さらなる故障を防ぐため、一日の稼働時間を制限することになり来場者の方にはご不便をおかけしたが、作家とエンジニアの尽力によって会期終了まで無事展示を続けることができた。《Twins》は上下に動き続けることで作品自体が摩耗していくというコンセプトを含んだものだったが、予想以上に早い段階で作品が壊れたことで、結果として作品の最期について直接的な想像を促すこととなった。展示をすればするほど、作品として動かせば動かすほど作品の寿命が短くなるという矛盾と葛藤は、美術作品を残すことと活かすことのせめぎあいの中で運営している美術館においてこそ、改めて見つめるべき視点だったように思う。

◆本展覧会は「いき、またいきるまで」というタイトル通り、美術作品やものが物質的な「死」によって終わってしまうと単純に仮定するのではなく、終わりのその先や「死」へ向かう過程それ自体について思考させるものであり、同時に、美術作品の物質的な限界や制限と、展示をすることの欲望との複雑な関係性を示唆する意義深い内容だった。本展覧会に合わせて素晴らしい新作を制作して下さった高橋氏に改めて深い感謝を申し上げたい。  
(松江李穂)

#### ■担当後記

◆今回の「アーティスト・プロジェクト #2.0」は、令和3年度に当館学芸員として在籍していた松江李穂のキュレーションによる高橋銑の個展である。当初は令和3年度の開催を検討していたが、展示室の使用状況や予算の都合により令和4年度の開催となった。

◆新作の《Twins》はモーター仕掛けの作品で、オブジェクトの形式をとることが多い高橋にとって初めての挑戦だった。事前にシミュレーションや試験稼働を行っていたが、開幕後に不具合が続き長期間稼働を停止すること

となった。会期中もモーターの修整を続け、作品の稼働を再開したのは8月27日であった。その間に会場を訪れた方々に対して万全な鑑賞の場を設けることができなかったことについて、心よりお詫び申し上げる。

◆現代美術の分野で作品を発表し、同時に彫刻作品の保存修復にも携わる高橋銑のコンセプトには、美術作品がもつ二面性—普遍的な「表現」であると同時に、失われてゆく「物質」でもある—に対する洞察が含まれている。本展は高橋にとって美術館での初個展であり、作品を恒久的に収集・管理する「美術館」という制度のなかに彼の作品が存在することは非常に意義深い機会であった。

(佐原しおり)



展示風景「Cast and Rot」シリーズ



展示風景《Cast and Rot No.37》



展示風景《Twins》

## ■出品リスト

作品データは、以下の順に記した。出品番号／作品名／技法・素材／制作年

1	／ Cast and Rot No.1	／ニンジン、Hi-mic1080、リグロイン、石灰硫黄合剤、木、ステンレス	／ 2019 年
2	／ Cast and Rot No.36	／ニンジン、Hi-mic1080、リグロイン、石灰硫黄合剤、木、鉄、真鍮	／ 2022 年
3	／ Cast and Rot No.37	／ニンジン、Hi-mic1080、リグロイン、石灰硫黄合剤、鉄、ゴム	／ 2022 年
4	／ Cast and Rot No.25	／ニンジン、Hi-mic1080、リグロイン、石灰硫黄合剤、木、真鍮、石	／ 2022 年
5	／ Cast and Rot No.38	／ニンジン、Hi-mic1080、リグロイン、石灰硫黄合剤、木、鉄、真鍮	／ 2022 年
6	／ Cast and Rot No.32	／ニンジン、Hi-mic1080、リグロイン、石灰硫黄合剤、木、真鍮	／ 2022 年
7	／ Cast and Rot No.31	／ニンジン、Hi-mic1080、リグロイン、石灰硫黄合剤、木、鉄、真鍮	／ 2022 年
8	／ Cast and Rot No.2	／ニンジン、Hi-mic1080、リグロイン、石灰硫黄合剤、木、鉄、ステンレス	／ 2020 年
9	／ Cast and Rot No.33	／ニンジン、Hi-mic1080、リグロイン、石灰硫黄合剤、木、鉄、塩化ビニル	／ 2022 年
10	／ Cast and Rot No.29	／ニンジン、Hi-mic1080、リグロイン、石灰硫黄合剤、ステンレス、大理石	／ 2022 年
11	／ Cast and Rot No.27	／ニンジン、Hi-mic1080、リグロイン、石灰硫黄合剤、木、ステンレス	／ 2022 年
12	／ Twins	／木、鉄、ステンレス、電動ホイストクレーン	／ 2022 年

## ■サンデー・トーク

年間で10回程度、日曜日15:00から展示室Aで開催しているプログラム。学芸員が開催中の「MOMASコレクション」から1点を選び、作者と作品についてのエピソードを交えながら30分程度の解説を行っている。

しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、令和4年度は実施を見送った。

## ■ 収集事業

令和4年度は、57件の寄贈を受けた。平成30年度のポール・シニャック《アニエールの河岸》購入以降、厳しい財政状況により、再び作品の購入ができない状況が続いているが、貴重な作品を多数受け入れることができた。寄贈者の皆様に改めて御礼申し上げたい。

堀越陽子、田中保、斎藤与里は県ゆかりの作家として、これまでも積極的に作品の収集を続けてきた。今回は、作家の制作活動を把握する上で参考となる彫刻、ドローイング、資料類をそれぞれ受贈し、収集体系にさらに厚みを増すことができた。

令和2年度に「アーティスト・プロジェクト #2.05」で紹介した作家スクリプカリウ落合安奈から、展示した写真・映像作品と新作映像を受贈した。国内外で精力的に発表を重ね、近年評価を確立させている県内の若手作家の作品を収蔵することは、当館としても意義深い。

埼玉県出身の画家・菊沢武江のご遺族から、日本画作品・関連資料を多数受贈した。これまで当館に収蔵のなかった初期の作品を含んでおり、作家の画業を把握する上で重要な収蔵となった。

長らく県内で活動した瑛九に関して、オリジナルのフォトデッサンを写真家の細江英公が複写した作品を受贈した。瑛九没後の記念展時に著作権者が企画して、原寸大・エディション入りで制作されたものであることから、写真作品として登録した。

平成19年度に埼玉県立近代美術館フレンド（友の会）から寄贈された倉俣史朗のデザイン椅子《ミス ブランチ》を、このたび備品から作品に登録変更した。同作はデザイン史上きわめて高い評価を受けていることから、他の収蔵品同様に扱い、今後も適切に保存・管理していきたい。

## ■ 令和4年度収集作品数と収蔵作品総数

令和5年3月31日現在

区分	令和4年度収集点数			収蔵作品 総数
	購入	寄贈	保管転換ほか	
日本画	0	36	0	505
油彩画ほか	0	0	0	676
ドローイング	0	1	0	837
版画	0	0	0	1,395
写真	0	11	0	222
映像	0	2	0	4
平面その他	0	0	0	19
彫刻	0	1	0	198
立体その他	0	0	1	13
工芸	0	0	0	50
書	0	0	0	31
資料Ⅰ	0	5	0	150
資料Ⅱ	0	0	0	34
合計	0	56	1	4,134

## ■新収蔵作品一覧

\* 作家名のアルファベット順に掲載した。なお「Q Ei」は「E」で取っている。

1

瑛九 1911 (明治 44) -1960 (昭和 35)

Q Ei

芝居

Play

昭和 25 年 (昭和 54 年 細江英公スタジオ複製) ゼラチン・シルバー・プリント

1950 (reproduction by Eikoh Hosoe studio : 1979) Gelatin silver print

44.0 × 52.4cm エディション : 53 / 55

令和 4 年度帯金章郎氏寄贈

PH-0213

※『瑛九展記念 フォト・デッサン』(1979 年) 所収、10 点組



2

瑛九 1911 (明治 44) -1960 (昭和 35)

Q Ei

家・窓・人

House, Window, People

昭和 25 年 (昭和 54 年 細江英公スタジオ複製) ゼラチン・シルバー・プリント

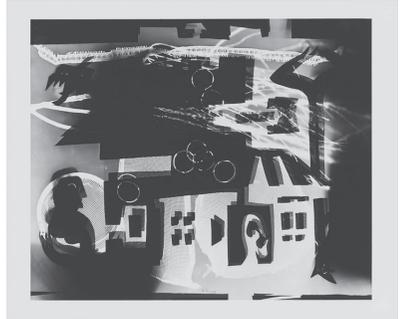
1950 (reproduction by Eikoh Hosoe studio : 1979) Gelatin silver print

42.3 × 51.4cm エディション : 53 / 55

令和 4 年度帯金章郎氏寄贈

PH-0214

※『瑛九展記念 フォト・デッサン』(1979 年) 所収、10 点組



3

瑛九 1911 (明治 44) -1960 (昭和 35)

Q Ei

Visitors to a Ballet Performance

Visitors to a Ballet Performance

昭和 25 年 (昭和 54 年 細江英公スタジオ複製) ゼラチン・シルバー・プリント

1950 (reproduction by Eikoh Hosoe studio : 1979) Gelatin silver print

44.2 × 54.2cm エディション : 53 / 55

令和 4 年度帯金章郎氏寄贈

PH-0215

※『瑛九展記念 フォト・デッサン』(1979 年) 所収、10 点組



4

瑛九 1911 (明治 44) -1960 (昭和 35)

Q Ei

鼻高プロフィール

Profile with a High Nose

昭和 25 年 (昭和 54 年 細江英公スタジオ複製) ゼラチン・シルバー・プリント

1950 (reproduction by Eikoh Hosoe studio : 1979) Gelatin silver print

44.9 × 54.8cm エディション : 53 / 55

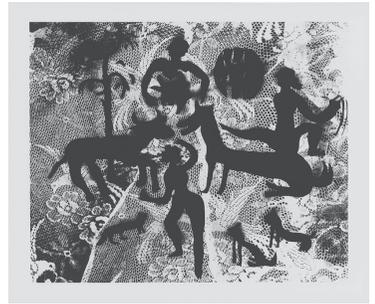
令和 4 年度帯金章郎氏寄贈

PH-0216

※『瑛九展記念 フォト・デッサン』(1979 年) 所収、10 点組



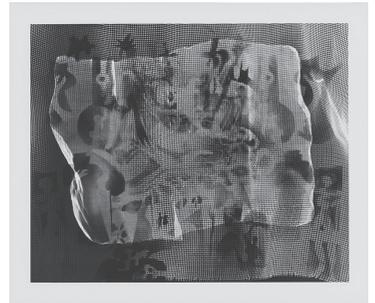
5  
瑛九 1911 (明治 44) -1960 (昭和 35)  
Q Ei  
森のつどい  
Meeting in the Forest  
昭和 26 年 (昭和 54 年 細江英公スタジオ複製) ゼラチン・シルバー・プリント  
1951 (reproduction by Eikoh Hosoe studio : 1979) Gelatin silver print  
42.7 × 52.0cm エディション : 53 / 55  
令和 4 年度帯金章郎氏寄贈  
PH-0217  
※『瑛九展記念 フォト・デッサン』(1979 年) 所収、10 点組



6  
瑛九 1911 (明治 44) -1960 (昭和 35)  
Q Ei  
庭  
Garden  
昭和 26 年 (昭和 54 年 細江英公スタジオ複製) ゼラチン・シルバー・プリント  
1951 (reproduction by Eikoh Hosoe studio : 1979) Gelatin silver print  
53.8 × 44.0cm エディション : 53 / 55  
令和 4 年度帯金章郎氏寄贈  
PH-0218  
※『瑛九展記念 フォト・デッサン』(1979 年) 所収、10 点組



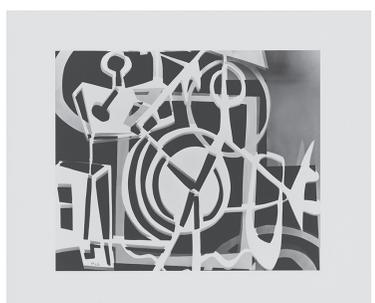
7  
瑛九 1911 (明治 44) -1960 (昭和 35)  
Q Ei  
村  
Village  
昭和 26 年 (昭和 54 年 細江英公スタジオ複製) ゼラチン・シルバー・プリント  
1951 (reproduction by Eikoh Hosoe studio : 1979) Gelatin silver print  
42.3 × 52.1cm エディション : 53 / 55  
令和 4 年度帯金章郎氏寄贈  
PH-0219  
※『瑛九展記念 フォト・デッサン』(1979 年) 所収、10 点組



8  
瑛九 1911 (明治 44) -1960 (昭和 35)  
Q Ei  
子供の部屋  
Children's Room  
昭和 27 年 (昭和 54 年 細江英公スタジオ複製) ゼラチン・シルバー・プリント  
1952 (reproduction by Eikoh Hosoe studio : 1979) Gelatin silver print  
40.1 × 49.7cm エディション : 53 / 55  
令和 4 年度帯金章郎氏寄贈  
PH-0220  
※『瑛九展記念 フォト・デッサン』(1979 年) 所収、10 点組



9  
瑛九 1911 (明治 44) -1960 (昭和 35)  
Q Ei  
コンポジション  
Composition  
昭和 29 年 (昭和 54 年 細江英公スタジオ複製) ゼラチン・シルバー・プリント  
1954 (reproduction by Eikoh Hosoe studio : 1979) Gelatin silver print  
35.6 × 42.8cm エディション : 53 / 55  
令和 4 年度帯金章郎氏寄贈  
PH-0221  
※『瑛九展記念 フォト・デッサン』(1979 年) 所収、10 点組



10

瑛九 1911 (明治 44) -1960 (昭和 35)

Q Ei

ビルの人

People in the Building

昭和 29 年 (昭和 54 年 細江英公スタジオ複製) ゼラチン・シルバー・プリント

1954 (reproduction by Eikoh Hosoe studio : 1979) Gelatin silver print

43.5 × 34.1cm エディション : 53 / 55

令和 4 年度帯金章郎氏寄贈

PH-0222

※『瑛九展記念 フォト・デッサン』(1979 年) 所収、10 点組



11

堀越陽子 1931 (昭和 6) -2006 (平成 18)

HORIKOSHI Yoko

餅

Echo

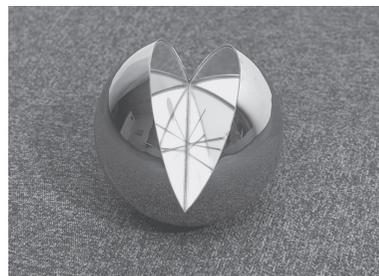
昭和 60 年 ステンレス、鏡

1985 Stainless, mirror

直径 16.5cm

令和 4 年度堀越照夫氏寄贈

S-0198



12

菊沢武江 1882 (明治 15) -1975 (昭和 50)

KIKUZAWA Buko

野菜図

Vegetables

明治 45 年頃 彩色、紙

c.1912 Color on paper

132.0 × 45.8cm

左下に署名「六兵衛」、朱文方印

令和 4 年度東駒子氏寄贈

J-0470



13

菊沢武江 1882 (明治 15) -1975 (昭和 50)

KIKUZAWA Buko

樹下少女

Girl under the Tree

明治後期 - 大正初期 彩色、紙

Late 1880s-early 1910s Color on paper

130.0 × 44.3cm

右下に署名「六兵衛」、朱文円印

令和 4 年度東駒子氏寄贈

J-0471



14  
菊沢武江 1882 (明治 15) -1975 (昭和 50)  
KIKUZAWA Buko  
長閑  
Tranquility  
昭和 42 年 彩色、紙  
1967 Color on paper  
43.6 × 51.0cm  
右下に署名「武江」、白文円印  
令和 4 年度東駒子氏寄贈  
J-0472



15  
菊沢武江 1882 (明治 15) -1975 (昭和 50)  
KIKUZAWA Buko  
軍鶏  
Fighting Cocks  
昭和期 彩色、紙  
1926-1975 Color on paper  
58.9 × 66.5cm  
左下に署名「武江」、朱文方印  
令和 4 年度東駒子氏寄贈  
J-0473



16  
菊沢武江 1882 (明治 15) -1975 (昭和 50)  
KIKUZAWA Buko  
鴛鴦  
Mandarin Ducks  
昭和期 彩色、紙  
1926-1975 Color on paper  
52.4 × 56.4cm  
左下に署名「武江」、白文円印  
令和 4 年度東駒子氏寄贈  
J-0474



17  
菊沢武江 1882 (明治 15) -1975 (昭和 50)  
KIKUZAWA Buko  
闔家全慶  
Household Harmony  
昭和期 彩色、紙  
1926-1975 Color on paper  
129.5 × 32.2cm  
左下に署名「武江」、白文方印と朱文方印  
令和 4 年度東駒子氏寄贈  
J-0475



18  
菊沢武江 1882 (明治 15) -1975 (昭和 50)  
KIKUZAWA Buko  
海錯図  
Fish and Shellfish  
昭和期 彩色、紙  
1926-1975 Color on paper  
59.2 × 66.8cm  
右下に署名「武江」、朱文方印  
令和 4 年度東駒子氏寄贈  
J-0476



19  
菊沢武江 1882 (明治 15) -1975 (昭和 50)  
KIKUZAWA Buko  
秋景山水図  
Autumn Landscape  
昭和期 彩色、紙  
1926-1975 Color on paper  
133.0 × 33.7cm  
左下に署名「武江」、朱文円印  
令和 4 年度東駒子氏寄贈  
J-0477



20  
菊沢武江 1882 (明治 15) -1975 (昭和 50)  
KIKUZAWA Buko  
花卉図  
Flowers  
昭和期 彩色、紙  
1926-1975 Color on paper  
135.8 × 33.3cm  
右下に署名「武江」、白文方印と朱文方印  
令和 4 年度東駒子氏寄贈  
J-0478



21  
菊沢武江 1882 (明治 15) -1975 (昭和 50)  
KIKUZAWA Buko  
山鳩図  
A Turtledove  
昭和期 彩色、紙  
1926-1975 Color on paper  
133.5 × 33.5cm  
左下に署名「武江」、朱文円印  
令和 4 年度東駒子氏寄贈  
J-0479



22

菊沢武江 1882 (明治 15) -1975 (昭和 50)

KIKUZAWA Buko

紅白牡丹

Red and White Peonies

昭和期 彩色、紙

1926-1975 Color on paper

132.0 × 34.7cm

左下に署名「武江」、朱文円印

令和 4 年度東駒子氏寄贈

J-0480



23

菊沢武江 1882 (明治 15) -1975 (昭和 50)

KIKUZAWA Buko

石路

Japanese Silverleaves

昭和期 彩色、紙

1926-1975 Color on paper

55.8 × 60.0cm

左下に署名「武江」、白文円印

令和 4 年度東駒子氏寄贈

J-0481



24

菊沢武江 1882 (明治 15) -1975 (昭和 50)

KIKUZAWA Buko

寒牡丹に雀

Peony and Sparrow in Winter

昭和 20-50 年 彩色、紙

1945-1975 Color on paper

120.8 × 46.0cm

左下に署名「武江」、白文方印と朱文方印

令和 4 年度東駒子氏寄贈

J-0482



25

菊沢武江 1882 (明治 15) -1975 (昭和 50)

KIKUZAWA Buko

牡丹扇面

Peony

昭和 20 年 彩色、紙

1945 Color on paper

34.9 × 59.1cm

左上に署名「武江作」、朱文方印

令和 4 年度東駒子氏寄贈

J-0483



26  
菊沢武江 1882 (明治 15) -1975 (昭和 50)  
KIKUZAWA Buko  
紅葉小禽  
Little Bird with Autumn Leaves  
昭和 30-50 年 彩色、紙  
1955-1975 Color on paper  
27.2 × 24.2cm  
左上に署名「武江」、朱文方印 (瓢筆型)  
令和 4 年度東駒子氏寄贈  
J-0484



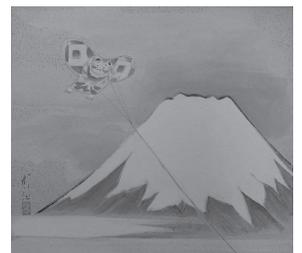
27  
菊沢武江 1882 (明治 15) -1975 (昭和 50)  
KIKUZAWA Buko  
海岸人物  
Woman on the Shore  
昭和 36 年頃 彩色、紙  
c.1961 Color on paper  
24.2 × 27.2cm  
左下に署名「武江」、白文方印  
令和 4 年度東駒子氏寄贈  
J-0485



28  
菊沢武江 1882 (明治 15) -1975 (昭和 50)  
KIKUZAWA Buko  
柿に目白  
White-eye with a Persimmon  
昭和 30-50 年 彩色、紙  
1955-1975 Color on paper  
24.2 × 27.2cm  
左上に署名「武江」、朱文方印 (瓢筆型)  
令和 4 年度東駒子氏寄贈  
J-0486



29  
菊沢武江 1882 (明治 15) -1975 (昭和 50)  
KIKUZAWA Buko  
富士に凧  
Kite with Mt. Fuji in the Background  
昭和 30-50 年 彩色、紙  
1955-1975 Color on paper  
24.2 × 27.2cm  
左下に署名「武江」、朱文方印 (瓢筆型)  
令和 4 年度東駒子氏寄贈  
J-0487



30  
菊沢武江 1882 (明治 15) -1975 (昭和 50)  
KIKUZAWA Buko  
竜胆  
Autumn Bellflowers  
昭和 30-50 年 彩色、紙  
1955-1975 Color on paper  
27.2 × 24.2cm  
左下に署名「武江」、朱文方印  
令和 4 年度東駒子氏寄贈  
J-0488



31  
菊沢武江 1882 (明治 15) -1975 (昭和 50)  
KIKUZAWA Buko  
双鶏  
Pair of Chickens  
昭和 30-50 年 彩色、紙  
1955-1975 Color on paper  
27.2 × 24.2cm  
右上に署名「武江」、白文方印  
令和 4 年度東駒子氏寄贈  
J-0489



32  
菊沢武江 1882 (明治 15) -1975 (昭和 50)  
KIKUZAWA Buko  
柰榴  
Pomegranates  
昭和 30-50 年 彩色、紙  
1955-1975 Color on paper  
27.2 × 24.2cm  
左下に署名「武江」、白文方印  
令和 4 年度東駒子氏寄贈  
J-0490



33  
菊沢武江 1882 (明治 15) -1975 (昭和 50)  
KIKUZAWA Buko  
牡丹  
Peony  
昭和 30-50 年 彩色、紙  
1955-1975 Color on paper  
27.2 × 24.2cm  
左下に署名「武江」、朱文方印 (瓢筆型)  
令和 4 年度東駒子氏寄贈  
J-0491



34  
菊沢武江 1882 (明治 15) -1975 (昭和 50)  
KIKUZAWA Buko  
寒椿  
Camellias with Snow  
昭和 30-50 年 彩色、紙  
1955-1975 Color on paper  
27.2 × 24.2cm  
左下に署名「武江」、白文方印  
令和 4 年度東駒子氏寄贈  
J-0492



35  
菊沢武江 1882 (明治 15) -1975 (昭和 50)  
KIKUZAWA Buko  
軍鶏  
Fighting Cock  
昭和 30-50 年 彩色、紙  
1955-1975 Color on paper  
27.2 × 24.2c  
左下に署名「武江」、朱文方印  
令和 4 年度東駒子氏寄贈  
J-0493



36

菊沢武江 1882 (明治 15) -1975 (昭和 50)

KIKUZAWA Buko

雛

Chicks

昭和 30-50 年 彩色、紙

1955-1975 Color on paper

27.2 × 24.0cm

右上に署名「武江」、朱文方印 (瓢筆型)

令和 4 年度東駒子氏寄贈

J-0494



37

菊沢武江 1882 (明治 15) -1975 (昭和 50)

KIKUZAWA Buko

朝日

The Morning Sun

昭和 30-50 年 彩色、紙

1955-1975 Color on paper

27.2 × 24.2cm

左下に署名「武江」、白文方印と朱文方印

令和 4 年度東駒子氏寄贈

J-0495



38

菊沢武江 1882 (明治 15) -1975 (昭和 50)

KIKUZAWA Buko

キリギリス

Grasshoppers

昭和 30-50 年 彩色、紙

1955-1975 Color on paper

27.2 × 24.1cm

右下に署名「武江」、白文方印

令和 4 年度東駒子氏寄贈

J-0496



39

菊沢武江 1882 (明治 15) -1975 (昭和 50)

KIKUZAWA Buko

紫陽花

Hydrangeas

昭和 30-50 年 彩色、紙

1955-1975 Color on paper

27.2 × 24.2cm

右下に署名「武江」、朱文方印

令和 4 年度東駒子氏寄贈

J-0497



40

菊沢武江 1882 (明治 15) -1975 (昭和 50)

KIKUZAWA Buko

水仙

Narcissus

昭和 30-50 年 彩色、紙

1955-1975 Color on paper

27.3 × 24.2cm

中央下に署名「武江」、朱文方印

令和 4 年度東駒子氏寄贈

J-0498



41  
菊沢武江 1882 (明治 15) -1975 (昭和 50)  
KIKUZAWA Buko  
牡丹  
Peony  
昭和 30-50 年 彩色、紙  
1955-1975 Color on paper  
27.1 × 24.2cm  
右上に署名「武江」、白文方印  
令和 4 年度東駒子氏寄贈  
J-0499



42  
菊沢武江 1882 (明治 15) -1975 (昭和 50)  
KIKUZAWA Buko  
紅梅  
Red Plum Blossoms  
昭和 30-50 年 彩色、紙  
1955-1975 Color on paper  
27.2 × 24.1cm  
右下に署名「武江」、白文方印  
令和 4 年度東駒子氏寄贈  
J-0500



43  
菊沢武江 1882 (明治 15) -1975 (昭和 50)  
KIKUZAWA Buko  
紅梅扇面  
Fan-shaped Red Plum Blossoms  
昭和 30-50 年 彩色、紙  
1955-1975 Color on paper  
27.2 × 24.2cm  
左中央に署名「武江」、朱文方印 (瓢筆型)  
令和 4 年度東駒子氏寄贈  
J-0501



44  
菊沢武江 1882 (明治 15) -1975 (昭和 50)  
KIKUZAWA Buko  
笹に小禽  
Little Bird with Bamboo Grasses  
昭和 30-50 年 彩色、紙  
1955-1975 Color on paper  
27.2 × 24.2cm  
左中央に署名「武江」、白文方印  
令和 4 年度東駒子氏寄贈  
J-0502



45  
菊沢武江 1882 (明治 15) -1975 (昭和 50)  
KIKUZAWA Buko  
獅子舞  
A Lion Mask for Ritual Dance  
昭和 30-50 年 彩色、紙  
1955-1975 Color on paper  
27.3 × 24.2cm  
右下に署名「武江」、白文方印 (瓢筆型)  
令和 4 年度東駒子氏寄贈  
J-0503



46

菊沢武江 1882 (明治 15) -1975 (昭和 50)

KIKUZAWA Buko

山岳

Mountain Scenery

昭和 30-50 年 彩色、紙

1955-1975 Color on paper

27.0 × 24.0cm

右下に署名「武江」、朱文方印

令和 4 年度東駒子氏寄贈

J-0504



47

菊沢武江 1882 (明治 15) -1975 (昭和 50)

KIKUZAWA Buko

ひいな

Hina Dolls

昭和 40 年代 彩色、紙

Late 1960s-early 1970s Color on paper

27.2 × 24.2cm

右下に署名「武江」、白文方印

令和 4 年度東駒子氏寄贈

J-0505



48

菊沢武江 1882 (明治 15) -1975 (昭和 50)

KIKUZAWA Buko

スケッチブック一式

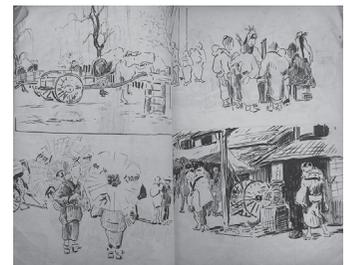
A Set of Sketchbooks

明治 30 年代 - 昭和 40 年代

Late 1890s-early 1970s

令和 4 年度東駒子氏寄贈

RI-0146



49

菊沢武江 1882 (明治 15) -1975 (昭和 50)

KIKUZAWA Buko

下絵・模写・スケッチ類一式

A Set of Sketches

明治期 - 昭和期

Late 1860s-1975

令和 4 年度東駒子氏寄贈

RI-0147



50  
 菊沢武江 1882 (明治 15) -1975 (昭和 50)  
 KIKUZAWA Buko  
 明治期古画模写一式  
 A Set of Reproductions in the Meiji Period  
 明治 36-40 年頃  
 1903-c.1907  
 令和 4 年度東駒子氏寄贈  
 RI-0148



51  
 菊沢武江 1882 (明治 15) -1975 (昭和 50)  
 KIKUZAWA Buko  
 四天王寺伝来《扇面法華経冊子》模写  
 Reproductions of Fan-shaped Booklet of the Lotus Sutra  
 制作年不詳  
 令和 4 年度東駒子氏寄贈  
 RI-0149



52  
 倉俣史朗 1934 (昭和 9) -1991 (平成 3)  
 KURAMATA Shiro  
 ミス ブランチ  
 Miss Blanche  
 昭和 63 年 (平成 19 年制作)  
 本体：アクリル、造花 / 足：アルミニウムパイプにアルマイト染色仕上げ  
 1988 (production : 2007)  
 Body : acrylic, artificial roses / Legs : aluminum pipe, stained alumite finish  
 高さ 87.5 × 幅 62.0 × 奥行 60.0cm  
 令和 4 年度作品登録  
 T-0013



53  
 斎藤与里 1885 (明治 18) -1959 (昭和 34)  
 SAITO Yori  
 内海遊記  
 Travel in Seto Island Sea  
 昭和 4-13 年 ペン、紙  
 1929-1938 Pen on paper  
 22.0 × 865.8cm  
 令和 4 年度岩佐明倫氏寄贈  
 RI-0150



54  
スク립カリウ落合安奈 1992 (平成 4) -  
SCRIPCARIU-OCHIAI Ana  
Blessing Beyond the Borders  
Blessing Beyond the Borders  
令和元年 (プリント: 令和 4 年) ゼラチン・シルバー・プリント  
2019 (print: 2022) Gelatin silver print  
22.0 × 33.0cm  
令和 4 年度寄贈  
PH-0212



55  
スク립カリウ落合安奈 1992 (平成 4) -  
SCRIPCARIU-OCHIAI Ana  
Double Horizon  
Double Horizon  
令和 2 年 シングルチャンネルビデオ、サウンド  
2020 Single channel video with sound  
7 分 42 秒ループ  
令和 4 年度寄贈  
V-0003



56  
スク립カリウ落合安奈 1992 (平成 4) -  
SCRIPCARIU-OCHIAI Ana  
Double Horizon  
Double Horizon  
令和 4 年 シングルチャンネルビデオ、サウンド  
2022 Single channel video with sound  
13 分 7 秒ループ  
サウンド: BATACO、サウンドリミックス: 高木創、  
映像編集協力: 青木理紗、英語字幕: 野村善文  
Sound: BATACO, sound remix: TAKAGI Hajime,  
video editing assistance: AOKI Lisa, English subtitles: NOMURA Yoshifumi  
令和 4 年度寄贈  
V-0004



57  
田中保 1886 (明治 19) -1941 (昭和 16)  
TANAKA Yasushi  
膝をつく裸婦  
Nude, Kneeling  
大正 9 年頃 鉛筆、紙  
c.1920 Pencil on paper  
22.3 × 13.9cm  
令和 4 年度大久保静雄氏寄贈  
D-0837



## ■美術資料貸出等一覧

### ■美術作品の館外貸出

館外貸出点数： 12 件（展覧会） 39 点（点数）

作者名	作品名	展覧会名	会場	会期
	ジョアン・ミロ《無題（『カイエ・ダール』9巻1-4号所収ステンシル）によるタペストリー	ミロ展—日本を夢みて	愛知県美術館 富山県美術館	2022/4/29-7/3 2022/7/16-9/4
倉田白羊	先生と生徒	芸術家たちの住むところ	うらわ美術館	2022/4/23-8/28（通算で半期展示）
倉田白羊	父の像	芸術家たちの住むところ	うらわ美術館	2022/4/23-8/23（通期展示）
倉田白羊	母の像	芸術家たちの住むところ	うらわ美術館	2022/4/23-8/23（通期展示）
奥瀬英三	室内	芸術家たちの住むところ	うらわ美術館	2022/4/23-8/23（通期展示）
小林真二	教会	芸術家たちの住むところ	うらわ美術館	2022/4/23-8/23（前期展示）
跡見泰	石川島	芸術家たちの住むところ	うらわ美術館	2022/4/23-8/23（前期展示）
渡邊武夫	老図書館長Tさんの像	芸術家たちの住むところ	うらわ美術館	2022/4/23-8/23（前期展示）
須田剋太	老人像	芸術家たちの住むところ	うらわ美術館	2022/4/23-8/23（前期展示）
渡邊武夫	堀割のある風景	芸術家たちの住むところ	うらわ美術館	2022/4/23-8/23（後期展示）
瑛九	田園（寄託作品）	芸術家たちの住むところ	うらわ美術館	2022/4/23-8/23（後期展示）
李禹煥	線より	李禹煥	国立新美術館	2022/8/10-11/7
カミーユ・ピサロ	エラニーの牛を追う娘	日本の中のマネ 出会い、120年のイメージ	練馬区立美術館	2022/9/4-11/3
斎藤与里	朝	日本の中のマネ 出会い、120年のイメージ	練馬区立美術館	2022/9/4-11/3
江森天寿	花の想	江森天寿と石川梅子 夭折の画家と 県内初の女流画家	遠山記念館	2022/10/8-11/27
江森天寿	裾野の秋	江森天寿と石川梅子 夭折の画家と 県内初の女流画家	遠山記念館	2022/10/8-11/27
マン・レイ	レイヨグラフ	マン・レイのオブジェ 日々は好物   いとしきものたち	DIC 川村記念美術館	2022/10/8-2023/1/15（前期貸出）
マン・レイ	レイヨグラフ	マン・レイのオブジェ 日々は好物   いとしきものたち	DIC 川村記念美術館	2022/10/8-2023/1/15（前期貸出）
マン・レイ	レイヨグラフ （ピストルとアルファベット盤）	マン・レイのオブジェ 日々は好物   いとしきものたち	DIC 川村記念美術館	2022/10/8-2023/1/15（前期貸出）
マン・レイ	レイヨグラフ	マン・レイのオブジェ 日々は好物   いとしきものたち	DIC 川村記念美術館	2022/10/8-2023/1/15（後期貸出）
マン・レイ	レイヨグラフ	マン・レイのオブジェ 日々は好物   いとしきものたち	DIC 川村記念美術館	2022/10/8-2023/1/15（後期貸出）
マン・レイ	レイヨグラフ	マン・レイのオブジェ 日々は好物   いとしきものたち	DIC 川村記念美術館	2022/10/8-2023/1/15（後期貸出）
小茂田青樹	麦踏	小茂田青樹展	川越市立美術館	2022/10/22-12/4
小茂田青樹	山兔	小茂田青樹展	川越市立美術館	2022/10/22-12/4
小茂田青樹	樹上猿	小茂田青樹展	川越市立美術館	2022/10/22-12/4
小茂田青樹	春の夜	小茂田青樹展	川越市立美術館	2022/10/22-12/4
小茂田青樹	鳴鶏	小茂田青樹展	川越市立美術館	2022/10/22-12/4
小茂田青樹	晩秋	小茂田青樹展	川越市立美術館	2022/10/22-12/4
森田恒友	岸近く	南画×近代 大正～昭和初期を中心として	富山県水墨美術館	2022/11/18-2023/1/15
佐伯祐三	門と広告	佐伯祐三 自画像としての風景	東京ステーションギャラリー	2023/1/21-4/2
速水御舟	夏の丹波路	速水御舟展	茨城県近代美術館	2023/2/22-3/26
モーリス・ドニ	トレストリニエルの岩場	憧憬の地 ブルターニュ	国立西洋美術館	2023/3/18-6/11
森田恒友	イル・ブレア	憧憬の地 ブルターニュ	国立西洋美術館	2023/3/18-6/11
森田恒友	フランス風景	憧憬の地 ブルターニュ	国立西洋美術館	2023/3/18-6/11
斎藤豊作	初冬の朝	憧憬の地 ブルターニュ	国立西洋美術館	2023/3/18-6/11
資料	遠矢良茂宛葉書	憧憬の地 ブルターニュ	国立西洋美術館	2023/3/18-6/11
資料	遠矢良茂宛葉書	憧憬の地 ブルターニュ	国立西洋美術館	2023/3/18-6/11
ウジェーヌ・ブーダン	ノルマンディーの風景 （寄託作品）	ブルターニュの光と風	SOMPO 美術館	2023/3/25-6/11
クロード・モネ	ルエルの眺め（寄託作品）	ブルターニュの光と風	SOMPO 美術館	2023/3/25-6/11

## ■特別利用 (令和5年3月31日現在)

写真原板貸出：36件 86点

作品撮影：1件 1点

作品熟覧：1件 1点

作品模写：0件

## ■原板貸出

作家名	作品名	発行元等	媒体
寺内萬治郎	裸婦	株式会社ネクサス	テレビ番組「開運！なんでも鑑定団」 (2022年4月26日(火)放送)
寺内萬治郎	裸婦	株式会社ネクサス	テレビ番組「開運！なんでも鑑定団」 (2022年4月26日(火)放送)
寺内萬治郎	裸婦	株式会社ネクサス	テレビ番組「開運！なんでも鑑定団」 (2022年4月26日(火)放送)
倉田第次郎	久伊豆神社	越谷市教育委員会	越谷市文化財講演会「越谷市ゆかりの画家～斎藤豊作・倉田第次郎」宣伝用チラシ
	埼玉県立近代美術館外観写真	有限会社クリエイティブ	積水ハウス分譲地広告
	埼玉県立近代美術館外観写真(美術館遠景)	有限会社クリエイティブ	積水ハウス分譲地広告
	北浦和公園写真(音楽噴水)	有限会社クリエイティブ	積水ハウス分譲地広告
倉田白羊	先生と生徒	うらわ美術館	企画展「うらわ美術館開館22周年 芸術家たちの住むところ」展示パネル
寺内萬治郎	裸婦	埼玉県美術展覧会運営委員会	「県展 第70回記念 資料展示」会場内スライドショー
寺内萬治郎	梅咲く頃	埼玉県美術展覧会運営委員会	「県展 第70回記念 資料展示」会場内スライドショー
高田誠	浦和風景	埼玉県美術展覧会運営委員会	「県展 第70回記念 資料展示」会場内スライドショー
高田誠	野尻湖と妙高	埼玉県美術展覧会運営委員会	「県展 第70回記念 資料展示」会場内スライドショー
渡邊武夫	老図書館長Tさんの像	埼玉県美術展覧会運営委員会	「県展 第70回記念 資料展示」会場内スライドショー
渡邊武夫	むさしの冬	埼玉県美術展覧会運営委員会	「県展 第70回記念 資料展示」会場内スライドショー
加藤勝重	響	埼玉県美術展覧会運営委員会	「県展 第70回記念 資料展示」会場内スライドショー
加藤勝重	緑丘(入間の茶どころ)	埼玉県美術展覧会運営委員会	「県展 第70回記念 資料展示」会場内スライドショー
関根将雄	瓦職	埼玉県美術展覧会運営委員会	「県展 第70回記念 資料展示」会場内スライドショー
関根将雄	宵待草(岩槻城址遠望)	埼玉県美術展覧会運営委員会	「県展 第70回記念 資料展示」会場内スライドショー
中野四郎	陽和	埼玉県美術展覧会運営委員会	「県展 第70回記念 資料展示」会場内スライドショー
中野四郎	トルソ	埼玉県美術展覧会運営委員会	「県展 第70回記念 資料展示」会場内スライドショー
増田三男	金彩露草蝶文透彫箱	埼玉県美術展覧会運営委員会	「県展 第70回記念 資料展示」会場内スライドショー
増田三男	金彩壺 賑	埼玉県美術展覧会運営委員会	「県展 第70回記念 資料展示」会場内スライドショー
小村雪岱	雪兔	株式会社 便利堂	年賀状 2023
横山大観	日本心神	株式会社 テレビ東京制作	テレビ番組「有吉の世界同時中継」 (2022年6月9日(木)放送)
舟越保武	ダミアン神父像	個人	日比科学技術振興財団研究助成 一般課題 研究報告書に使用
舟越保武	ダミアン神父像(部分図)	個人	日比科学技術振興財団研究助成 一般課題 研究報告書に使用
フィンセント・ファン・ゴッホ	草地、背景に新しい教会とヤコブ教会	株式会社 堀場製作所	WEBサイト「HORIBA」内の「HORIBA Talk」掲載インタビュー記事に使用
フィンセント・ファン・ゴッホ	草地、背景に新しい教会とヤコブ教会	株式会社 堀場製作所	社内報「JOY & FUN」表紙、裏表紙
大久保喜一	熊中正門風景	熊谷市立熊谷図書館	『光の画家 大久保喜一』
大久保喜一	川岸	熊谷市立熊谷図書館	『光の画家 大久保喜一』
小村雪岱	お傳地獄挿絵原画(刺青)	個人	雑誌『総合文化誌 KUMAMOTO』(2022年9月号)
林俊衛	別所沼風景	埼玉県県民生活部共助社会づくり課	埼玉県特定非営利活動促進基金礼状

	「日本の70年代1968-1982」展会場写真(学生部屋)	株式会社 クレタ	雑誌『昭和40年男』(2022年9月号)
アグス・スワゲ	無数の身体 1	福岡アジア美術館	企画展「エモーショナル・アジア 宮津大輔コレクション×福岡アジア美術館」図録
李禹煥	線より	株式会社みすず書房	「みすず美術カレンダー 2023 李禹煥の仕事」(卓上カレンダー)
クロード・モネ	ジヴェルニーの積みわら、夕日	一般財団法人 放送大学教育振興会	総合科目「色を探求する」印刷教材『色を探求する(23)』
フィンセント・ファン・ゴッホ	草地、背景に新しい教会とヤコブ教会(寄託作品)	株式会社 堀場製作所	WEBサイト「HORIBA」内の「HORIBA Talk」掲載インタビュー記事のフライヤー掲載
フィンセント・ファン・ゴッホ	草地、背景に新しい教会とヤコブ教会(寄託作品)	株式会社 堀場製作所	「最先端科学・分析システム & ソリューション (JASIS)」展 パネル展示
フィンセント・ファン・ゴッホ	草地、背景に新しい教会とヤコブ教会(寄託作品)	株式会社 堀場製作所	「最先端科学・分析システム & ソリューション (JASIS)」展 パネル展示 WEB サイト掲載
山田光春	作品	名古屋市美術館	調査研究
山田光春	作品	名古屋市美術館	調査研究
山田光春	作品	名古屋市美術館	調査研究
山田光春	作品	名古屋市美術館	調査研究
山田光春	作品	名古屋市美術館	調査研究
山田光春	作品	名古屋市美術館	調査研究
山田光春	作品	名古屋市美術館	調査研究
山田光春	スケッチブック	名古屋市美術館	調査研究
山田光春	ドローイング	名古屋市美術館	調査研究
小村雪岱	おせん	株式会社 パルコ浦和店	浦和パルコ開業15周年キャンペーン「15祭イチゴサイ」埼玉県立近代美術館×浦和PARCOオリジナルトートバッグ
小村雪岱	おせん	株式会社 パルコ浦和店	浦和パルコ開業15周年キャンペーン「15祭イチゴサイ」埼玉県立近代美術館×浦和PARCOオリジナルトートバッグ
森田恒友	湖畔	日本経済新聞社	日本経済新聞(11月13日発行:日曜版) 美の粹面「パンの会 文学との響き合い(中)」
森田恒友	緑野	日本経済新聞社	日本経済新聞(11月13日発行:日曜版) 美の粹面「パンの会 文学との響き合い(中)」
倉田白羊	山居の秋	日本経済新聞社	日本経済新聞(11月13日発行:日曜版) 美の粹面「パンの会 文学との響き合い(中)」
倉田白羊	「方寸」第3巻1号《休息》原画	日本経済新聞社	日本経済新聞(11月13日発行:日曜版) 美の粹面「パンの会 文学との響き合い(中)」
瑛九	雲	名古屋市美術館	「生誕100年 山田光春 [令和4年度名品コレクション展 II 郷土の美術]」展示パネル
辰野登恵子	WORK 80-N-1	株式会社 Gakken	『大人の科学マガジン シルク印刷キット』
小村雪岱	青柳	株式会社 国書刊行会	『小村雪岱 デザイン大鑑(仮)』
小村雪岱	落葉	株式会社 国書刊行会	『小村雪岱 デザイン大鑑(仮)』
小村雪岱	湯島夜景	株式会社 国書刊行会	『小村雪岱 デザイン大鑑(仮)』
小村雪岱	雪兔(団扇絵)	株式会社 国書刊行会	『小村雪岱 デザイン大鑑(仮)』
小茂田青樹	春の夜	一般社団法人 龍生華道会	機関誌『いけ花龍生』(2023年3月号)
クロード・モネ	ジヴェルニーの積みわら、夕日	株式会社 NHK エデュケーショナル	テレビ番組「テレビ科目 色を探求する 第10回」(放送日未定)
森田恒友	蔬菜帖	熊谷市立江南文化財センター	埼玉新聞(2月7日(火)発行)「熊谷ガストロノミー 食文化の歴史 森田恒友」
森田恒友	蔬菜帖	熊谷市立江南文化財センター	埼玉新聞(2月8日(火)発行)「熊谷ガストロノミー 食文化の歴史 森田恒友」
森田恒友	蔬菜帖	熊谷市立江南文化財センター	埼玉新聞(2月9日(火)発行)「熊谷ガストロノミー 食文化の歴史 森田恒友」

森田恒友	蔬菜帖	熊谷市立江南文化財センター	埼玉新聞（2月10日（火）発行）「熊谷ガストロノミー食文化の歴史 森田恒友」
森田恒友	蔬菜帖	熊谷市立江南文化財センター	埼玉新聞（2月11日（火）発行）「熊谷ガストロノミー食文化の歴史 森田恒友」
森田恒友	蔬菜帖	熊谷市立江南文化財センター	埼玉新聞（2月12日（火）発行）「熊谷ガストロノミー食文化の歴史 森田恒友」
モーリス・ドニ	トレストリニェルの岩場	株式会社 TBS テレビ	国立西洋美術館ほか主催「憧憬の地 プルターニューーモネ、ゴッホ、黒田清輝らが見た異郷」展 オリジナルグッズ（ポストカード）
倉俣史朗	ミス・ブランチ	フェミエ株式会社	『カラーコーディネーターW合格指導講座 東商カラーコーディネーター検定試験 アドバンスクラス テキスト 後編』
上田薫	ジェリーにスプーンC	株式会社 アートボックス	北海道新聞社ほか主催「トリック×イリュージョン!」展 オリジナルグッズ（ポストカード）
上田薫	ジェリーにスプーンC	株式会社 アートボックス	北海道新聞社ほか主催「トリック×イリュージョン!」展 オリジナルグッズ（A4 クリアファイル）
上田薫	ジェリーにスプーンC	株式会社 アートボックス	北海道新聞社ほか主催「トリック×イリュージョン!」展 オリジナルグッズ（缶バッジ）
上田薫	ジェリーにスプーンC	株式会社 アートボックス	北海道新聞社ほか主催「トリック×イリュージョン!」展 オリジナルグッズ（缶マグネット）
上田薫	ジェリーにスプーンC	株式会社 アートボックス	北海道新聞社ほか主催「トリック×イリュージョン!」展 オリジナルグッズ（ステッカー）
アルフレッド・シスレー	セーザルの坂道（寄託作品）	丸沼芸術の森	CD ジャケット
クロード・モネ	ジュエルニーの積みわら、夕日	株式会社 クリエイティブネクサス	テレビ番組「マジックアワー 天空が魔法にかかるとき」（2023年3月29日（水）初回放送）
フィンセント・ファン・ゴッホ	草地、背景に新しい教会とヤコブ教会（寄託作品）	株式会社 堀場製作所	WEBサイト「HORIBA」内の「HORIBA Talk」掲載インタビュー記事（英語版）に使用

## ■作品撮影

作家名	作品名	発行元等	媒体
クロード・モネ	ジュエルニーの積みわら、夕日	株式会社 クリエイティブネクサス	テレビ番組「ザ・プロファイラー」（2022年12月15日（木）放送）

## ■作品熟覧

作家名	作品名	発行元等	媒体
黒川紀章	中銀カプセルタワービル 住宅カプセル	株式会社 黒川紀章建築都市設計事務所	

## ■教育・普及事業

教育・普及事業では、入館者に当館のコレクションをさらに楽しみ、新たな考え方や価値を見出していただくために、また、次代を担う子供たちの感性と創造力を育むために、主として「一般向け事業」、「世代間交流を取り入れた事業（子供のためのプログラム）」、「学校との連携」、「広報活動」を展開している。

新型コロナウイルス感染症対策が続いていた令和3年度と比べると、令和4年度は段階的にはあるが、多くの教育普及事業を再開することができた。

「一般向け事業」のミュージアム・レクチャーやスライド・トークは定員を設けての開催となったが、参加者の方々にはとても満足していただけた。ミュージアム・シアターも久しぶりに復活した。

「世代間交流を取り入れた事業」である子供向けワークショップ「MOMAS のとびら」でも定員の制限は不可避であった。申し込みを事前予約制とし、参加者同士の距離をとるなどの感染対策を講じた。また同時に複数の場所でプログラムを行うなど実施方法を工夫しながら運営し、できる限り多くの方が参加できるようにした。

「学校との連携」では、多くの学校から授業協力の依頼をいただいた。感染対策上リスクのあるものは今年度も見送ったが、概ね対応することができた。

「広報活動」としては、広報物配布やメディアでの発信等の取り組みに努めた。

以上のように、感染症対策による制限はあったものの、可能な範囲で出来る限りの教育・普及事業を実施することができた。ボランティアによるガイド活動も、実施方法を工夫しながら再開することができた。



「ミュージアム・レクチャー」の様子

## ■ミュージアム・レクチャー

令和3年度より、年度中に1回、展覧会鑑賞とは別の視点で美術に触れる場として専門的なレクチャーを開催している。平成30年度まで行われていた「美術館講座」を、より間口を広げた形で引き継ぎ、聴講費不要としたものである。

### ■近代日本画の材料と表現

2023年3月21日（火・祝）14:00～15:30 / 講師：林樹里（日本画家・東京藝術大学 COI 拠点 Arts & Science LAB 特任助手） / 講堂 / 無料 / 参加者数：28名（予約不要）

### ■担当後記

◆今回は、日本画における「写し（模写）」をテーマにした。日本画において写しは、画技、画法の継承であり、何より文化財保存のために重要な要素である。同時に、画家にとって新たな創作の源泉ともなりえる。そこで、模写作品などを展示するだけでは伝えきれない、写しの意義を紹介できる講師を検討した。

◆講師は琳派を象徴する技法「たらしこみ」について、模写による研究を行いながら、日本画家としても精力的に活躍している。また、東京藝術大学 COI 拠点でクローン文化財事業に携わっており、写しというテーマに多様な角度から関わる活動をしている。講演では、「クローン文化財」、「模写による技法研究」、「制作」の3本柱でお話いただいた。豊富な画像や動画で紹介するだけでなく、クローン文化財2点、研究の際に制作された模写作品1点、自身の作品1点を展示し、参加者は自由に閲覧、撮影をできるようにした。クローン文化財は触って感触を確かめることもでき、参加者にとって大変貴重な機会となった。講義終了後は、贋作対策、絵画制作の際の意識についてなど、様々な質疑応答が約30分続き、非常に満足度の高い充実したレクチャーとなった。林氏にはこの場を借りて改めて御礼を申し上げます。

◆広報はソカロや Twitter での告知、チラシの配架等で行なった。クローン文化財に関心がある方、美術大学の学生、林氏の作品のファンなど、様々な方に参加いただいた。アンケートでは、若手作家の話聞いて満足したという感想や、今後も最先端の活動をしている方の話を聞きたいというリクエストがあった。次年度も引き続き日本画に関する新たなテーマで開催したい。（菊地真央）

## ■ミュージアム・シアター

展覧会の枠組みでは紹介が難しい表現（映像・映画、音楽、ダンス、演劇、パフォーマンス）について取り上げ、より幅広いジャンルの表現に触れる機会を提供することを目的として開催しているイベントである。元々は開館当初から1997年まで開催されていたもので、今年度、25年ぶりに復活することとなった。

### ■ホラー映画とジェンダー／フェミニズム

- ・2023年3月5日（日）第1回：12：00～13：23、第2回：14：00～16：32／講堂／無料
- ・2023年3月19日（日）第3回：10：30～11：53、第4回：13：00～17：00（講演会を含む）／講堂／無料
- ・上映作品／『悪魔のいけにえ』（1974）[第1回、第3回]、『サスペリア』（2018）[第2回、第4回]
- ・講演会「ホラー映画のジェンダー論」／講師：鷺谷花（映画学・日本映像文化史研究）
- ・参加者数／第1回：13名、第2回：20名、第3回：32名、第4回：45名

### ■担当後記

◆イベント復活後、初めての開催となったミュージアム・シアター。今回は、娯楽的な要素が強い映画ジャンルとして認識されがちなホラー映画を、ジェンダー論やフェミニズムの視点からとらえ直す試みとして「ホラー映画とジェンダー／フェミニズム」というテーマ設定のもと開催した。

◆イベントの最終回には講演会を実施した。講師としてお招きした鷺谷花氏は、主に日本映像文化史を専門とする映画研究者であるが、ホラー映画とジェンダーの関係についての論考を度々執筆していることでも知られている。鷺谷氏の講演会を目標に参加される方も多く見受けられた。

◆久しぶりの開催ということで、試行錯誤しながらの実施となったが、参加者からは「新たな視点を得ることができた」との声も聴かれ、一定の成果は得られたように思う。その一方で、集客・広報活動の面では課題もあると感じた。来年度も引き続き検討を重ねながら、人々の関心を引くような企画を開催していきたい。（佐藤あゆか）

※詳しくは「トピックス」（p.82）も参照のこと。

## ■一般団体対応

### ■スライド・トーク

平成27年度より、希望する一般団体（成人を中心とする2名以上の団体。学校団体や子供中心の団体と区別）に対して、スライドや資料を用いて展覧会や美術館の案内を行っている。事前予約制で、企画展またはMOMASコレクション展を観覧するグループを対象とし、観覧する展覧会の見どころや作品解説、美術館全体の案内、屋外彫刻の解説など、希望に応じた内容・時間で対応している。展覧会観覧前にテーマや構成、見どころ等を聞くことで、「より関心をもった」「展覧会観覧がますます楽しみになった」という声が聞かれ、一定の成果があるものと考えられる。

また、出張講座も受け付けている。遠方の社会教育施設を利用する成人の団体を対象とし、当館収蔵作品を中心に美術史や美術鑑賞の基礎的な講義を行っている。収蔵作品をメインに構成されるアートカードを用いた鑑賞体験を交えたり、収蔵作品の画像を講座内で活用したりすることで、美術館になかなか来られない地域の方の美術についての興味や関心に応えるとともに、埼玉県的美術文化財への理解を促す取組となっている。

### ■対応実績

対応数：16団体、計437名（出張講座4件含む）  
団体種：図書館、公民館、生涯学習団体など

### ■担当後記

◆スライドを使用した団体案内事業の開始から8年が経過した。新型コロナウイルス感染症による影響で団体からの申し込みが減少し、昨年度に若干の回復を見せてから横這いの現状である。

◆しかしながら、案内を希望する団体の数に大きな変化はないものの、各機関が人数制限の緩和をはじめたことにより参加人数の総計は増加した。11月に実施した生涯学習団体に対しての出張講義では150名を超える生徒の方が参加し、美術に興味を持った参加者が来館して再度スライド・トークを希望されるなど、内容も充実したものとなった。

◆当館内でも徐々に規制の緩和がみられるが、感染症拡大以前のような盛んな事業まで回復するにはまだ時間が必要だと思われる。来館者が安心してスライド・トークに参加できるようにするには、引き続き十分な対策が必

要になってくるだろう。留意すべき点は多いが、来館者の方々の鑑賞体験が充実したものとなるよう努めていきたい。  
(溝井若菜)



スライド・トークの様子

### ■視覚障害者向け作品案内サービス

令和元年度より視覚に障害のある方を対象として、収蔵作品とデザイナーズ・チェアの案内を行っている。令和4年度は3月にプログラムを実施予定だったが、参加団体の都合により次年度以降に延期となった。

### ■ファミリー鑑賞会

美術が好きな方でも、小さなお子さんを育児している期間中に美術館を訪れる機会をつくることは難しい。一方で、北浦和公園には、赤ちゃんや幼児を連れてお母さんやお父さんが大勢訪れている。

このような方々がゆっくり気兼ねなく美術館を楽しむきっかけとなるよう、お子様連れの家族優先の時間帯を設けてスタッフがMOMASコレクションを案内する「ファミリー鑑賞会」を平成25年度から実施している。また、飽きてしまいがちな子供たちのために、スタッフが一緒に遊ぶコーナーも展示室内に設置してきた。

令和4年度も春と秋、2回の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、集団を対象とした展示室内での対面案内および幼児と職員の接触による感染の可能性を考慮し、残念ながら中止とした。

## ■子供のためのプログラム

### ■アート体感ワークショップ「MOMASのとびら」

#### 0. 「MOMASのとびら」とは

2010年4月からスタートした教育普及プログラム。美術館という場所を舞台に、関わる人全て（参加者、美術館スタッフ、ボランティア）が美術館での体験を共有することにより、一人ひとりの新しい次元の扉が開き、芸術文化を共に創造する機会が充実することを目的としている。

開催日は主に土曜日で、美術館のでできごとを楽しむというコンセプトで運営している。参加対象は幼児（4才）から大人まで幅広く設定している。作品鑑賞と制作が一体となったプログラムでは、展示や収蔵作品を多角的に楽しめるよう用意している。

令和4年度は、内容や定員を制限した実施計画を立て、プログラムを実施することが出来た。また、年度途中より制限が緩和されて定員を増やした。多くの参加者に活動してもらえるよう新しいプログラムの開発にも努めた。

#### 1. みる+つくる

MOMAS コレクションや美術館内外の作品、または開催中の企画展の作品を鑑賞した後、鑑賞をもとにした簡単な制作を楽しむプログラム。対象枠：小・中学生。

- ・「どんなどころに行こうかな？夢みるトランク！」10月8日、10月22日、11月5日／参加者：9名、9名、9名
- ・「ガクガク？わくわく？額縁をつくろう！」12月10日、12月17日／参加者：10名、11名

#### 2. 親子クルーズ

MOMAS コレクションや美術館内外の作品、または開催中の企画展の作品を鑑賞した後、鑑賞をもとにした簡単な制作を親子で楽しむプログラム。対象枠：小・中学生+親。

- ・「かく かく しかくでランプを作ろう！」6月25日、7月2日／参加者：6名、10名
- ・「みえない気持ちをかたちにしたら」2月4日、2月11日／参加者：12名、12名



親子クルーズ「みえない気持ちを形にしたら」での制作の様子

#### 3. み〜つけ！

美術館のでできごとを、体いっぱい楽しむプログラム。美術館や公園などの環境を生かし、発見をテーマに実施する。対象枠：幼児（4才～6才）+親。

- ・「キラキラ枢機卿に大変身！」6月4日、6月11日／参加者：12名、11名
- ・「かく、かく、カラフル かがやく四角！」11月19日、12月3日／参加者：10名、14名

#### 4. 工房

美術館ならではの制作を中心としたプログラム。子供から大人まで、互いに刺激されながら楽しく制作する。対象枠：小学生～一般。

- ・「板から椅子ができた！」7月16日、7月23日／参加者：11名、10名
- ・「板から椅子ができた！」1月21日、1月28日／参加者：13名、9名
- ・「ザラザラ？つるつる？肌で感じて美術館！」3月4日、3月11日／参加者：14名、18名

#### 5. 彫刻あらいぐま

屋外にある彫刻作品を洗浄するプログラム。参加者は洗浄のプロ（学芸員）やボランティア・スタッフに教えてもらいながら、彫刻作品を一生懸命洗浄する。また、洗浄前と後の彫刻の気持ちを考えるなど、スタッフと会話をしながら鑑賞も楽しむ。対象枠：小・中学生+親。

- ・5月7日、5月14日／参加者：5名、4名
- ・9月10日、9月17日／参加者：4名、2名

## 6. フリープログラム

誰でも参加できるプログラム。洗濯ばさみを使った造形遊びをしたり、青空の下で風を感じて描いたり、グッドデザインの椅子に座ってお気に入りの椅子をみつけたり、ストローをカクカクつなげたりして楽しむ。対象枠：どなたでも。

- ・「洗濯ばさみで絵を描こう!」「MOMAS 探検隊!」4月9日、4月23日/参加者：33名、36名
- ・「お気に入りの椅子をみつけよう!」「MOMAS 探検隊!」4月30日/参加者：20名
- ・「お気に入りの椅子をみつけよう!」「洗濯ばさみで絵を描こう!」10月1日/参加者：47名
- ・「洗濯ばさみで絵を描こう!」「カクカクつなげて遊ぼう!」1月14日/参加者：87名

## 7. サマー・アドベンチャー

夏休み限定の特別企画。普段なかなか足を運べない遠方の方にも参加しやすく、美術に触れ、美術の価値を見出す機会を提供するスペシャル・プログラム。

- ・「お面をつくろう!」8月6日/講師：平島鉄也(造形作家)/対象枠：小・中学生/参加者：12名
- ・「フリープログラム DAY」8月13日/台風接近のため中止
- ・「カッコイイ緑をつくろう!」8月20日/講師：内海聖史(画家)/対象枠：小学生以上/参加者：22名
- ・「どんな作品が似合うかな?～額縁の世界～」8月27日/対象枠：小・中学生/参加者：9名

## 8. もますまつり

県民の日(11月14日)に1日行う、フリープログラムの拡大版。対象枠：どなたでも。

- ・「風を描こう!」「カクカクつなげて遊ぼう!」11月14日/参加者：75名



サマー・アドベンチャー「お面をつくろう!」での制作の様子



サマー・アドベンチャー「カッコイイ緑をつくろう!」の講師・内海聖史氏と参加者。ベランダで鑑賞している様子

## ■夏休みの特別プログラム

### 1. 夏休み MOMAS ステーション

夏休みに美術館を訪れる子供たちをサポートするコーナー。研修を受けた教育普及サポート・スタッフが相談員となり、館内の案内や「彫刻や作品を楽しむためのワークシート」、「展覧会を楽しむためのワークシート」などの資料を配布したり、美術館見学の宿題の相談に応じたりする。

令和4年度は7月16日(土)～8月25日(木)の休館日以外の毎日、エントランス・ロビーにて対応した。ただし、来館者と一定の距離を保てるよう受付越しに資料を渡すなど、感染症対策を講じた。

### 2. 夏休み鑑賞ガイドツアー

夏休み期間中に3日間限定で行う30分のミニ・ツアー。美術館職員と教育普及サポート・スタッフの有志がファシリテーターとなり、ツアーの運営にあたる。美術に興味のある人と一緒に美術館を巡ることで、美術の楽しみ方を体験的に学ぶことができる機会を提供することが可能である。

例年、小・中学生や親子連れの入館者が参加し、気軽にアートに親しめるツアーとして好評を博していたが、令和4年度は新型コロナウイルス感染症対策のため中止した。

## ■担当後記

◆新型コロナウイルスの影響で、人数制限や時間制限を設けることがあったが、悪天候による中止を除き、ほぼ全てのプログラムを実施することができた。また、年度途中より感染症対策に緩和の兆しがみられ、フリープログラムは事前申込なしのスタイルに戻した。大人数が参加できるプログラムを実施したことで、コロナ以前のよう開かれた美術館のかたちへ一歩近づくことができた。しかし、コロナ以前に戻すだけでは普及事業として成長がみられない。価値観が変わった時代の中で、美術館だからできるような普及プログラムの開発に努めていきたい。

◆MOMASのとびら拡大版「サマー・アドベンチャー」では、2名の講師をお招きした。造形作家である平島鉄也氏のワークショップでは、世界中のお面を鑑賞した後、オリジナルのお面作りを行った。また、画家の内海聖史氏のワークショップでは、さまざまな色の絵具を使

い、自身が一番かっこいいと思う緑を作った。プログラムの最後には内海氏の作品を鑑賞し制作に関する質問時間を設けたが、参加者が積極的に発言をする様子が見られた。サマー・アドベンチャーは以前から人気があったが、それ以降も定期的にMOMASのとびらへ申込んでくれる方が増え、サマー・アドベンチャーの成果を感じるとともに、通常のMOMASのとびらの活性にもつながった。今後も趣向をこらしたプログラムを実施していきたい。(飯田淳乃)

## ■ミュージアム・コラボレーション

埼玉大学と埼玉県立近代美術館が協働して子供のための事業を行うもので、主として土曜日の教育普及プログラム「MOMASのとびら」のスタッフとしてプログラムの企画・運営に携わっている。教員等を目指す学生が積極的に参画することで、学生にとっては、子供への接し方や授業の進め方等、現場での実践力を身につけるにとどまらず、美術館という社会教育施設での学びの在り方、学校での図工・美術の学び、社会や子供と図工美術のつながりなどを広く学ぶ場になっている。

### ■担当後記

◆令和4年度は11名の学生が履修した。多くの学生が美術館の普及事業に関心をもって参加することはたいへん嬉しいが、コロナ禍で参加者との密を避けるために、会場が狭いプログラムの場合には2グループに分かれて取り組んだ。

◆「MOMASのとびら」ワークショップでは、参加者と適切な距離を保ちながらも、鑑賞、制作が充実した活動になるよう必要に応じて対応することとした。4月の段階では、参加者との接し方に少々戸惑いや難しさを感じていたようだが、回を追うことに学生一人一人が自身のよさを武器に、参加者の思いに寄り添った声掛けができ、なおかつ全体の様子から判断して取り組もうとする姿が見られた。

◆自宅課題では、ワークショップで使用頻度の高い用具や素材で作品づくりを行ったり、全国各地の美術館やアートイベントについて調査したりした。作品づくりでは、自身で制作することで、用具の安全性や参加者が難しく感じる場面を想定しながら進めることができ、自身が主体となるプログラムへとつなげることができた。

◆コロナ禍で活動が限定されてきた学生にとって、本事業で得られた学びの成果は大きいと考える。社会へと進んでいく学生たちの支援ができたことは大きな喜びである。  
(飯田淳乃)



作品鑑賞で参加者の対応をしている学生

## ■企画展ワークシートの作成

企画展の特徴をわかりやすく紹介するため、主にセルフガイド型のペーパー・アイテムを作成している。会場が無償配布するほか、学校団体や子供のためのプログラムなどでも幅広く活用している。必要に応じて小・中学校、高校、図書館、公民館にも配布する広報資料であり、また学校では、鑑賞学習の指導者側のツールとしても用いられ、来館前の事前学習に大いに役立つこともある。

令和4年度は次の2種を作成した。

### ①「桃源郷通行許可証」／作成：溝井若菜



外側

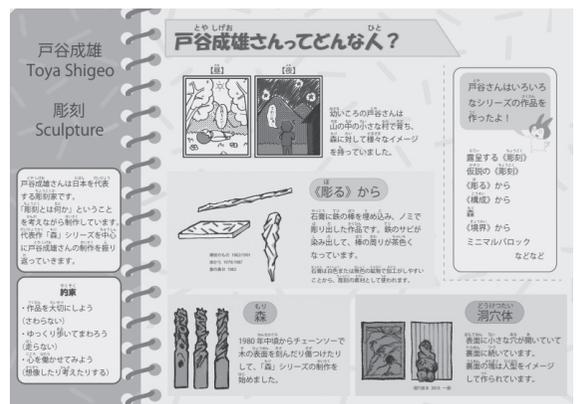


内側



二つ折り

### ②「戸谷成雄 彫刻」／作成：溝井若菜



表面



裏面

## ■学校との連携

### ■教員美術講座

教育現場に生かせる講座を提供し、図工・美術教育の発展と充実を図るとともに、博学連携を深めることを目的としている。令和4年度は講座1回を開催した。

■第1回教員美術講座「右脳でつくる!オリジナルりんご」  
8月10日(水) / 講師:代 淳子(行田市立見沼中学校教諭) / 参加者:18名

人間の左脳は言語的、理論的な働きをしているのに対して右脳は非言語的、直感的な働きをしているといわれる。右脳を使うことで自分らしく生き生きとした表現ができることが考えられる。講座では、右脳を働かせて触覚や嗅覚といった諸感覚を刺激し、感じることによってできる豊かな表現活動の体験をねらいとした。

参加者の感想(抜粋):抽象的な表現の仕方に難しさを感じていましたが、一人しかいない大切な自分を自己解放して表現する心地よさを体験できました(小学校教諭) / 身近な素材で個性的な作品が生れる楽しいアイデアでした(中学校教諭) / 自分が夢中になって作っていました。この楽しさを子供たちに伝えたいです(特別支援学校教諭)。

### ■担当後記

◆開催した講座は、講師との入念な打合せを重ね、感染症対策を十分に講じて実施することができた。

◆令和4年度の講座は1回のみであったが、前年度に実施した講座を応用した内容となっており、右脳を働か

せて諸感覚から認識する描き方から、立体的な作品づくりまで発展させることができた。成果物から辿ると、制作において難しい箇所があるのではないかと参加者の表情も少し硬くなっていたが、講師である代先生より丁寧な説明があり、何よりも児童・生徒の立場から制作を考えるとというプログラムに対してのお気持ちが聞けたことで、参加した先生方もリラックスして取り組むことができ、最終的には個性ある作品が生まれた。

◆参加した先生方はたいへん充実した体験ができたようで、今後の授業での生かし方について参加者同士で検討している様子も見られた。

◆専科制ではない小学校では一人の教員が多くの教科を受け持っており、じっくり教材研究する時間が確保できない現状がある。今回の講座のように、ただ制作をするのではなく、先生方が授業の流れを自分の中に落とし込めるような内容を実施することで、学校現場でも実りある授業が実施できるのではないだろうか。美術館ではこうした機会を継続して発信していけるように努めていきたい。

(飯田淳乃)



「第1回教員美術講座」の様子



参加者の成果物

## ■ミュージアム・キャラバン事業

県内の学校をアーティストと共に訪問してワークショップを行い、授業の枠を広げて鑑賞や創作体験をすることを通じて、児童生徒に美術の楽しさや美術的な価値観・視点を伝えることを目的に本事業を実施している。

### ■「身の回りのものを塗りつぶして、立体的な絵を描こう！」

2月15日（水）／講師：末永史尚（美術家）／実施校：青山学院大学系属浦和ルーテル学院小学校／参加生徒数：6年生 44名

身の回りにあるものを白い絵具で塗りつぶし、記憶を頼りに元の色を塗ってみることで、立体的な絵をつくり、出来上がったものを新たな視点で楽しむワークショップを行った。また、講師の作品をパワーポイントで鑑賞し、作品制作における思いなどを聞いたことは、美術を身近に感じることができるよい機会となった。

### ■「影のワークショップ」

2月27日（月）／講師：青木聖吾（美術家）／実施校：所沢市立三ヶ島小学校／参加生徒数：1年生 47名

講師の指導のもと、「影」をテーマにしたワークショップを行った。プロジェクターの光で映し出された影の形を友達同士で写し取り、その形に合わせて赤・青・緑のパスで色を重ね、「もう一人の自分」を作り出した。生徒一人一人が自分だけの色の重ね方をすることで、成果物は様々な表情となった。また、講師の作品や制作過程を紹介し、美術への姿勢や考え方、作品制作に込める思いなどについて生徒が知る、貴重な機会となった。



ミュージアム・キャラバン「身の回りのものを塗りつぶして、立体的な絵を描こう！」制作の様子

## ■担当後記

◆美術館から遠方、もしくは学校の事情や児童生徒の実態から美術館見学などが難しい学校との連携を深めるためにも本事業はたいへん有意義である。今年度は、天候が危ぶまれたものの、無事2校でのワークショップを実施することができた。

◆「身の回りのものを塗りつぶして、立体的な絵を描こう！」のワークショップでは、平面ではない自身の身近なものを塗りつぶすという活動が新鮮で、塗りつぶすと「見えなくなる」ということから、普段以上に対象物を真剣に見つめる様子が窺えた。

また、「影のワークショップ」では、体育館の広く大きな壁に自分の影を映し出し、光源に近づいたり離れたりすることで影の大きさを変え、友達と重なりながら、全身を使って影遊びを楽しむことができた。さらに写し取った影はそれぞれポーズや大きさが違い、3色のみで塗り重ねた色も、重ねる順番や強さによってひとつとして同じものがなく、時間をかけてじっくり鑑賞することができた。自分の体より大きい成果物が貼られた体育館はまさに壮観であった。

◆通常の授業協力や美術館職員が担当するワークショップとは異なり、子供たちがアーティストと一緒に活動したり、アーティストの考え方や視点に直接ふれることができたりする貴重な機会を提供する事業として、今後も進めていき、学校への広報も強化していきたい。

（飯田淳乃）



ミュージアム・キャラバン「影のワークショップ」の様子

## ■第4回「カラダで・みる、うごいて・みる！」

学校との連携強化と、図工・美術教育の発展を目的に、県内の小・中学校、高等学校、特別支援学校（級）の児童・生徒を対象に本事業の開催を計画した。当館収蔵作品の鑑賞をもとに受け取ったイメージを、身体を使った動きで表現し、短い映像に記録したものを募集した。令和4年度は、この5年間の集大成として、13グループ、計103人が参加した。

10月14日（金）に当館創作室において、建畠哲館長、中村幸太郎副館長、ダンスアーティスト／体奏家・新井英夫氏、平野到学芸主幹が審査を行い、以下の入賞作品と入選作品を決定した。

受賞作品は11月14日（月）から3月19日（日）まで、エントランスロビーのテレビモニターにて上映した。

■入賞作品 ※学校名／グループ名／鑑賞作品の順に記載。

### ① 総合グランプリ

狭山市立入間野中学校／次回、なにもしす！／アキッレ・カスティリオーニ & ピエル・ジャコモ・カスティリオーニ《アルナッジオ（月面着陸）》



### ② 総合準グランプリ

鴻巣市立吹上北中学校／自然の会／橋本真之《果実の中の木もれ陽》



### ③ 中学校グランプリ

鴻巣市立吹上北中学校／先の時代の敗北者じゃけえ／タイガー立石《Moon's Satisfaction》



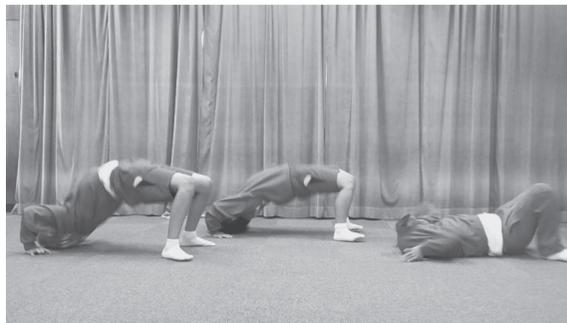
### ④ 中学校準グランプリ

鴻巣市立吹上北中学校／猿人のあつまり♡／アキッレ・カスティリオーニ & ピエル・ジャコモ・カスティリオーニ《アルナッジオ（月面着陸）》



### ⑤ 中学校準グランプリ

鴻巣市立吹上北中学校／走れメロン／タイガー立石《Moon's Satisfaction》



## ⑥ 特別支援学校（学級）グランプリ

埼玉県立行田特別支援学校／森の妖精たち／橋本真之  
《果実の中の木もれ陽》



### ■担当後記

◆公募展「カラダでみる、うごいて・みる！」は、令和4年度を集大成とした事業である。コロナ禍を経て5年間で4回開催したが、最終回となった今年度もコロナ禍の影響を受けた。身体の一部である顔での表現ではマスクの有無、児童・生徒同士の距離の取り方など、一定の基準は設けられているものの、個人の考えもあるため、応募条件について頭を悩ませることが多かった。

◆審査後より感染症対策が緩和傾向にあり、入賞作品の上映も行うことができた。また上映期間中は、生徒が鑑賞した作品の印象や気持ちを載せた冊子も用意し、来館者が興味を持って作品を鑑賞できる場作りを行った。

◆参加した学校の先生から、「入賞した生徒の保護者が、作品を見に行きたいので、美術館のルールや約束事を教えてほしいと言ってきた」というお話を伺い胸が熱くなった。美術館からの発信全てに答えが返ってくるわけではないが、種を蒔き、継続的に活動することが今後の美術館の発展につながっていくように感じた。

◆令和4年度をもって、「カラダで・みる、うごいて・みる！」は終わりを迎えるが、収蔵作品を活用し、未来を担う児童・生徒に、美術館という場所に興味関心を持ってもらうことを考え、次年度もあらたな公募展を実施していきたい。  
(飯田淳乃)

### ■その他の学校連携事業

学校との連携を図る活動として、以下の対応も行った。

### ■学校団体の受け入れ

美術作品の鑑賞を目的として来館した園児・児童・生徒・学生を対象に、例年であれば対話による鑑賞をしながら展示室や屋外彫刻を案内していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を講じつつ、可能な範囲で案内を行った。実施した内容は、展示室に入る際の鑑賞ポイントの紹介、少人数グループに分けた屋外彫刻案内、別室での複製画や鑑賞パネルでの対話による鑑賞、同じく別室でのグッドデザインの椅子鑑賞体験などである。活動に制限があったとしても、美術館では展示の迫力を体感したり、館内の雰囲気味わったりと、魅力を存分に感じ取ることができた。

学校団体対応数：28 団体、計 1,461 名



団体案内の様子

### ■授業協力

学校等を訪問し、当館収蔵作品の複製画やグッドデザインの椅子、鑑賞キットを使って鑑賞の授業を行った。美術館利用研究会が考案したプログラムを軸に、事前に先生方と打ち合わせを行い、園児・児童・生徒・学生の実態やねらいに合わせて授業を計画・実施した。特に、グッドデザインの椅子の授業では、「実際に触ったり座ったりして身近にアートが感じられ、椅子の鑑賞を通して、子供たちが美術館や作品、作家へ興味をもつことができた」という感想をいただいている。図工・美術の授業を苦手を感じる先生自身が楽しみながら指導の幅を広げることに役立っているようである。実施をきっかけに学校全体で年間指導計画に組み込むなど、繰り返し依頼のある学校も多い。また、各市町村の教科別研修会などで紹介していただくこともあり、経験のある先生方だけでなく若手の先生による活用も増加してきている。

授業協力数：42 校、118 学級、計 3,550 名



中学校での鑑賞授業の様子（椅子）

### ■複製画等の貸し出し

学校の授業で活用できるよう、当館収蔵作品の複製画や鑑賞キット、アートカードなどを貸し出した。複製画や鑑賞キットは、パブロ・ピカソ《静物》、小茂田青樹《春の夜》、クロード・モネ《ジヴェルニーの積みわら、夕日》、カミーユ・ピサロ《エラニーの牛を追う娘》、マルク・シャガール《二つの花束》、岸田劉生《路傍初夏》、瑛九《青の中の黄色い丸》などから選ぶことができる。教員向けの研修や公開授業で見たり、利用している先生から実践内容を聞いたりして活用を検討する先生も多く、問い合わせが増えている。初めて利用する先生には、授業の流れを実際に見せたり、美術館利用研究会が考案した授業例などを紹介したりしている。

貸出数：32件

### ■職場体験の受け入れ

新型コロナウイルス感染症対策のため、日数や内容を限定して受け入れを行った。

対応数：5校、14名（中学校5校）

## ■博物館実習

「埼玉県博物館等の博物館実習生受入要領」に基づき、下記の13大学17名の実習生を受け入れて実施した（青山学院大学、跡見学園女子大学、桜美林大学、埼玉大学、実践女子大学、十文字学園女子大学、尚美学園大学、多摩美術大学、帝京大学、東京工芸大学、東京造形大学、日本大学、武蔵野美術大学）。

日程は全7日間で、学芸員および担当職員による講義中心の合同実習を4日間、担当学芸員のもとテーマに応じた実務を行う個別実習を3日間行った。

新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡散防止を図り、合同実習では通常より広い会場で実施して密を避ける、換気に努める、グループ活動では1班あたりの人数を減らす、といった対策を講じた。

### ■合同実習

講義と実務を中心に職員、学芸員が講師として指導した。

- ・7月19日（火）／館内外施設見学、学芸部の仕事について、管理の仕事について、企画展の概要について、企画展の実務について、企画展見学
- ・7月20日（水）／図書とその取り扱いについて、美術資料の収集と保存について、MOMASコレクションについて、油彩画とその取り扱いについて
- ・7月21日（木）／彫刻とその取り扱いについて、彫刻のメンテナンス、広報と刊行物について、広報活動について、教育普及活動について、ワークショップ・学校連携について、視覚障害者のガイドについて
- ・7月22日（金）／新規採用の学芸員から、日本画とその取り扱いについて、版画・写真とその取り扱いについて、これからの美術館について

### ■個別実習

各実習生の研究テーマや関心領域に応じて学芸員が1～2名の実習生を担当し、実務の実習を行った。実習日は、個別実習担当者の実習生が相談して決めた（原則として8月中に3日間）。当日は、展示、収蔵品の点検、資料整理、資料発送、ワークショップ運営といった作業を体験したり、意見交換を行ったりした。

## ■美術館ボランティア

### ■美術館サポーター

美術館サポーター（ガイド・ボランティア）は、MOMAS コレクション各会期最初の火曜日から毎日、14時から30分程度、展示室内で解説ガイドを行っていたが、令和3年度に引き続き展示室内での解説ガイドの実施を見送った。ただし、年度途中で新型コロナウイルス感染症対策が緩和されたため、一定の距離が保てる館内の無料ゾーンまたは屋外彫刻でのガイド活動を試みた。

令和4年度の登録人数は38名。

### ■研修日程

令和4年度は状況に応じて研修会の実施、もしくは関連資料の郵送とした。なお、参加の判断については各美術館サポーターに委ね、参加が難しい際は資料を郵送した。

- ・4月23日（土）担当職員顔合わせ、年間予定のお知らせ／ガイド活動実施方法について
- ・5月28日（土）館長トーク／埼玉県立近代美術館建畠哲館長
- ・6月25日（土）MOMAS コレクション第1期解説／平野学芸員、五味学芸員
- ・7月23日（土）企画展「田中保」関連資料郵送
- ・8月27日（土）ガイド活動について資料郵送
- ・9月24日（土）MOMAS コレクション第2期解説／菊地学芸員、佐藤学芸員
- ・10月29日（土）ファン・ゴッホについてレクチャー／平野学芸員
- ・11月26日（土）桃源郷通行許可証解説／嶋原学芸員
- ・12月17日（土）MOMAS コレクション第3期解説／五味学芸員、佐藤学芸員
- ・1月28日（土）ガイドの実施状況確認、意見交換
- ・2月18日（土）森田恒友、倉田白羊についてレクチャー／吉岡学芸員
- ・3月18日（土）年間総括及び次年度ガイド活動の検討

### ■担当後記

◆令和3年度に続き、新型コロナウイルス感染症対策のため、美術館サポーターが展示室内での活動を行うことは困難を極めた。しかし、昨年度末より温めていた、一

定の距離を保ちやすいフリースペースの作品や屋外彫刻でのガイドを、月に数回ずつ行う活動を試みた。結果として、2年間ブランクがあったガイドを少しずつ思い出すよい機会になった美術館サポーターもいた。また、未だ展示室で活動を行ったことがない8期生がガイドの流れを知り、他のサポーターと交流する場ともなった。

◆展示室外の作品のガイド準備や案内のルート決め、自分たちでの館内放送など、今までのガイド日には必要なかったことにも前向きに挑戦する姿は担当者としても嬉しく、現状と向き合う美術館サポーターの底力を見たように思う。

◆残念ながら、令和4年度は展示室での活動に戻ることはできなかったが、月に数回の展示室外のガイドを重ねたことで、来館者から「待っていた」「また聞きに来る」などのお言葉があり、美術館サポーターは当館にとってたいへん大切な存在であると再認識した。

◆感染症対策も形が変わり、次年度には展示室内のガイドが復活できそうな兆しがある。約3年間温めてきた力を作品ガイドで大いに発揮していただきたい。

（飯田淳乃）



美術館サポーター研修会の様子

### ■教育普及サポート・スタッフ

当館の教育普及事業をサポートするボランティア・バンクとして、学生や教員、一般まで幅広く募集している。美術館への関心の高さとともに、バンク登録者にとっては社会貢献への位置づけとなっている。1年更新で、令和4年度の登録人数は113名。

### ■研修日程

・新規スタッフ研修：美術館でのサポート・スタッフの役割と子供の鑑賞活動について理解してもらい、美術館と子供たちのつなぎ役となれるよう研修を実施した。そ

の中で、美術館の目的や収蔵作品、令和4年度の活動内容と運営計画などについて講義した。／6月12日(日)、6月17日(金)

・ガイドスタッフ特別研修：夏休み期間に展示中の作品を実際に見て、対話型鑑賞の練習を行うものだが、今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、本研修は見送ることとした。

#### ■担当後記

◆令和4年度も美術や教育に関する学科のある大学を中心に連携を図り、ガイダンスを実施することができた。また、新規登録者は50名以上となった。

◆コロナ禍において、どの世代も実践的な活動ができる場所を求めていることがよくわかるが、登録者が増えると研修内容や活動日、活動場所についても考えることが多くなった。特に、研修内容については十分な内容が伝えられないと、来館した子供たちへの対応に差が生まれてしまう。また、充実した研修が実施されることでサポート・スタッフのモチベーションにもつながるであろう。

◆次年度は応募用紙の形式を一部変更してサポート・スタッフの募集を行う予定である。事前にどんなことを求めているのかを確認し、それを研修内容に反映させれば、より伝わりやすい研修になるのではないかと考えている。  
(飯田淳乃)

師：3名、3名

・9月10日(土)、17日(土)／「MOMASのとびら」の「彫刻あらいぐま」で、ボランティア講師として指導。

／講師：3名、2名

## ■ MOMAS 彫刻ボランティア

MOMAS 彫刻ボランティアは、2004(平成16)年に発足した。現在は、土曜日開催のワークショップ「MOMASのとびら」において、彫刻洗浄プログラムのボランティア講師を務めることを活動内容にしている。「MOMASのとびら」における洗浄プログラムの名称は、ボランティアの愛称である「彫刻あらいぐま」を引き継ぎ、彫刻の洗浄方法と屋外彫刻の意義などを教えている。登録者数9名。

#### ■活動概要

令和4年度は、5月と9月にそれぞれ2回ずつ、彫刻洗浄プログラム「彫刻あらいぐま」を計画した。彫刻ボランティアが数名ずつ講師として指導する予定をたてた。

・5月7日(土)、14日(土)／「MOMASのとびら」の「彫刻あらいぐま」で、ボランティア講師として指導。／講

## ■ 広聴・広報・刊行物

### ■ 広聴

#### 1. アンケート調査

企画展、MOMAS コレクションともに、毎回アンケート調査を実施し、来場者の声を聴いた。

・企画展調査：「扉は開いているか」2月5日～5月15日の83日間。回答数：259 / 「田中保とその時代」7月16日～10月2日の71日間。回答数：237 / 「桃源郷通行許可証」10月22日～1月29日の81日間。回答数：288 / 「戸谷成雄 彫刻」2月25日～5月14日の69日間。回答数：169 / いずれも展示室出口でアンケート用紙による回答。

・MOMAS コレクション調査：「Ⅰ」4月30日～8月28日の102日間。回答数：151 / 「Ⅱ」9月3日～11月27日の77日間。回答数：76 / 「Ⅲ」12月3日～2月26日の68日間。回答数84 / 「Ⅳ」3月4日～5月7日の57日間。回答数72 / いずれも展示室出口でアンケート用紙による回答。

#### 2. その他

当館への問い合わせ等はインターネットでも受け付けており、随時回答している。

### ■ 広報

#### 1. 印刷物の作成・配布

・企画展毎に、それぞれのイメージに即したデザインによるポスター、ちらし、ワークシート等を作成した。MOMAS コレクションでは昨年に引き続き、イメージを統一したB1・B2ポスターを会期ごとに作成し、北浦和公園や館内各所に掲出した。こうしたポスター類や道案内は、JR東日本大宮支社の協力を得て、最寄りのJR北浦和駅構内にも設置している。その他、学校向けの利用案内などは手づくりのちらしを作成した。

・以上の印刷物や広報紙ソカロ、ミュージアム・カレンダーを、関連機関、協力ポイント、近隣自治会や商店会、カフェ、県内の情報拠点や小・中・高・特別支援学校、全国美術館等に配布した。

#### 2. パブリシティ

・新聞、テレビ、雑誌、Web等の各種メディアで取り上

げられるよう、展覧会等の事業について、記者発表（12回）やプレスリリース配信（4回）などを行った。

・企画展の会期初日に報道関係者等を招いたプレスカンファレンスを開催した（3回開催。計50名参加）。企画展「戸谷成雄 彫刻」では関係者内覧会（出品作家の戸谷成雄氏も出席）もあわせて開催した。

#### 3. ホームページ

彩の国県立学校間ネットワークシステムのサーバ上でホームページを運用し、各種情報を発信した。

URL：<https://pref.spec.ed.jp/momas/>

・情報項目：お知らせ（新型コロナウイルス感染症対策、ニュース、広報紙ソカロ、プレスリリース、スタッフ募集）、利用案内（美術館概要、利用案内／交通案内、フロアガイド、一般展示室／講堂、北浦和公園）、展覧会（企画展、MOMAS コレクション、アーティスト・プロジェクト #2.0、年間スケジュール）、イベント（企画展関連イベント、MOMAS コレクション関連イベント、MOMAS のとびらカレンダー、イベント・カレンダーその他のイベント）、教育普及事業（MOMAS のとびら、学校と美術館、ミュージアム・レクチャー、ミュージアム・シアター、作品ガイド、サポート・スタッフ）、もっと楽しもう（収蔵品紹介、今日座れる椅子、資料閲覧室、ファミス、ミュージアムショップ、レストラン・ペペロネ）、利用案内／交通案内、リンク、サイトマップ、Other Languages、収蔵品検索、図録の販売など。

・年間ページビュー数：829,836

#### 4. SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）

・Twitter 公式アカウント（2011年7月～）では、美術館や北浦和公園の情報を定期的にツイートしている。

URL：[https://twitter.com/momas\\_kouhou/](https://twitter.com/momas_kouhou/)

ツイート数：9,226、フォロワー数：26,785（3月末現在）

・YouTube 公式アカウント（2014年1月～）では、展覧会の告知映像や展示風景、対談イベント、学芸員のギャラリートークの様子などを配信している。

URL：<https://www.youtube.com/user/momasjp>

・Facebook 公式ページ（2014年7月～）では、展覧会や各種イベント、収蔵作品解説などの情報発信を行っている。

URL：<https://www.facebook.com/momaspr>

フォロワー数：3,280（3月末現在）、いいね！数：2,803

(3月末現在)

## 5. その他

- ・年間スケジュールを英語翻訳し、ホームページ上で提供した。
- ・収蔵品解説を新たに中国語（繁体字、簡体字）、スペイン語、韓国語に翻訳し、合計74点の収蔵品解説を多言語にて総合受付に配架している。
- ・埼玉りそな銀行北浦和西口支店の協力により、店内デジタルサイネージによる美術館情報の配信を行った。
- ・グーグル社が提供する「Google Arts & Culture」に参加しており、2023年3月末現在、主要な収蔵作品の高精細画像99点（日英の解説付き）及び館内・北浦和公園のストリートビューをWeb上で閲覧することができる。
- ・2023年1月1日から1月29日までの間、JR大宮駅東口「アイ大宮東ビジョン」にて、企画展「桃源郷通行許可証」のPR動画を配信した（15秒/時間）。

### ■広報記録 ※他の事業で掲載していない記録を掲載

<新聞>

- ・「北浦和公園「カプセル」に再脚光」『産経新聞』2022年4月18日
- ・「さきたま抄」『埼玉新聞』2022年4月21日
- ・杉野孝「タワービル解体で再注目 北浦和公園の住宅カプセル」『埼玉新聞』2022年5月6日
- ・「浦和パルコと2美術館 芸術の秋地元で堪能 展示品紹介などコラボ」『毎日新聞』2022年10月14日
- ・「2美術館の歩み楽しんで」『東京新聞』2022年10月20日

<雑誌、ミニコミ誌等>

- ・「埼玉県立近代美術館」『PRIME』2022年4月
- ・「人生で一度は観たい、日本国内所蔵の名作30。」『アード プレミアム』2022年6月20日
- ・岡部昌幸「日本人が大好きな画家たちの名画」『日本でしか観られない世界の名画』2022年6月25日
- ・「中山道・浦和宿たてもの散歩」『アトムニュース』2022年6月
- ・「さいたまうつくし建物探訪」『ゆうゆう倶楽部』2022年10月
- ・「関東の美術館特集」『情報誌だいすき』2022年12月31日
- ・「駅カード」『JR東日本 小さな旅』2023年1月20日

- ・「おもな見どころ」『地球の歩き方 埼玉』2023年3月14日
- <テレビ、ラジオ>
- ・「浦和と大宮（出没！アド街ック天国）」『テレビ東京』2022年7月2日
- ・「遊んで学んで元気になれる！夏の浦和さんぽ（よじごじDays）」『テレビ東京』2022年7月11日
- <Web>
- ・「GWに行きたい、アート+新緑が楽しめるおすすめ美術館7選」『びあニュース』2022年4月27日
- ・「中銀カプセルタワービル解体中、じつは北浦和公園に同じカプセルが 再び注目 窓から室内を見ると」『Yahoo! ニュース』2022年5月6日
- ・「オリンピック会場などを巡るスタンプラリー」『TOKYO2020 レガシーミッション』2022年7月16日
- ・服部真史「建築に注目したい全国のミュージアム15選。日本を代表する建築家たちの傑作を巡る旅へ」『TOKYO ART BEAT』2022年7月30日
- ・「埼玉でおすすめの美術館【5選】芸術の秋はおしゃれに過ごそう♪」『埼玉日和』2022年9月1日
- ・「TELOPLAN VISITS The Museum of Modern Art, Saitama」『TELOPLAN』2022年9月28日
- ・「美術館告知」『Padograph』2023年1月18日

### ■担当後記

◆2022年7月にホームページのトップページのレイアウトを改善した。「新着情報」欄を追加し、バナーを類型化することで、利用者が知りたい情報及び利用者に知ってもらいたい情報へのアクセスが容易になった。

昨年度に引き続き、SNSで収蔵作品紹介（Twitter及びFacebookで週1回）や企画展の見どころ紹介（Twitterで会期中週3回程度）などを計画的に配信した。SNSを活用したサービスの提供が少しずつ定着してきたと感じる。（真中博行）

### ■刊行物

令和3年度版年報、令和4年度版要覧、令和5年度版ミュージアム・カレンダー、広報紙ソカロを刊行した。年報、要覧、広報紙ソカロはホームページでも閲覧できる。

## ■ 広報紙ソカロ

広報紙ソカロ (A3版2面・カラー印刷) を、2か月毎 (年6回、各10,000部) に編集・発行・配布した。



### ■ 2022年6-7月号 (#114 5月31日発行)

- ・「幻の画家」の実像を紐解く (佐伯綾希)
- ・さくねんのだまもの 2021年度新収蔵品紹介 (菊地真央)
- ・MUSEUM NEWS 2022.6 ▶ 2022.7
- ・MOMAS コレクション第1期 特集 孫雅由の小宇宙 (平野到)
- ・ミュージアム・ショップおすすめ商品「はじめてずかん どうぶつ1 / どうぶつ2」



### ■ 2022年10-11月号 (#116 9月30日発行)

- ・桃源郷通行許可証 (鳴原悠)
- ・研究ノート 吉田克朗の「表現」をめぐって (平野到)
- ・MUSEUM NEWS 2022.10 ▶ 2022.11
- ・美術館のこれまでとこれから 女性学芸員の視点から (大越久子、佐伯綾希)
- ・ミュージアム・ショップおすすめ商品「ハンカチ (Produced by D-BROS)」



### ■ 2022年8-9月号 (#115 7月31日発行)

- ・作品の「死」を考える (聞き手: 佐原しおり)
- ・田中保へのアプローチ — 大久保静雄・元学芸員インタビュー — (聞き手: 佐伯綾希)
- ・MUSEUM NEWS 2022.8 ▶ 2022.9
- ・どうぞよろしく! (聞き手: 五味良子)
- ・ミュージアム・ショップおすすめ商品「Fruit Soap (フルーツソープ)」



### ■ 2022年12-2023年1月号 (#117 11月30日発行)

- ・まるく／まわる (五味良子)
- ・サマー・アドベンチャー「カッコイイ緑をつくろう!」 (飯田淳乃)
- ・MUSEUM NEWS 2022.12 ▶ 2023.1
- ・コレクションノート ジョルジュ・ルオー《横向きのピエロ》1925年頃 (佐藤あゆか)
- ・ミュージアム・ショップおすすめ商品「うさぎのアクリルブローチと手鏡」



## ■図書資料の収集と公開

美術館活動を進める上で必要な、基礎的及び専門的資料を収集し、併せてこれを一般に公開することにより、県民が美術に親しみ、理解と鑑賞を深める機会を提供している。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、安全対策を十分に講じ、6月から開室日を週3日とし、資料閲覧室の収蔵資料を利用に供した。

### ■蔵書冊数一覧

#### ・一般書

分類	令和3年度まで	令和4年度	計	
購入	A 美術総記	2,473	0	2,473
	B 日本美術	2,717	3	2,720
	C 西洋美術	3,149	0	3,149
	D 東洋 その他の美術	186	0	186
	E 図録	898	0	898
	F 埼玉資料	263	6	269
	G 関係諸学	793	0	793
小計	10,479	9	10,488	
受贈 (一般図書・他館図録)	36,320	1,009	37,329	
合計	46,799	1,018	47,817	

#### ・美術雑誌（継続受入中のみ）

購入 20 タイトル（うち洋雑誌4タイトル）

受贈 447 タイトル

計 467 タイトル

・開室日数 141 日

・利用者数 831 人

・レファレンス受付件数 80 件

## ■椅子の美術館

約70種類所蔵しているグッド・デザインの椅子やアートな椅子を館内に配置して、入館者に鑑賞を楽しんでもらった。これらの椅子は、企画展やMOMASコレクションの展示替えに合わせて定期的に入れ替え、ホームページで紹介している。

なお、以前は常時30～40脚程度を館内各所に配置し、入館者は自由に座ることができたが、令和4年度現在も、新型コロナウイルス感染症対策のため、配置する椅子の数と種類を限定している。椅子に直接触れたり座ったりすることは当面の間不可となっているが、美術館の外側からも鑑賞できる場所に椅子を配置してその様子をSNSで発信するなど、椅子の鑑賞を楽しめるよう取り組んだ。

## ■ハイビジョン・コーナー

1階エントランスロビーでは、随時、企画展、収蔵品、椅子等の紹介映像を上映している。また今年度は、第4回となる公募展「カラダで・みる、うごいて・みる！」の優秀作品を上映し、公募展の周知を図ることができた。

# ■トピックス [1] ミュージアム・シアターの再開

今年度、ミュージアム・シアターが25年ぶりに復活した。このイベントは、展覧会の枠組みでは紹介が難しい映画、映像作品、パフォーマンス、ダンス、音楽といった時間芸術を取り上げるもので、より幅広いジャンルの芸術に触れる機会を提供することを目的としている。以前のミュージアム・シアターのコンセプトを引継ぎつつ、より企画性を重視した内容にアップデートし、年に1〜2回開催することになった。

試運転の要素も多く含みながらの開催となった今年度は、「ホラー映画とジェンダー／フェミニズム」というテーマを設け、ホラー映画2作品の上映および映画研究者による講演会を実施した。

令和4年度 埼玉県立近代美術館  
ミュージアム・シアター

ホラー映画とジェンダー／フェミニズム

開催期間：3月5日(日) 第1回：12:00-13:30 第2回：14:00-16:30  
3月6日(月) 第3回：10:30-13:30 第4回：13:00-17:00  
(第3回・第4回は開演の約1週間前、申込のうえ、上映日(講演会)を行います。)

会場：埼玉県立近代美術館 第1展示室  
定員：60名(各回入れ替え制、観覧料無料) 参加無料  
申込方法：当館ホームページからお申込みください。(先着順)  
上映作品：『悪魔のいけにえ』(1974) [第1回、第3回]  
『サスペリア』(2018) [第2回、第4回]  
※R15+指定作品です。15歳未満の方観覧できません。

講演会：鷲谷花(映画学・日本映像文化史研究)  
『ホラー映画のジェンダー論』(第4回上映後に行います)

お問い合わせ：埼玉県立近代美術館  
〒332-0201 さいたま市中央区大宮南1-1-1  
TEL: 048-824-4119  
email: p201111@pref.saitama.lg.jp

ミュージアム・シアター ちらし (A4表)

『サスペリア』  
(2018/イタリア、アメリカ/2020/日本) 上映

『悪魔のいけにえ』  
(1974/アメリカ/1983/アメリカ) 上映

ミュージアム・シアター ちらし (A4裏)

## ■担当後記

◆ホラー映画をテーマにしようと思いついたのは、映画研究者の鷲谷花氏の論考「恐怖のフェミニズム」を読んだことがきっかけだった。その論考には、ホラー映画とフェミニズムの関係性の変遷と複雑さについて記されており、たいへん興味深かった。

そもそもホラー映画は、その娯乐的／見世物的要素の強さから他と比較して軽視されがちであり、研究対象とされることの少ないジャンルであった。1980年代に、フェミニズム映画批評の研究者たちがホラー映画にはジェンダーについて検討すべき様々な視点が含まれていることを指摘して以来、ホラー映画はジェンダー論やフェミニズムと深く関わるものだという認識が徐々に広まり、ホラー映画を社会的な観点から学術的にとらえようとする動きが出てきてはいるものの、一般に浸透しているとは決して言えない。今回、ホラーとフェミニズムを主題に置くことで、ホラー映画についての新たな見方や解釈を参加者に提供することが可能になると考えた。

◆上映する映画は「恐怖のフェミニズム」を参考に決定した。スラッシャー映画の先駆的作品であり、その完成度の高さからニューヨーク近代美術館にマスターフィルムが保存されている『悪魔のいけにえ』(1974)、女性中心で物語が展開され、いたるところにフェミニスト・アートの引用が散りばめられた『サスペリア』(2018)の2本である。いずれも残虐な描写を含むR-15+指定作品であり、参加者を制限することなど懸念点もあったが、フェミニズムやホラーに関心を持つ若者や映画ファンが集まることを想定した。開催は2日間、上映は計4回、最終回の上映終了後には、鷲谷花氏による講演会を組み込んだ。当日の混雑を避けるため、参加申込はインターネットによる事前予約のみとした。

◆開催にあたり、最も苦戦したのがイベントの広報活動である。25年ぶりとなるとほとんど新規事業に近いため、イベントの存在を周知する必要があった。まずは広報担当と協力し、Twitterで積極的に情報発信を行った。さらに、簡易なチラシを手作りして館内各所に設置するほか、近隣のミニシアターや映像関連施設に連絡し、開催趣旨を説明した上でチラシの配架を依頼した。地道な作業であったが、多少の宣伝効果は得られたと思う。また、ミニシアター等の関係者とのつながりが生まれたことも収穫のひとつといえる。

◆3月5日の初日は上映のみであり、今回の開催の意図が参加者に伝わらない可能性があったため、配布資料

を用意した。「スラッシャー」「ファイナル・ガール」といったホラー映画を読み解くうえで重要なキーワードや参考文献などを紹介し、ホラー映画とジェンダーやフェミニズムの関係について考える手がかりとなるようにした。

◆鷲谷氏の講演会を含む回は非常に人気で、予約の時点で満員となり、当日も盛況となった。若い世代の参加者が多くなると予想していたが、10代から60代まで幅広い世代の人々が集まった。参加者の様子を見ていて印象的だったのは、ほとんどの人が映画のどのシーンでもしっかりとスクリーンを見つめていたことである。また、上映作品の内容が観客を選ぶタイプのものであることを考慮し、途中退室も可としたが、退室する方は極めて少なかった。中には、上映が長時間にわたるにもかかわらず、2作品の上映に連続で参加する方もいた。ホラー映画に強い関心を持った人たちが集まったのだと実感させられた。

◆第4回の終了後に行ったアンケートで、回答者全員が「(参加して)良かった」と回答していた。「たいへん興味深かった」「ホラー映画をこのような角度から観たことがなかった。また機会を設けてほしい」「とても面白く、勉強になった」といった好意的な声が多く寄せられ、参加者に良い刺激を与えることができたのではないと思う。ミュージアム・シアターは派手なイベントではないが、今後も地道にリサーチと実践を積み上げていくことで当館の重要な企画のひとつとなり得る。来年度以降も引き続き、参加者を惹きつけるような魅力ある企画を実施していきたい。(佐藤あゆか)

※開催情報は「ミュージアム・シアター」(p.63)を参照のこと。

## ホラー映画を読み解くキーワード

### ローラ・マルヴィ 「視覚的快楽と物語映画」

イギリスの代表的フェミニスト映画批評家ローラ・マルヴィが1975年に発表した論文。主流な物語映画(ハリウッド映画)が想定する観客は男性であり、映画のなかで男性が能動的なヒーローとしてアクションを起こすのに対し、女性は男性を羨まさせるエロティックな見世物としての役割を与えられていると指摘した。現在ではフェミニスト映画批評の古典となっているが、この論文が当時もたらした影響は非常に大きく、映画研究だけでなく美術批評や文芸批評にも波及が広がった。

### ファイナル・ガール

典型的なホラー映画に登場する、集団が殺人者や怪物によって次々と殺されるなか、最後まで生き残る若い女性のこと。映画研究者キャロル・クロウプナーが1992年刊行の著書『男性・女性・チェンソージ』において命名した。映画『悪魔のいけいけ』もスラッシャー映画に含まれる。そこに、既述の美的規範や制度、伝統的に女性に求められてきた理想的な身体像という挑戦的な読みが見られる。その一方、女性の身体を用いる以上、結果的に異性愛男性の視線の対象となり、既存の社会規範に回収されてしまうリスクをも伴っている。そして、フェミニスト・アートのお宝かもしれない映画は、ホラー映画におけるグロテスクさと無関係ではない。(参考:キャロリン・コスマイヤー「長野真子、石田美紀、伊藤政志訳『美学-ジェンダーの境点から』三元社、2009年)

### スラッシャー

ホラー映画のサブジャンルのひとつ。怪物的な連続殺人者が被害を次々と惨殺していく内容となっているのが特徴。『悪魔のいけいけ』もスラッシャー映画に含まれる。女性に殺されることと典型的な構図のスラッシャー映画は、第二フェミニズムが興隆した70年代、アメリカでポルノグラフィ反対運動に取り組んだフェミニストたちにより、「ポルノにごく近いジャンルである」として非難や抗議の対象となった。

### 「正常さがモンスターによって脅かされている」

映画批評家ロビン・ウッドが提示した、アメリカのホラー映画の基本的な図式。これはあまりに単純なもので、何を当たり前のことを、と思われながらももしれないが、ウッドの言うところの「正常さ」とは、「支配的な社会規範に順応している」ことである。ウッドによれば、ホラー映画におけるモンスターとは社会が我々に対し抑圧しているものが「憎むべき他者」として出現したものであり、またホラー映画におけるハッピーエンドとは「抑圧の体系が覆元され」、因習的な秩序が破壊してしまうことを示す。

### フェミニスト・アートと「おぞましき」

70年代から80年代に欧米で興隆したフェミニスト・アート。その表現形式はさまざまであるが、自分自身の身体を用い、伝統的にタブー視されてきた身体のおぞましきや不気味さを意図的に表出させるパフォーマンスなどが多く含まれる。そこに、既述の美的規範や制度、伝統的に女性に求められてきた理想的な身体像という挑戦的な読みが見られる。その一方、女性の身体を用いる以上、結果的に異性愛男性の視線の対象となり、既存の社会規範に回収されてしまうリスクをも伴っている。そして、フェミニスト・アートのお宝かもしれない映画は、ホラー映画におけるグロテスクさと無関係ではない。(参考:キャロリン・コスマイヤー「長野真子、石田美紀、伊藤政志訳『美学-ジェンダーの境点から』三元社、2009年)

## ホラー映画とジェンダー／フェミニズムを考えるための文献案内

### ①鷲谷花「娘とホモソーシャル 半信半疑のフェミニズム映画批評」(青土社、2022年)

本イベントの読者である映画研究者・鷲谷花氏による映画批評論集。どの批評もフェミニズムの視点から語られているが、ひとつの映画を単に「フェミニスト的か否か」の二元論で批評するのはなく、複雑に絡み合うフェミニズムにまつわる問題を考えながらもまた「半信半疑」で読み解いていくのが特徴。映画『サスペリア』『レディタリーヌ』(継承)における女性表象に注目した第7章「恐怖のフェミニズム」は必読。

### ②ロビン・ウッド「アメリカのホラー映画 序説」(1979)

藤原敏史(「新」映画理論集1) 若本常規、斉藤綾子、武田深瀬、フィルムアート社、1998年)

フロイトの精神分析理論(主に「抑圧」理論)をベースに、単なる娯楽映画とらえられていた(アメリカの)ホラー映画の本質について分析した先駆的なホラー映画論。「ホラーのジャンルの真の主題は、我々の文明が抑圧し、あるいは圧迫しているものすべてを認識することだといえるかもしれない」というウッドの鮮烈な考察は、その後のフェミニスト映画批評の文脈にもつながるものと言える。

### ③内田樹「映画の構造分析 ハリウッド映画で学べる現代思想」(文春文庫、2011年)

タイトルにあるように、「映画の知識を駆使した現代思想の入門書」であり、映画作品を素材にフロイトやラカン、バルトの思想を学ぶ本である。そのため映画を分析するものではないが、本書の第1章ではSFホラー映画『エイリアン』が取り上げられ、その物語の構造に潜むフェミニストの主題について紹介されている。また、ハリウッド映画におけるミソジニー(女性嫌悪)象徴を著者独自の視点で分析・考察した第3章「アメリカン・ミソジニー」も印象に残っている。

### ④「早稲田文学2021年秋号 特集：ホラーのリアリティ」(筑摩書房、2021年)

文芸雑誌「早稲田文学」のホラー特集号。怪談からホラーゲーム、お化け屋敷、幽霊屋など多様なジャンルのホラーについての論考が多数収録されている。鷲谷花氏の論考「ホラー映画を作る/見る女性の視線と『ジェニファーズ・ボディ』(2009)」も所収。

### ⑤Horror Film Experts Take on Slashers, the “Final Girl,” and Representation | HOWTO SEE (MoMA公式YouTubeチャンネル)

MoMA(ニューヨーク近代美術館)が公式YouTubeチャンネルで公開している動画「HOWTO SEE」シリーズのホラー映画特集。スラッシャー映画におけるファイナル・ガールの表象について、映画研究者たちが解説をする内容で、有名ホラー映画の場面映像を見ながら手紙に学ぶことができる。ファイナル・ガールがほとんどの場合「白人の」若い女性として描かれていることや、アメリカ文学におけるインディアンに因りた白人女性の物語との関連についての指摘が興味深い。

★①、②、④は当館ミュージアム・ショップでお買い求めいただけます。ぜひご覧ください!★

---

## ■トピックス [2]

### SMF との連携

2008年から2012年にかけて、文化庁のモデル事業・補助事業として、地域と共働したアートプログラムやアウトリーチ活動を展開する事業を実施したが、その成果を継承し2013年にサイタマミュージズフォーラム（SMF / Saitama Muse Forum）が発足した。現在は、人間市博物館、うらわ美術館、川越市立美術館、埼玉県立近代美術館といった県内各地の公立ミュージアムがSMFとゆるやかに連携し、情報交換や連携事業などを行っている。連携館との関係の見直しが今後の課題となっている。なお、令和4年度の当館との共催事業は以下の通りである。

・「TAKARABUNE2023 夢のかげらをくもにまく」  
2023年3月15日～3月19日 / 一般展示室1 / 共催：  
埼玉県立近代美術館 / 来場者：717人

※ SMFの趣旨・これまでの活動等については、SMFホームページ <http://www.artplatform.jp> を参照のこと。

## ■埼玉県立近代美術館フレンド

埼玉県立近代美術館フレンドは、会員が当館の情報を直接受け取ることで美術館活動に積極的に参加し、また会員相互の交流を深め、美術館活動を支援することを目的としている。略称：ファミス（fam.s=friends of art museum, saitama）。

### ■会員数

374 件（令和 5 年 3 月 31 日現在）

内訳：一般会員 228 名、ペア会員 50 名、学生会員 7 名、家族会員 43 家族（134 名）、賛助会員（個人）14 名、賛助会員（法人）13 団体、特別賛助会員 19 団体

### ■活動内容

#### 1. 企画委員会

①「ファミス会員限定講演会」を広報委員会と共催／5 月 8 日（日）

②ギャラリー・トークの開催

・9 月 5 日（月）／2 階展示室／企画展「田中保とその時代」の担当学芸員による解説／参加者：15 名（会員限定）

・12 月 19 日（月）／2 階展示室／企画展「桃源郷通行許可証」の担当学芸員による解説／参加者：22 名（会員限定）

#### 2. 広報委員会

①『ファミス通信』第 47 号の発行（5 月）

②『ファミス通信』第 48 号の発行（11 月）

③ファミス会員限定講演会の開催

テーマ：「中銀カプセルタワービル」について

開催日時：5 月 8 日（日）14：00～16：00

実施場所：講堂および北浦和公園内中銀カプセル周辺

講師：前田達之氏（「中銀カプセルタワービル」の保存・再生プロジェクト代表）、前田とまき氏（居住経験者）

参加者数：19 名

#### 3. ミュージアム・ショップ運営委員会

①浦和パルコとのコラボレーション「出張ミュージアム SHOP」

開催日：10 月 7 日（金）～23 日（日）

実施場所：浦和パルコ特設会場

実施内容：ポストカードやクリアファイル、「埼玉県立近代美術館×浦和パルコ オリジナルトートバッグ」な

どを販売。なお、バッグは 10 月 24 日以降、ミュージアム・ショップにて取り扱っている。

②サマーセールの実施／8 月 2 日（火）～8 月 31 日（水）

### 4. 事務局

①『令和 3 年度フレンド年報』の発行（7 月）

②館内の広報強化

③会員限定ギャラリー・トークの開催（9 月 5 日、12 月 19 日）※企画委員会と共催

### ■担当後記

◆今年度はギャラリー・トークを 2 回開催することができた。次年度は、例年開催していた事業を再開し、新しい企画も取り入れて美術館活動に貢献したい。

（事務局・野口恵子）

### ■埼玉県立近代美術館フレンド役員名簿

令和 5 年 3 月 31 日現在

氏名	現職等	備考
清水 武司	秩父地域利用者 写真家	会長
武島 裕	秩父地域利用者	副会長
丸山 晃	県西地域利用者 (株)埼玉新聞社 相談役	
小林 真	秩父地域利用者 デザイナー (株)コア 代表	
滝沢 布沙	県北地域利用者 染色家	
水野 晶子	県南地域利用者	ミュージアム・ ショップ 運営委員長
依田 衣恵	県南地域利用者	企画委員
島田 厚	県南地域利用者 (株)テレビ埼玉常務取締役	
秋本 圭美	県南地域利用者	広報委員長
根岸 和美	秩父地域利用者	
遠藤 俊明	東部地域利用者	監事

## ■ 貸館事業

当館地階には県内の美術団体や美術家の作品発表の場として、一般展示室1～4が設けられている。この一般展示室が、美術館の目的や運営方針にふさわしい利用に供されるよう利用申込みについて審査するため、埼玉県立近代美術館利用審査会が設置されている。

また、集会などの会場として講堂を貸し出している。令和4年度の一般展示室の利用状況は次表のとおりで、団体展、グループ展、個展などの形態で、日本画、洋画、彫塑、現代美術、書、写真などさまざまな分野の作品が展示された。

### 一般展示室

- ・利用単位：1週間(月曜日の午後1時～翌週月曜日正午)。連続の場合は最長3週間。
- ・使用料(1週間当たり)：  
一般展示室1—238,700円、2—92,400円、3—53,900円、4—30,800円

### 講堂

- ・利用単位：1時間
- ・使用料：1時間当たり2,200円

## ■ 一般展示室利用状況

No.	展覧会名	開催期間 R4年度		開催日数(日)	利用室	分野	展示点数(点)	観覧者数(人)	一日平均観覧者数(人)
		自	至						
1	第50回記念主体美術武蔵野作家展	4月5日	4月10日	6	2・3	油彩	89	562	93
2	第35回漢水会展	4月5日	4月10日	6	4	日本画、水彩、油彩、書、水墨画	59	561	93
3	第37回さいたま閣秀展	4月12日	4月17日	6	1	書	51	563	93
4	第8回栗田ひさし・梨伽の絵画二人展	4月12日	4月17日	6	3	日本画、水彩、水墨画	55	510	85
5	第14回彩ボタニカルアート展	4月12日	4月17日	6	4	水彩	48	578	96
6	第16回フォト・トルトゥーガ写真展	4月19日	4月24日	6	2	写真	50	483	80
7	2022阿佐見昭彦写真展 記憶する眼 II	4月19日	4月24日	6	3	写真	38	504	84
8	創立45周年記念 埼玉女流工芸展	4月28日	5月1日	4	1	工芸	155	1,144	286
9	現代中国芸術国際交流展第4回目	4月25日	5月1日	6	2・3	日本画、水彩、油彩、書	40	466	77
10	第11回五彩展	4月25日	5月1日	6	4	水彩、油彩、コラージュ	60	778	129
11	第24回埼玉二科展	5月2日	5月7日	6	1～4	油彩、彫刻、デザイン	97	1,198	199
12	第70回記念埼玉県美術展覧会	6月1日	6月23日	20	1～4	日本画、油彩、彫刻、工芸、書、写真	1,961	23,104	1,004
13	第41回埼玉県高等学校写真連盟写真展	7月6日	7月10日	5	1	写真	495	1,011	202
14	第27回基の会展	7月5日	7月10日	6	2	油彩	27	314	52
15	思い出の作品展(若柳 佳子)	7月5日	7月10日	6	4	油彩、彫刻	46	312	52
16	第20回記念埼玉独立展	7月12日	7月17日	6	1～3	油彩	60	661	110
17	第1回エスポワール絵画展	7月12日	7月17日	6	4	水彩	38	635	105
18	第48回埼玉二紀展	7月19日	7月24日	6	1～4	油彩、彫刻	130	867	144
19	第16回公募書〈縁en〉展・3人書展 一良寛を語る—保坂春翔、中山信龍、作村光風	7月26日	7月31日	6	1～4	書	330	631	105
20	第31回旺玄会埼玉支部展	8月2日	8月7日	6	2～4	日本画、水彩、油彩、版画、アクリル	80	464	77
21	第56回埼玉平和美術展	8月9日	8月14日	6	1～4	水彩、油彩、版画、彫刻、 インスタレーション	331	1,278	213
22	廻／帰 ネモトサトコ、大喜多瞳子二人展	8月16日	8月28日	10	4	油彩、ドローイング、アクリル	16	962	96
23	墨芳誌800号記念 第34回墨芳展	8月24日	8月28日	5	1・3	書	111	664	132
24	第7回現代アート実験02展	8月23日	8月28日	6	2	油彩、ドローイング、版画、書、 ミクストメディア	50	544	90
25	キルトリーダーズ埼玉 パッチワークキルト作品展2022	8月30日	9月4日	6	1	パッチワークキルト	306	800	133
26	2022モダンアート展	8月30日	9月4日	6	2・3	水彩、油彩、版画、彫刻	29	593	98

No.	展 覧 会 名	開催期間 R4 年度		開催 日数 (日)	利用室	分 野	展示 点数 (点)	観覧 者数 (人)	一日平均 観覧者数 (人)
		自	至						
27	ヨシズミ トシオ展	8月30日	9月11日	12	4	油彩、版画、水墨画	48	1,031	85
28	第60回記念新構造埼玉展	9月6日	9月11日	6	1	水彩、油彩、彫刻、写真	84	782	130
29	第12回関口健司展	9月6日	9月11日	6	2	水彩	21	368	61
30	第12回ニコールクラブさいたま支部写真展	9月6日	9月11日	6	3	写真	65	536	89
31	第65回記念埼玉書道展	9月16日	9月18日	3	1~4	書	757	1,100	366
32	第35回埼玉創元展(公募)	9月20日	9月25日	6	1	日本画、水彩、油彩、版画	63	732	122
33	第30回工芸新樹会公募展	9月20日	9月25日	6	2	工芸	47	529	88
34	フォトグループ WAVE 第36回写真展	9月20日	9月25日	6	3	写真	91	643	107
35	一蓮托生展 付 鴻雁	9月20日	9月25日	6	4	油彩、アクリル	37	602	100
36	第39回埼玉県写真サロン	9月27日	10月2日	6	1	写真	390	1,089	181
37	第14回フォトサークル・オプト写真展	9月27日	10月2日	6	2	写真	229	1,024	170
38	第40回キャンノンフォトクラブ浦和写真展	9月27日	10月2日	6	3	写真	38	719	119
39	第26回西遊会美術展	9月27日	10月2日	6	4	水彩、油彩、版画	50	582	97
40	第54回第一美術協会埼玉支部展	10月4日	10月9日	6	1	日本画、水彩、油彩、版画	182	1,086	181
41	第55回埼玉三軌展	10月4日	10月9日	6	2・3	日本画、水彩、油彩	57	562	93
42	第36回渓水会展	10月4日	10月9日	6	4	日本画、水彩、油彩、書、水墨画	43	566	94
43	第18回水彩連盟西支部展	10月11日	10月16日	6	1	水彩	50	702	117
44	第21回美術協会純展・埼玉支部展	10月11日	10月16日	6	2	水彩、油彩、ペン画	40	602	100
45	第37回アート現宇	10月11日	10月16日	6	3	油彩、アクリル	28	458	76
46	2022 橡の会 三人展	10月11日	10月16日	6	4	日本画、水彩、油彩、ドローイング	51	537	89
47	第6回公募 ZEN 展	10月18日	10月23日	6	1	日本画、水彩、油彩、ドローイング、イラスト	195	975	162
48	第23回地平展	10月18日	10月23日	6	2	日本画、水彩、油彩、ドローイング、インスタレーション	55	582	97
49	截金工芸展(町田 筑泉)	10月18日	10月23日	6	3	工芸	100	369	61
50	全日本写真連盟 浦和支部写真展	10月18日	10月23日	6	4	写真	43	525	87
51	第43回太平洋埼玉展	10月25日	10月30日	6	1	水彩、油彩、版画、染織	87	815	135
52	第15回悠友展	10月25日	10月30日	6	2・3	水彩、油彩	42	673	112
53	むさしの木彫会第三回展 祈りのかたち仏像彫刻展	10月25日	10月30日	6	4	彫刻	58	756	126
54	2022CAF ネビュラ展	11月2日	11月13日	11	1~4	日本画、水彩、油彩、版画、インスタレーション	91	3,030	275
55	第61回埼玉県高等学校書道展覧会	11月16日	11月20日	5	1~4	書	673	984	196
56	第65回埼玉県高校美術展	11月23日	11月27日	5	1~4	日本画、水彩、油彩、ドローイング、映像メディア	797	2,608	521
57	Sound Collection ~音を感じる写真展~ (長田 広恵)	11月29日	12月4日	6	4	写真	37	436	72
58	第13回埼玉県障害者アート企画展	12月7日	12月11日	5	1・2	日本画、水彩、油彩、ドローイング、版画	700	1,260	252
59	旅の記憶(野口 泰久展)	12月6日	12月11日	6	4	写真	45	453	75
60	第56回全日本書道芸術院	12月13日	12月18日	6	1・2	書	220	371	61
61	北直人個展 TOTEM	12月13日	12月18日	6	3	インスタレーション	35	128	21
62	第57回「郷土を描く児童生徒美術展」	12月24日	12月25日	2	1~4	水彩	120	636	318
63	第25回記念 凜の会展	1月10日	1月15日	6	1~4	日本画、水彩、油彩、彫刻	162	586	97
64	文教大学教育学部学校教育課程美術専修 卒業制作展	1月24日	1月29日	6	1	日本画、水彩、油彩、ドローイング	123	589	98
65	COLOR(鶴巻 真由実)	1月24日	1月29日	6	3	水彩、油彩、ドローイング、書	64	480	80
66	文教大学美術専修 OB・OG 展	1月24日	1月29日	6	4	日本画、水彩、油彩、彫刻、デジタル画	19	423	70

No	展覧会名	開催期間 R4 年度		開催 日数 (日)	利用室	分野	展示 点数 (点)	観覧 者数 (人)	一日平均 観覧者数 (人)
		自	至						
67	第46回埼玉国展	1月31日	2月5日	6	1	油彩、写真	66	654	109
68	第42回野美展	1月31日	2月5日	6	2	日本画、水彩、油彩	61	690	115
69	令和4年 埼玉県立美術系高等学校 作品展・卒業制作展	2月8日	2月12日	5	1～4	日本画、水彩、油彩、ドローイング、 ミクストメディア	800	1,725	345
70	令和4年度 第63回埼玉県小・中学校等児童 生徒美術展 第15回中央展	2月18日	2月19日	2	1	水彩、版画、彫刻、工芸	100	903	451
71	令和4年度 埼玉大学教育学部図画工作・ 芸術分野 卒業制作展	2月14日	2月19日	6	2～4	油彩、ドローイング、彫刻、 視覚伝達デザイン	442	1,649	274
72	山田 郁子展	2月21日	2月26日	6	1	油彩	70	938	156
73	女子美術大学同窓会埼玉支部作品展 「第14回 彩の会」	2月21日	2月26日	6	2～4	日本画、水彩、油彩、ドローイング、版画	86	1,149	191
74	第19回ネーチャーフォト支部写真展	2月28日	3月5日	6	4	写真	72	566	94
75	第48回埼玉書道三十人展	3月7日	3月12日	6	1	書	44	1,739	289
76	第46回埼玉現展	3月7日	3月12日	6	3・4	日本画、水彩、油彩、写真、CGデザイン	80	933	155
77	夢のかけらをくもにまく TAKARABUNE2023	3月15日	3月19日	5	1	アート全般	205	717	143
78	第10回植物画の会作品展	3月14日	3月19日	6	2	水彩	200	1,395	232
79	第12回五彩展	3月14日	3月19日	6	3	油彩、和紙、コラージュ	38	659	109
80	立体的写真の世界（桃井 照直）	3月14日	3月19日	6	4	写真	46	510	85
81	第28回彩の国さいたまきりえ展	3月21日	3月26日	6	2	きりえ	73	1,094	182
82	第7回ポローニア展	3月21日	3月26日	6	3	油彩、工芸、パステル画	34	604	100
83	彩の国写真倶楽部第18回展	3月21日	3月26日	6	4	写真	45	766	127
84	加藤 義雄展	3月28日	4月2日	6	2・3	水彩、油彩、ドローイング	405	913	152
85	神保ふみえ・安原竹夫展	3月28日	4月2日	6	4	水彩、油彩、工芸	42	619	103

## ■令和4年度入館者数一覧

	入館者数	展 示 事 業					
		MOMAS コレクション	企 画 展 示				
			開館40周年 記念展	田中保と その時代	桃源郷通行 許可証	戸谷成雄 彫刻	企画展計
開催期間	4/1(金) ～ 3/31(金)	4/1(金) ～ 3/31(金)	4/1(金) ～ 5/15(日)	7/16(土) ～ 10/2(日)	10/22(土) ～ 1/29(日)	2/25(土) ～ 3/31(金)	
(日) 日 数	307	292	40	71	81	30	222
(人) 観覧者数 利用者数	149,572	31,680	4,550	9,924	6,825	2,579	23,878
(人) 1日当た り平均	487	108	113	139	84	85	107
有 料	一般個人	8,401	2,209	5,413	2,617	1,217	11,456
	一般団体	1,326	236	505	207	104	1,052
	大高個人	912	214	286	222	113	835
	大高団体	59	8	15	6	5	34
	(人) 合 計	10,698	2,667	6,219	3,052	1,439	13,377
無 料	—	20,982	1,883	3,705	3,773	1,140	10,501

	普 及 事 業				貸 館 事 業	
	企画展 関連	MOMAS コレクション 関連	教育・普及 関連	資料閲覧室	一 般 展示室	埼玉県美術 展覧会
開催期間	9/10(土) ほか		4/9(土) ほか	4/1(金) ～ 3/31(金)	4/5(火) ～ 4/2(日)	6/1(水) ～ 6/23(木)
(日) 日 数	18	—	54	141	237	20
(人) 観覧者数 利用者数	619	—	910	831	66,235	23,104
(人) 1日当た り平均	34		16	5	328	1,155
有 料	一般個人	—	—	—	—	—
	一般団体	—	—	—	—	—
	大高個人	—	—	—	—	—
	大高団体	—	—	—	—	—
	(人) 合 計	—	—	—	—	—
無 料	—	—	—	—	—	—

### 月別入館者数

月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
(人) 入館者数	10,567	11,072	26,596	9,018	9,796	13,945	13,157	13,807	6,961	8,338	11,470	14,845	149,572

## ■名簿

### ■埼玉県立近代美術館協議会委員

令和5年3月31日現在

選出区分	氏名	現職
学校教育関係者	下野戸 陽子	埼玉縣市町村教育委員会連合会理事 本庄市教育委員会教育長
	勝山 寛美	埼玉県美術教育連盟連盟長 上里町立上里中学校長
社会教育関係者	相馬 千秋	NPO 法人芸術公社 代表理事 東京藝術大学大学院美術研究科准教授
	松岡 滋	埼玉県美術家協会会長 洋画家
家庭教育関係者	岡野 啓子	埼玉県家庭教育振興協議会理事
学識経験者	青木 聖吾	美術家
	井口 壽乃	埼玉大学大学院教授
	近藤 博英	NHK さいたま放送局副局長
	關谷 宏之	武蔵野銀行地域サポート部長
	樋口 昌樹	資生堂 BEAUTYSQUARE ショップディレクター
	三上 豊	東京文化財研究所客員研究員
	山田 志麻子	うらわ美術館学芸員

### ■埼玉県立近代美術館資料選考評価委員会委員

令和5年3月31日現在

氏名	現職	任期
滝沢 恭司	町田市立国際版画美術館 担当課長兼学芸係長	R3.6.7 ~ R5.6.6
山本 和弘	栃木県立美術館 主任研究員	R3.6.7 ~ R5.6.6
野地 耕一郎	泉屋博古館東京 館長兼東京学芸課長	R3.6.7 ~ R5.6.6
山梨 俊夫	地方独立行政法人大阪市 博物館機構理事	R3.6.7 ~ R5.6.6
樋田 豊次郎	美術史家	R3.6.7 ~ R5.6.6

### ■埼玉県立近代美術館利用審査会委員

令和5年3月31日現在

氏名	現職	任期
飯野 一朗	彫金作家 東京藝術大学名誉教授	R5.1.15 ~ R7.1.14
栗崎 浩一路	書家 熊谷市美術家協会顧問	R5.1.15 ~ R7.1.14
小澤 基弘	洋画家 埼玉大学教育学部教授	R5.1.15 ~ R7.1.14
吉武 研司	洋画家 独立美術協会会員	R5.1.15 ~ R7.1.14
内藤 五瑠	日本画家 日本美術院特待	R5.1.15 ~ R7.1.14
林 喜一	写真家 全日本写真連盟監事	R5.1.15 ~ R7.1.14
松本 光司	埼玉県教育局 文化資源課長	R5.1.15 ~ R7.1.14

### ■埼玉県立近代美術館職員

令和5年3月31日現在

担当	職名	氏名
総務、管理担当 総務担当	館長	建畠 哲
	副館長	中村 幸太郎
	教育主幹	芋川 修
	担当課長	田中 孝佳
	主任	山村 あゆみ
管理担当	主事	壽原 駿太郎
	主事	松本 麻美
	会計年度任用職員	福田 紘顯
	担当課長	亀山 純史
	主任	角田 守
企画展、教育・広報、 常設展・収藏品担当 企画展担当	主任	福島 良
	学芸主幹	平野 到
	学芸員	吉岡 知子
	学芸員	嶋原 悠
	学芸員	菊地 真央
教育・広報担当	学芸員	佐伯 綾希
	会計年度任用職員	松江 李穂
	担当課長	平井 良子
	主任	真中 博行
	主任専門員 兼学芸員	飯田 淳乃 大越 久子
常設展・収藏品担当	学芸員	篠原 優
	会計年度任用職員	溝井 若菜
	学芸員	五味 良子
	学芸員	佐原 しおり
	学芸員	佐藤 あゆか
	会計年度任用職員	河崎 洋



埼玉県立近代美術館年報 [令和 4 年度]

発 行 : 埼玉県立近代美術館

〒 330-0061 さいたま市浦和区常盤 9-30-1

電話 : 048-824-0111 (代) / ファクス : 048-824-0119 (代)

<https://pref.spec.ed.jp/momas/>

発行日 : 令和 5 年 9 月 6 日